

# 研究 紀要

## 宇都宮短期大学音楽科研究紀要 第29号

---

### 作 品

〈伝えたい音〉

～ヴァイオリンとピアノのための小品～ ……阿久澤 政 行 …… 1

県内唯一の邦楽科を擁する宇都宮短期大学邦楽科講師による

伝統を未来へ繋ぐ為の小品「八咫鳥」について ……福 田 智久山 ……13

### 翻 訳

ドニゼッティ作曲 歌劇《マリア・デルーデンツ》対訳 ……杉 山 正 明 ……23

### 研究ノート

音楽科におけるICTの活用実践の工夫 ……益 子 徹 ……49

スペイン歌曲の歴史と魅力 ……鎌 田 亮 子 ……55

サン=サーンスの研究 ……坪 山 恵 子 ……63

ピアノ新時代を迎えて〈言葉が求められる時代の演奏〉

～ドイツ国家演奏家資格取得から

25年の活動を振り返って～ ……田 島 恵 理 ……73

---

特別演奏会記録

2022年 3 月

# 《伝えたい音》

## ～ヴァイオリンとピアノのための小品～

Tsutaetai oto

– Works for violin and piano –

阿久澤 政行

### 創作ノート

2019年3月に宇都宮短期大学音楽科研究紀要作品として発表した作品《練習曲 作品01-彩-》において、ジャズ風なサウンドとリズムを特徴としたピアノ独奏曲として、幅広い演奏スタイルを表現するための練習曲として活用できるよう作曲した。本作品《伝えたい音》では、前作に引き続きピアノによるジャズ風なコード進行を使用した箇所を一部取り入れた。

本作品は、新型コロナウイルスの影響により、国内での様々なイベントが自粛を余儀なくされた期間であった2020年9月頃に作曲(初校)した作品である。昨今の状況下、動画配信を媒体とした新たな演奏表現を学ぶ一方で、演奏家に求められる役割そして音楽のもたらす可能性とは何なのかについて深く考えさせられた。この作品では、曲名にも記した通り多くの方に少しでも心の潤いとなるよう願いを込め、《伝えたい音》と名付けた。

《伝えたい音》は、ヴァイオリンとピアノによる小品として作曲し、Re-Mi-Fa#-So-Laという旋律を主題とし、この主題は曲中に多く登場する。冒頭でのピアノ独奏部分は、ピアノの高音域を使用したトリルから始まり、奏者には願いを込める各々の様子をイメージして演奏してほしい。その後、ヴァイオリンによるテーマが5小節目から登場し、ピアノが応答するような構成で作曲した。

第2主題となる29小節目からは、混沌とした生活感から生まれる多くの悩みをg-mollで表現している。そして第3主題となる46小節目からは、第2主題である混沌とした生活感への怒りが爆発するかのような、情熱的な演奏をしてほしい。70小節目からは、第3テーマを終えて空虚となった心をイメージして演奏してほしい。

再現部となる94小節目からは、ヴァイオリンとピアノが主題を紡ぎながら、新たな希望と与えられた命への感謝と祈りを込め、壮大な演奏で締めくくってほしい。

私の故郷栃木県では、2020年9月12日、新型コロナウイルスの影響で音楽活動の機会が減少する中、若手アーティストの活動を支援するとともに、県民の皆様に心の癒やしと元気をお届けすることを目的として実施された、栃木県主催による「とちぎの若手アーティスト集まれ！ Webコンサート」(無観客ライブ無料配信)が開催された。

多くのアーティストとともに私もDuo Akuzawaとして、ヴァイオリニストの打保早紀氏と共演した際、本稿の初校版となる《伝えたい音》を演奏した。その後、幾つかの校訂を行い、本研究紀要作品にて完成版とする。

本作品が、多くの奏者によって演奏されることを願い、本稿での創作ノートとする。

阿久澤 政行



←「とちぎの若手アーティスト集まれ！ Webコンサート」QRコード

一曲目：コダーイ作曲《アダージョ》、二曲目：阿久澤政行作曲《伝えたい音》

Score

# 伝えたい音

## ヴァイオリンとピアノのための小品

Tsutaetai oto

~Works for violin and piano~

阿久澤 政行

**Adagietto** 語りかけるように

The musical score is written for Violin and Piano. It begins with a key signature of one sharp (F#) and a time signature of 6/8. The tempo is marked **Adagietto** with the instruction "語りかけるように" (as if speaking). The score is divided into four systems, each containing a Violin (Vln.) and Piano (Pno.) part. The first system (measures 1-4) features a piano introduction with a *tr* (trill) and *sva* (sforzando) marking. The second system (measures 5-8) includes a *mp* (mezzo-piano) marking and *sva* markings. The third system (measures 9-11) continues the melodic and harmonic development. The fourth system (measures 12-15) features a *p* (piano) marking and a triplet of eighth notes in the piano part. The score concludes with a final measure in the fourth system.

©

伝えたい音

15

Vln.

Pno.

*mf*

18

Vln.

Pno.

*p*

21

Vln.

Pno.

*mf*, *mp*, *mf*

5

25

Vln.

Pno.

*f*, *mf*

伝えたい音

28 混沌とした生活感から生まれる悩み pizz. *mf*

Vln.

Pno.

32 *mf* *mf* *f*

Vln.

Pno.

36 arco *mp*

Vln.

Pno.

40

Vln.

Pno.

伝えたい音

43

Vln.

Pno.

勢いを持って

**Allegro** はっきりと、感情豊かに

45

Vln.

Pno.

*mf*

*ff*

47

Vln.

Pno.

50

Vln.

Pno.

伝えたい音

Vln. 52

Pno. 52 *mp*

Vln. 54

Pno. 54 *ff*

Vln. 57

Pno. 57

Vln. 60

Pno. 60 *mp*

伝えたい音

62 力強く

Vln.

Pno.

*ff*

Violin part: Measures 62-64, whole notes. Piano part: Measures 62-64, complex texture with chords and a bass line. Dynamics include *ff*.

65

Vln.

Pno.

Violin part: Measures 65-67, melodic line with a triplet. Piano part: Measures 65-67, complex texture. Dynamics include *ff*.

68

Vln.

Pno.

*risoluto*

*mf*

Violin part: Measures 68-70, melodic line with a triplet. Piano part: Measures 68-70, rhythmic pattern. Dynamics include *mf* and *risoluto*.

70 空虚な心

Vln.

Pno.

*mp*

Violin part: Measures 70-73, melodic line with triplets. Piano part: Measures 70-73, complex texture with chords and a bass line. Dynamics include *mp*.



伝えたい音

74

Vln.

Pno.

sva

77

Vln.

Pno.

sva

p

語りかけるように

80

Vln.

Pno.

pp

83

Vln.

Pno.

伝えたい音

86

Vln.

Pno.

Musical score for measures 86-88. The Violin part (Vln.) has a melodic line starting with a quarter rest, followed by a quarter note G4, a quarter note A4, a quarter note B4, and a quarter note C5, all under a slur. The Piano part (Pno.) has chords in the right hand and single notes in the left hand. Measure 87 features triplets in both hands. Measure 88 has a final chord in the right hand and a single note in the left hand.

89

Vln.

Pno.

Musical score for measures 89-91. The Violin part (Vln.) has a melodic line with a quarter note G4, a quarter note A4, a quarter note B4, and a quarter note C5, with triplets in measures 90 and 91. The Piano part (Pno.) has chords in the right hand and single notes in the left hand. Measure 90 features triplets in both hands. Measure 91 has a final chord in the right hand and a single note in the left hand. The dynamic marking *mf* is present in measure 90.

92

Vln.

Pno.

**Adagietto** 新たな希望を持って

Musical score for measures 92-94. The Violin part (Vln.) has a melodic line starting with a quarter rest, followed by a quarter note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4. The Piano part (Pno.) has chords in the right hand and single notes in the left hand. Measure 92 features a triplet in the right hand. Measure 93 has a final chord in the right hand and a single note in the left hand. The dynamic marking *mf* and the instruction *tr* are present in measure 93. The tempo marking **Adagietto** and the Japanese text "新たな希望を持って" are present in measure 94.

95

Vln.

Pno.

Musical score for measures 95-97. The Violin part (Vln.) has a melodic line starting with a quarter rest, followed by a quarter note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4. The Piano part (Pno.) has chords in the right hand and single notes in the left hand. Measure 95 features a triplet in the right hand. Measure 96 has a final chord in the right hand and a single note in the left hand. The dynamic marking *mf* and the instruction *tr* are present in measure 95. The tempo marking **Adagietto** and the Japanese text "新たな希望を持って" are present in measure 97.

伝えたい音

99

Vln.

Pno.

*p*

*sva*

102

Vln.

Pno.

*sva*

105

Vln.

Pno.

*mp*

*sva*

*pp*

108

Vln.

Pno.

*sva*

伝えたい音

111

Vln.

Pno.

114

Vln.

Pno.

*mf*

117

Vln.

Pno.

*accelerando* 祈りを込めて

伝えたい音

120

Vln.

Pno.

123

Vln.

Pno.

*più mosso*

*sva*

126

Vln.

Pno.

*ritenuto*

*sva*

*ff*

*mp*

*p*

*pizz.*

# 県内唯一の邦楽科を擁する宇都宮短期大学邦楽科講師による 伝統を未来へ繋ぐ為の小品「八咫鳥」について

About the small piece "Yatagarasu" to connect the tradition to the future by the lecturer of the Japanese music department of Utsunomiya Junior College, which has the only Japanese music department in the prefecture

福田 智久山

## はじめに

今年で学校教育の一端に関与させて頂き、丁度二十年目を迎えた。勿論、始めた当初は少しだけであった仕事も暫くすると今と同じ程のものとなっていて、年間約40校、述べ6000人弱の生徒達とふれあい、授業を行ってきた。この事業の責任者、沢井箏曲院宇都宮研究会会主である和久文子先生の信念は、全員が楽器体験をする事。今は学級編制の変化と共に1クラスの人数も少なくなったが、始めた当初は40人前後であり、中学校や高等学校は50分の中で、小学校に至っては45分の中で、鑑賞をして更に全員が体験もする形を取るには、とてもじゃないが楽器も時間も足らなかった。

そこで先ずクラスを半分に分け、半分が箏体験、あとの半分は尺八体験とし、約15分から20分、その後最初に箏を体験した者は尺八へ、尺八の体験者は箏へと移動し、また同じ様に体験授業。最後に1クラス全員を同じ場所へ集め鑑賞。この流れをその学年のクラス数と同じ数だけ行う。7クラスの学校もあり、2日間に分けて授業を行ったり、選択音楽がある高校等は、3日間かけて訪問授業をする所もある。

箏は勿論本物を使って体験させるが、尺八はなかなかそうもいかず。それでも教育課程で邦楽の授業が必須になってからはその需要に応える様に、製管師と呼ばれる尺八を制作する方が国際標準音である440Hzで調律をした塩ビ管も登場し、実際自分の授業でも「なる八くん」なる塩ビ管を1人一本渡し体験をさせていた。体験後は速やかに全ての楽器をアルコール消毒し、次のクラスへ備える。口に当たるものだからこそ細心の注意を払い、また授業を受ける生徒達も多感な時期だからこそ慎重にやってきた。

近年、学習指導要領が変わり、当時は小学六年生（現在は五年生）の教科書で春の海、中学二年生（現在は一年生）の教科書で六段の調が取り上げられている。ただただ曲を聴かせれば良いという訳ではなく、伝統文化と呼ばれる様に連綿と紡がれた歴史があって、今の楽曲にどう活かされているのか、またそれらに使われる様々な奏法の原点とも云うべき曲を聴く時、体験をしたからこそ気付ける事がある、との想いでこれまで授業を行ってきた。

しかし昨年、コロナが瞬く間に世界へ蔓延する中で、話す事や人との接触も難しくなった時に、どう考えても暫くの間は尺八の体験が出来ないであろうと感じ、次に自分が考えた事は尺八の体験をしなくとも、大切な事を教える為に出来る事をと模索し、曲を作ろうと考えた。

コンセプトは3つ、まず1つ目は古典の奏法をふんだんに用いる事。百聞は一見にしかずで、中学校で鑑賞する六段の調で使われている奏法が、現代においても重要な技法であり、それを使用しつつ尚且古さを感じず聴ける作りとする事。2つ目は箏、十七絃箏、尺八の三重奏である事。十七絃箏（以下十七絃とする）という低音楽器を考案したのが、小学校で鑑賞する春の海の作曲者である宮城道雄先生であり、古典まで教える時間のない小学校だからこそ楽器の歴史を知り、それぞれの楽器が持つ音や響きの違いを感じて貰うため。3つ目は生徒達に分かりやすく、派手で、短い曲である事。邦楽の曲は短くとも7、8分あり、先に述べた授業時間内では体験時間をかなり圧迫してしまう為、長くとも4分以内で完結させる事。

題の八咫鳥とは諸説あるが、天照大御神の遣いであったという説を読み、未だに明ける事のない暗黒の世界からもう一度、人々の笑顔溢れる光輝く世界へ導いて欲しい、との願いを込めてつけたものである。それでは本題へと移っていく。

## 楽曲内容

ここでは2つの分野に分けて譜面を交えながら書き連ねていく。1つ目は先程も書いた曲中に使われる古典的奏法や現代曲の奏法。

2つ目はそれぞれの楽器を演奏する際に、如何に無理なく楽器が鳴る音列にするか。

まず1つ目、曲の冒頭、箏は右手のピチカートから入り、足りない音を押し手※1で補う。

4小節後、同じく箏と重なる様に十七絃もピチカートからの押し離し※2を行い、余韻の変化も付ける。

やがて厚みを出すために合わせ爪を最初のフレーズに重ねていき、そこへ尺八が旋律として加わっていく。この時、尺八は笹吹き（吹き始めにタンギングを使わず音量をピアノからクレッシェンドしデクレッシェンドで収束する奏法）の要領で吹き始め、同じ音譜が連続する場合は複譜運指法（指示がない限り、指で刻んで音を切る技法）を使う古典的奏法で演奏。

ゲネラルパウゼ後からは疾走感を出すため、テンポを速め更に箏らしい音として、掻き手とすくい爪を合わせた奏法（シャツツルツルツル）、それとシャッテンシャッテン※3という2つリズムを掛け合わせ、十七絃と共に一定のリズムを刻み、尺八のソロへ。

ソロではタンギングや下行する際に経過音をあしらう奏法を多用、ソロ後はムラ息を交えながら、ひたすら乙の口（日本語音名 二 以下音名のみとする）でリズムを十七絃と共に刻み、箏のソロへと移っていく。

箏ソロの途中では、コロリンコロリン※4と三本の弦を連続して弾く下行音型や、散し爪※5で上行し、右手でリャンリャンと二音を同時に弾きながら下行し、同時に左手でも現代曲の奏法である無調音側を流し爪的な奏法で演奏※6。尚、奏法としてあるものの、明確な名前がついていないものに関しては、楽譜に注釈を加える。

それぞれのソロが終わった後、またテーマへ戻る際、現代曲の奏法である箏の龍腹と呼ばれる下の部分を叩く奏法※7でアクセントをつけた。そしてテーマの途中からもう一度箏による最初の音形が戻ってくるが、最初よりも曲が盛り上がっているため、トレモロ※8を使う事で保続する音が際立つ様にもした。

やがて終曲部でテンポを落とし箏は引き連と流し爪を交互に行うグリッサンドと共に、十七絃はピンと龍角の間を弾く特殊奏法※9を使用。

最後は十七絃が合わせ爪※10を用いて少しテンポを戻しながら、尺八で音を保続しつつ、3つの楽器が同時にテヌートスタカートでフィナーレを迎える。

2つ目の無理なく楽器が鳴るとするのは、曲を作る際に最も重要なカテゴリーであると考えられる。それにもかかわらず、十七絃はそこまででないものの、箏の十、斗、為、巾の調弦はかなり高めでとらなければならなくなってしまった。例えば六段の調は1番低い音のラ（イ）は八咫鳥でも1番低い音になるが、一番高い音は六段がシ（二点口）に対し、八咫鳥はミ（三点ホ）となってしまった。これは先ず曲ありきで作ってしまった事と、尺八（一尺八寸管）の音域を中心にしてしまった事が大きな要因となっている。

尺八自体も調によって管を変えるのは、それぞれに鳴りやすい音域があるのと同じく、やはり箏にも1番楽器が鳴りやすい調弦があり、先人はそこから曲を生み出したからこそ、いつまでも色褪せる事なく音が響き続けているのだと実感し、今後の曲作りの課題として取り組む所存である。

また編曲や縦譜への変換に際し多大な御尽力を賜った、同大学の客員教授である和久文子先生と講師の前川智世先生にこの場を借りて心より御礼を申し上げる。

最後に嬉しい誤算が2つ。それはある学校で演奏していた時の事。生徒が勢い余って手拍子を打ち始め、クラス皆が手拍子をする中で演奏。曲の終了時に一体感と高揚感がある場を支配していた。それぞれのソロの時、他の楽器はひたすら同じリズムを繰り返す事がテンポを取りやすくして、その後は必ずその場が来たら手拍子を促している。

もう一つ、学校で使われているチャイムはへ長調が多く使われているのだが、八咫鳥が平行調の二短調である為、授業の終わり時間にたまたま被ってチャイムが鳴っても、殆ど音楽を邪魔する事がない点。これにより最期の最後まで曲に没頭してもらいやすくなったと考えている。

## 最後に

千里の道も一歩からとよく言われるが、作曲の道も一曲から。本当に拙い作品であるが、まずこれを書いたからこそ気付いた事や、反省点。それらを今後も少しずつ少しずつ勉強し、また聴いて下さる皆様に楽しんで頂ける曲を書く事が出来たら嬉しく思う。



# 八咫鳥

福田 智久山

♩ = 78

尺八

箏

十七絃箏

pizz. ※1押し手

*mp*

pizz. ※2押し離し

*mp*

7

爪

*mf*

12

*f*

16

*mf*

*mp*

*mp*

20

24

28

32

$\text{♩} = 132$

37

42

※3シャツツルツルツルシャツテンシャツテン

46

*f*

*mp*

*mp*

49

51

Musical score for measures 51-52. The score is in 3/4 time and features three staves: Treble, Middle, and Bass. The key signature has one flat. Measure 51 shows a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 52 continues the melodic line with a series of eighth notes.

53

Musical score for measures 53-56. The score is in 3/4 time and features three staves: Treble, Middle, and Bass. Measure 53 starts with a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 54 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 55 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 56 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Dynamics include *mp* and *f*.

57

Musical score for measures 57-60. The score is in 3/4 time and features three staves: Treble, Middle, and Bass. Measure 57 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 58 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 59 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 60 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves.

60

Musical score for measures 60-63. The score is in 3/4 time and features three staves: Treble, Middle, and Bass. Measure 60 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 61 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 62 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Measure 63 has a melodic line in the Treble staff and a rhythmic accompaniment in the Middle and Bass staves. Annotations include *※4コロリン* and *※5散し爪*.

63

※6左手無調音グリッサンド

*f*

*f*

*f*

67

*mp*

*mp*

*f*

70

73

※7龍腹を打つ

*f*

*f*

77

*mf*  
*mp*  
*mp*

81

85

89

*f*  
*f*  
*f*

※8トモ口

94

$\text{♩} = 80$   $\text{♩} = 100$

*ff* *ff* *ff*

*poco a poco accel.*

*gliss.* *gliss.* *gliss.* *gliss.* *gliss.* *gliss.* *gliss.* *gliss.* *gliss.* *gliss.*

※9ピングリッサンド

98

*gliss.* *fff* *fff* *fff*

※10合わせ爪

# ドニゼッティ作曲 歌劇《マリア・デ・ルーデンツ》対訳

Donizetti “Maria de Rudenz” Italian - Japanese libretto

杉 山 正 明

## 1 ドニゼッティとこの作品について

ガエターノ・ドニゼッティ Gaetano Donizetti (1797-1848) は、約 70 曲のオペラを作曲した、ベルカント期のオペラ作曲家である。同時代の良きライヴァルにはヴィンチェンツォ・ベッリーニ Vincenzo Bellini (1801-1835) がいる。

《Maria de Rudenz (マリア・デ・ルーデンツ)》は、1838 年 1 月 30 日にヴェネツィアのフェニーチェ座で初演された。4 人の男女が絡む人間関係の中で、4 人中 3 人が死んでしまうという残酷な内容であったことなどから、当時のヴェネツィアの聴衆には受け入れられず、2～3 回の上演で終わり、初演は失敗だったと伝えられる。作曲者が妻ヴィルジニアの死 (1837 年) の失意の中で手がけた作品でありながら、不評だったばかりか、フェニーチェ座からの契約も打ち切られ、外題役を創唱した名歌手カロリーネ・ウンガーとも仲違いするなど、散々な結末になってしまった。

初演が不評だった割には、イタリア国内各地で再演され、おおむね成功している。その後は欧米各地で上演されたが、ロンドン、パリ、ウィーンという重要都市では上演されなかった。1870 年までの 33 年間で 73 回上演されているので、それなりの人気作品であったことがわかる。1870 年の上演を最後に 100 年余りの眠りにつくことになり、復活上演は 1974 年 (ロンドン) まで待たねばならない。1980 年 12 月からはヴェネツィア、1981 年にはパリでも上演されている。

物語の原作は、アニセ・ブルジョワとマリアンによる《La Nonne Sanglante (血まみれの修道女)》というフランスのメロドラマである。台本はサルヴァトーレ・カンマラーノによるものであり、原作からは大幅な変更が加えられている。カンマラーノはドニゼッティとは深い親交があり、《ランメルモールのルチア》《ロベルト・デヴリユー》などの台本を提供している。後年、ヴェルディの傑作《トロヴァトーレ》を手がけている最中に急逝した。

台本は原作の複雑な人間関係をかなり整理したようで、人間関係はわかりやすくなっている。また、各人物には多面的な性格 (内面) を与えており、彼らの関係はオペラの進行とともに微妙に変化していく。しかし、前述したような血なまぐさい結末は大いにショッキングであり、初演に立ち会った聴衆たちが一度鑑賞しただけでそこまで感じ取るのは難しかったのではないだろうか。

しかし、現代の我々にとっては、特にどぎつい物語というほどではないと感じる。むしろ、ドニゼッティの音楽には推進力と適度の緊張感があり、テンポ良く物語が進んでいくので、馴染みやすく鑑賞しやすい作品だと思う。音楽や進行の雰囲気は《ランメルモールのルチ



ア》に似ており、もっと上演されてもよい作品なのではないだろうか。

## 2 あらすじ

舞台は15世紀のヘルヴェチア（現在のスイス）のルーデンツ城。

### 第1幕「遺言」

アール河畔の宿。コッラードが弟エンリーコとの久しぶりの再会を心待ちにしながら、婚約者マティルデに想いを馳せる。エンリーコが現れ、コッラードは積もる話をする。「かつてルーデンツ伯爵の娘マリアと恋に落ちたが、伯爵の許しを得られず、駆け落ちしてヴェネツィアに逃げた。しかし自分はマリアの不貞を疑い、ローマの地下墓地に連れて行き、置き去りにした。自分も良心がとがめ、墓守りにマリアを助け出すよう金を渡し、偽名で逃避行をしていた。月日経ち、マリアの従姉妹マティルデと愛し合うようになった。」と。エンリーコは自分も想いを寄せているマティルデの名を聞いて愕然とする。コッラードは、明日になれば伯爵の遺言で城は従姉妹のマティルデが相続し、自分は夫としてルーデンツ城主になると語る。

ルーデンツ城の回廊。帰らぬマリアを待った伯爵は失意のまま亡くなっていた。忠実な家臣ランバルドの前に、突然マリアが戻って来る。マリアは地下墓地から脱出し、修道院に身を隠すつもりで人目を忍んで帰って来たのだ。ランバルドは、伯爵がコッラードの素性を知って結婚に反対したことを明かし、正当な相続者としてルーデンツ家を継いで欲しいと懇願する。しかしマリアは自分の行いを恥じ、修道女として生きると告げて身を隠す。そこへマティルデが婚礼の準備を整えてやって来る。コッラードもエンリーコを連れて現れる。マティルデはエンリーコに気付いて驚く。戦場から帰還するエンリーコに出会っていたのだった。書記官が遺言状を読み上げる。「マリアが1年経っても戻らない時は、相続権はマティルデに移る。結婚して城主となるよう。」マティルデがコッラードとの結婚を宣言すると、マリアが登場し、コッラードへの積年の恨みをぶつけて追放を宣言し、マティルデには修道院に入るよう命じる。

### 第2幕「罪」

ルーデンツ城の大広間。エンリーコはマリアにマティルデへの想いを打ち明け、釈放を懇願する。マリアはエンリーコとマティルデの結婚を許可し、コッラードの秘密をほのめかす。エンリーコがコッラードを連れてくる。マリアは不貞を働いた事はないと念を押し、コッラードは殺人犯の息子であり、エンリーコの家で預けられて、兄として育てられたことを明かす。マリアは、もう一度自分とやり直す気持ちがあるなら、出生の証拠書類は破棄すると提案する。コッラードは断る。マリアは逆上し、「自分を殺せ、怨霊となって結婚式を呪ってやる」と口走る。マティルデを呼び付けて扉の前に立たせると、仕掛けられた奈落へのボタンを押そうとする。コッラードは「望みどおり殺してやる！」と、剣でマリアを刺す。マリアは、駆け付けた家臣達に向かって「私が自害した。コッラードに罪はない」と言って倒れる。

### 第3幕「亡霊」

ルーデンツ城の中庭。マティルデとコッラードの結婚の儀が執り行われるが、人々はマリアの亡霊が現れると噂している。エンリーコが現れ、コッラード出生の書類を受け取っ

たことを告げ、結婚に異議を唱える。エンリーコは結婚の行列でやって来たコッラードに、兄弟ではないことが分かったとして決闘を申し込む。コッラードはエンリーコをなだめるが、ついに決闘が行われてしまう。(決闘の場面は描かれていないが、エンリーコが負けて死んだことが次の場面からわかる。)

ルーデッツ城の回廊。婚礼の祝賀会は華やかに催される中、仮面を付けマントに身を包んだ女が寝室に忍び込む。コッラードが戻ると、寝室からマティルデの叫びが聞こえる。コッラードがマティルデの死を確認すると、血糊の短刀を手にしたマリアが登場する。マリアはベールを取るとコッラードに刺された傷口を抑えながら最後の力を振り絞り、「不当な結婚は阻止できた。でも私はコッラードを許し、今でも愛しています。」と言い残して息絶える。コッラードは「神は私だけを生き残らせることで私を罰するのだ」と愕然とする。

### 3 この対訳について

この作品の日本語対訳の商業出版(書籍、CDの付録等)はなされていないと思われる。国内での上演はほとんど期待できないこともあり、CD鑑賞に役立つよう、WARNER FONIT レーベル 3984 29184-2 (指揮: Eliahu Inbal、歌手: Katia Ricciarelli, Leo Nucci 他、1981年ヴェネツィア、フェニーチェ座でのライブ録音)のトラック番号を付けた。

原語リブレットは上記CDの付録ブックレットに合わせたほか、Opera Rara レーベル ORC16 付録ブックレットも参考にして、できるだけCDの歌唱に合わせ、歌唱が省略されている箇所は{}で示した。

#### 参考文献・参考CD・参考リブレット

- ・WARNER FONIT 3984 29184-2 《Maria de Rudenz》付録ブックレット (1981 録音)
- ・Opera Rara ORC16 《Maria de Rudenz》付録ブックレット (1998)
- ・『オペラ御殿』から『ドニゼッティ御殿』(web)
- ・『日本橋オペラ』から『オペラ名曲辞典』(web)

## Gaetano Donizetti «Maria de Rudenz»

**Libretto:** Salvatore Cammarano

**Personaggi:**

MARIA DE RUDENZ, soprano

MATILDE DI WOLF, di lei cugina, soprano

CORRADO WALDORF, baritono

ENRICO, suo fratello, tenore

RAMBALDO, vecchio familiare di casa Rudenz, basso

IL CANCELLIERE DI RUDENZ, basso

Cori di dame, cavalieri, armigeri e vassalli di Rudenz

*L'avvenimento ha luogo in Elvezia nel secolo XV.*

### PARTE PRIMA

#### IL TESTAMENTO

CD1 **1**

*Sala d'un ostello. A traverso delle spaziose invetriate scorgesi parte dell'eremo d'Arau, presso l'Aar, e sull'altra sponda del fiume il castello di Rudenz. Spunta il giorno. Odesi un lontano cantico religioso.*

#### Scena prima

##### CORO

Laude all'eterno Amor primiero,  
fonte di luce, somma virtù,  
che disse appena in suo pensiero  
il mondo sia - e il mondo fu.

Te dei celesti cantan le schiere  
santo dei santi, e re dei re.

Il tuono, i venti, il mar, le sfere,  
la terra e il cielo parlan di te.

#### Scena seconda

**CORRADO** *(Esso apre un verone, e guarda con ansietà sulla strada che conduce all'ostello.)*

Egli ancora non giunge, e tu m'attendi,  
adorata Matilde, spirito sceso dai cieli a consolarmi!...

L'ire placar del mio  
destin perverso a te concesse Iddio!

Ah! non avea più lagrime

il ciglio inaridito,

mancò la speme all'anima, la pace al cor ferito...

Il ciel di fosco ammanto per me si circondò.

Valle d'amaro pianto la terra mi sembrò.

Ti vidi, o cara, e in estasi d'amor che l'alma invase.

M'ami? ti dissi, e tacito

il labbro tuo rimase,

ma il guardo lusinghiero mi favellò d'amor...

Ah! l'universo intero mi parve un riso allor!

#### Scena terza

##### ENRICO

Fratello!...

##### CORRADO

Enrico!...

*(Abbracciandosi l'un l'altro con tutta la tenerezza fraterna.)*

##### ENRICO

Appena il foglio tuo mi giunse,

## ドニゼッティ作曲 歌劇《マリア・デ・ルーデンツ》

**台本:**サルヴァドーレ・カンマラーノ

**配役**

マリア・デ・ルーデンツ、ソプラノ

マティルデ・ディ・ウォルフ、その従妹、ソプラノ

コッラード・ウォルドルフ、バリトン

エンリーコ、コッラードの弟、テノール

ランバルド、ルーデンツ家の召使いの長老、バス

ルーデンツ家の書記官、バス

ルーデンツ家の女、男、兵士、家来の合唱

*15世紀のヘルベチアでの出来事。*

### 第1幕

#### 遺言

アール河畔の宿の一部屋。大きなガラス窓からアラウ修道院の一部が見えている。川の反対側の土手の上にはルーデンツ城が見える。夜が明けようとしている。遠くから聖歌が聞こえる。

#### 第1場

##### 合唱

讃えましょう、原初で永遠なる愛を、  
光の根源を、最高の美德を。  
彼は思考をめぐらし、かろうじて言いました、  
世界はそうであるし、世界はそうであった。  
祝福されたあなたを歌で賛美します。  
最も神聖なる者、王の中の王。

雷、風、海、球体、

地と天があなたのことを話題にしています。

#### 第2場

**コッラード** *(バルコニーの窓を開け、宿泊所に続く道を心配そうに見つめる。)*

彼女はまだ到着していない。私は待っている。  
愛しいマティルデ、私を慰めに精霊が天からやってきた。  
私の邪悪な運命の怒りを  
貴女が鎮めることを神はお認めになったのだ!

**3**

ああ! 私にはもう流す涙はない、  
目尻も乾いてしまった。

私の魂に希望はない、傷ついた心には安息もない...  
暗い夜があたりを包み、私を取り囲む。

私にとって大地は苦い涙の谷間に思えてしまう。

貴女を見た、愛しい人を、愛の恍惚の中で。

私を愛していますか? と私が訊くと、

貴女は黙ってしまったが、

貴女の魅力的な視線は、私への愛を語っていた。

ああ! その時私には世界中が微笑んでいると思えた!

#### 第3場

**4**

##### エンリーコ

お兄さん!...

##### コッラード

エンリーコ!...

*(兄弟愛で優しく抱き合う)*

##### エンリーコ

あなたからの手紙が届いたので、

volai dal campo ad abbracciarti... Un lustro  
volge che più non ti rividi!

**CORRADO**

Oh, quante il viver mio turbaro procellose vicende!

**ENRICO**

Qui la fama rapitor di Maria ti disse.

**CORRADO**

Il vero disse.

{La chiesi al padre: ah! pria, l'altero conte rispose, pria svenarla.

**ENRICO**

Ed essa?...

**CORRADO**

Meco fuggì... L'italo suol ne accolse...O veneta laguna,  
{stupor del mondo, ed incantato specchio del tuo ciel di zaffiro, }  
me felice vedesti!... Ahi, breve sogno  
furo i contenti miei!

**ENRICO**

Come!

**CORRADO**

Tradito dall'infedel

**ENRICO**

Che sento!...

{**CORRADO**

Era vestito di fosca notte il mondo, e la spergiuara calar vidi furtiva entro  
il solingo domestico giardin... Lo crederesti? Ivi un uom l'attendea!

**ENRICO**

Cielo! E che festi?}

**CORRADO**

Nel cor segreto divorai lo sdegno...  
Sul Tebro la condussi, ed ambo scesi a  
visitar le catacombe...

*(reprimendosi come inorridito)*

**ENRICO**

Oh! segui.

**CORRADO**

Nel sotterraneo labirinto arcano di quell'orride volte:  
a morte in braccio qui sei, le dissi;  
e rinfacciai l'iniqua del turpe inganno.  
Mendicata scusa ella movea,  
che dal terrore a mezzo fu tronca: svenne...

**ENRICO**

E tu?

**CORRADO**

Viva sepolta l'abbandonai.

**ENRICO**

Gelo d'orrori

**CORRADO**

Ma colta l'anima mia da subito rimorso la guida  
rintracciai, {che secondato il mio disegno avea.}  
Premio novello d'oro gli porsi, e giuramento ottenni  
ch'egli a morte la vittima ritolta avrebbe.

**ENRICO**

Quindi!

抱擁したくてすぐに飛んできました。

しばらく会わないうちにさらに立派になられて！

**コッラード**

おお、私の人生には何回も困難な出来事があったのだ。

**エンリーコ**

あなたはマリアを誘拐したとの噂ですが。

**コッラード**

その通りだ。{彼女のために彼女の父親に求めたのだが。ああ、  
傲慢な伯爵は答えた。「彼女が死んだのを見る方がました」と。

**エンリーコ**

それで、彼女は？…}

**コッラード**

私と一緒に逃げた…イタリアの靴底かベネチアの潟湖  
へな。{誰もが驚いてた、お前のサファイアの天井の魔法の鏡に}  
お前に会えて嬉しいよ！…ああ！

私の喜びは短い夢だったのだ！

**エンリーコ**

どういうことですか！

**コッラード**

不実な女に裏切られた。

**エンリーコ**

何ということ！…

{**コッラード**

闇に包まれた夜、中庭で一人の人間が消えるのを見てしまった。  
信じられるか？ 男が一人待っていたのだ。

**エンリーコ**

神様！ で、あなたは？}

**コッラード**

私の心には秘めた怒りが渦巻いた…  
私は彼女をティベレ川に連れて行き、  
地下墓所を見に降りていった…

*(恐ろしかった記憶を抑えて)*

**エンリーコ**

続けてください。

**コッラード**

地下の空間は複雑な迷路になっており、私は彼女に言  
った。お前は私の腕の中で死ぬことになっていると。  
そして卑劣な欺瞞の邪悪さを咎めた。  
彼女は許しを乞う仕草をしたが、  
恐怖のため気を失った…

**エンリーコ**

で、あなたはどうなされた？

**コッラード**

私はそのままにしたので、彼女は生き埋めになった。

**エンリーコ**

恐ろしさに身が凍ります。

**コッラード**

しかし、すぐに私の心は良心の呵責に苛まれ、  
案内人の後を追ひ、{私は計画を実行した。}  
私は新たに金貨を彼に与え、誓わせた。  
私の犠牲者を死から救い上げることを。

**エンリーコ**

それで！

**CORRADO**

La romana piaggia lasciai. {Di terra in terra vagando ognor}  
sotto mentiti nomi,  
onde di me colei smarrisse ogn'orma.

**ENRICO**

Sventurato! Eppure  
di tua letizia in seno tu m'appellasti!

**CORRADO**

Ed or son lieto appieno,  
Qui di mie sciagure un angelo  
consolator trovai, qui del passato immemore  
un'altra volta amai...

Torna, sì torna a splendere  
de' giorni miei la stella!  
Sarà mia sposa l'orfana di Wolff.

**ENRICO**

(Oh, colpo!) L'orfana di Wolff! (Io moro!)  
Ed ella t'ama?...

**CORRADO**

Se m'ama, se m'am. {Quant'io l'adoro.}

**ENRICO**

Si...

{(Matilde!... Oh, rio martir!... io l'ho perduta!...  
io moro... moro, e nol posso dir!)}

**CORRADO**

Ah! non esprime il detto  
l'ardor che in noi s'apprese!  
Così potente affetto  
non mai due cori accese!  
Il suo pensiero è il mio...  
Abbiamo un sol desio...  
Vivo per lei soltanto,  
ella respira in me.

**ENRICO**

(Chi mai, chi fu serbato a più crudel tormento!..  
Il core ho lacerato da cento colpi, e cento!...  
Ed, ah! qual man brandisce  
L'acciar che mi ferisce!...  
Per consumarla in pianto la vita il ciel mi die!)

**CORRADO** *(accenando il castello di Rudenz)*

Vieni... in quel soggiorno essa mi attende.

**ENRICO**

In quello!...

**CORRADO**

Matilde al nuovo giorno signora è del castello,  
del padre di Maria tal fu la legge estrema...  
Ah! non tardiam la mia felicità suprema...  
Donna, fia tolto il velo  
che mi nascose a te, quindi all'altare...

**ENRICO**

(Oh, cielo!)

**CORRADO**

Vieni...

**コッラード**

私はローマの領域から立ち去り、{国から国へと}  
偽名でさまよったので、  
私の足跡は失われた。

**エンリーコ**

不幸な人だ！それでも  
あなたは胸の内の喜びを私に訴えている！

**コッラード**

5 今や私の心は幸福に満ちあふれ、  
私を慰めてくれる天使を見つけたのだ。

私は、過去を忘れて  
新たな恋に落ちたのだ...

私の毎日を支配する星が戻ってきて、  
そう、再び輝くのだ！

ウォルフの孤児は私の伴侶となるのだ。

**エンリーコ**

(何と！) ウォルフの孤児！(死にそうだ！)  
で、彼女はあなたを愛している？...

**コッラード**

愛しているとも。{私が彼女を愛しているのと同じだけ。}

**エンリーコ**

そうですか...

{(マティルデ！...おお、恐ろしい拷問だ！...私は彼女を失った！  
...私は死にそうだ...死にそう、言葉にはできない！)}

**6 コッラード**

ああ！私たちの愛は  
言葉にすることなどできない！  
このような強い愛が  
二人の心を燃やしたことなどなかった！  
彼女と私の考えは同じだ...  
私たちの望みはひとつ...  
私は彼女のためだけに生きる  
彼女は私の中だけで息づくのだ。

**エンリーコ**

(誰がこんな辛さに耐える運命にあるのか！  
私の心は何百回もの衝撃で引き裂かれている！...  
そして、ああ、私を傷つける剣を振り回すのは  
誰の手なのか！... 神が与えし私の人生は、  
涙の中で消耗し、命果てるのだ！)

**コッラード** *(ルーデッツ城に登りながら)*

さあ...この壁の向こう側で彼女が私を待っている。

**エンリーコ**

あそこで！...

**コッラード**

新しい日を迎えると、マティルデが城の所有者となる。  
マリアの父親の遺言だ...  
ああ！私のこの上ない幸福を遅らせないでくれ...  
女よ、私の正体を覆っているペールを取るのだ、  
祭壇の前で...

**エンリーコ**

(ああ、神様！)

**コッラード**

来なさい...

**ENRICO**

(Son fuor di me!...)

**CORRADO**

Fratello!... Enrico! Abbracciami,  
dividi il mio contento...

Ah! tu non puoi comprendere il ben d'un tal momento!...

Già col desio d'amore, vola a Matilde il core...

Tutto il piacere io godo che Dio pel ciel creò!

**ENRICO**

Appien comprendo il giubilo  
di tua beata sorte!...

Divido teco i palpiti,  
invidio a tue ritorte:

(Son troppo sventurato...m'astringe orrendo fato  
a maledir quel nodo che Dio tra noi formò!)

*Partono.*

**Scena quarta**

*Galleria nel castello di Rudenz: molte porte laterali, ed una in fondo, di cui la cortina è abbassata: sopra una parete il ritratto dell'ultimo conte di Rudenz. Rambaldo, indi Maria.*

**RAMBALDO** (*si avvanza mestamente*)

7

Surse il giorno fatal, né di Maria  
novella giunge! Ah, non menti la voce  
che in Roma estinta la dicea!...

*(Il corso dei suoi pensieri è interrotto da un suono di pianto;  
volgesi e resta colpito vivamente nel vedere una donna  
prostrata innanzi al ritratto, ed aspersa di amarissime lagrime)*

Chi piange innanzi a quell'imgo del mio spento signor?  
Donna, la solleva fronte. Che!...

**MARIA**

T'acqueta... non appellarmi. Per la via segreta,  
che sotterranea del castello aggiunge  
ogni recesso, io qui traeva. Si taccia  
un nome d'onta ricoperto. Ahi, padre!

Il tuo rigor dischiuse  
a me un abisso, a te l'avello!

**RAMBALDO**

Ingiusto il tuo rigor non fu! Vive Corrado  
a se medesimo ignoto:

{egli nacque da tal, che morte infame sul patibolo avea.}

**MARIA**

Cielo!... E fia vero!...

**RAMBALDO**

L'orribile mistero Presso a morir mi disvelava il Conte.  
Ma dimmi, ov'è colui?

{Dopo la notte Che messaggero del padre m'accoglievi

Nel veneto giardino, ambo spariste!

**MARIA**

La mia crudel ferita perché ricerchi? Ahi, notte!

Cagion tremenda, o forse pretesto vil d'atrocità si nera,  
che in rimembrarla ancor di morte il gelo tutta m'agghiaccia!...

*(presa da raccapriccio) Un velo sovressa... un velo. }*

Abbandonata io fui, e del barbaro invan cercai sinora  
investigar le ascose tracce!

**エンリーコ**

(我を忘れそうだ!...)

**コッラード**

弟よ!...エンリーコ!私を抱いてくれ、  
私と喜びを分かちあってくれ...

ああ!この瞬間を受け入れられないのか!...

もう愛の情熱はマティルデの心に飛んでいる...

私の喜びのすべては天の神様がお作りになったもの!

**エンリーコ**

あなたの祝福された運命の喜びは  
良く分かっています!...

あなたと鼓動を分かち合い、

あなたが今結ぼうとしている絆がうらやましい。

(不幸すぎる...恐ろしい運命を呪います。

神が定められた私たちの関係を!)

*退場する。*

**第4場**

*ルーデッツ城の回廊。両側にはいくつもの扉。一つの扉の奥には目隠しが下げられている。上方にはルーデッツ伯爵の最期の肖像。ランバルド、あとからマリアが入場。*

**ランバルド** (*悲しそうに前に進んで*)

運命の日がやってきた。しかしまだマリア様の新しい情報は無い!ああ、マリア様がローマで死んだという噂は本当だったのか!...

*(彼の思考は泣き声で妨げられる。振り向くと一人の女が肖像の前でひれ伏し、苦い涙を流しているのを驚く。)*

私の前のご主人の肖像の前で泣いているのはどなたですか? 女の方、顔をあげなさい。何と!...

**マリア**

落ち着いて...私の名を呼ばないでください。  
城の地下に掘られている秘密の通路を通して  
私は奥の部屋からここに出てこられたのです。  
不名誉な名前を呼ばないで。ああ、お父様!

あなたの厳しさは、私にとっては地獄で、  
あなたにとっては墓場なのです!

**ランバルド**

お父上の厳格さは不公平ではありませんでした!

コッラード様は自分の出自を知らずに生きています。

{絞首台で死刑となった父親から生まれてきたことを。}

**マリア**

神様!...それは本当でしょうか!...

**ランバルド**

伯爵様が亡くなる際、恐ろしい謎を私に明かされました。しかし、コッラード様はどこにおいでですか?

{あの夜の後、お父上の伝令としての私を、あなた方はヴェネツィアの庭で迎えてくださったのに、お二人とも姿をくらまされた!

**マリア**

私の痛む傷をどうしてあなたは探すのですか?ああ、あの夜!それは邪悪な残虐行為のひどい原因、あるいは恐らく卑劣な口実で、思い出せば、全てを凍らせる氷のようでした。

*(恐怖のあまり、ペールを取り去る)このペールは脱ぎます。}*

私は見捨てられ、

野蛮な人の隠された痕跡を辿っても無駄でした!

**RAMBALDO**

Ancora in tempo riedi. Un cenno del padre tuo...

**MARIA**

Ne corse la fama.

**RAMBALDO**

Giunge di Matilde in breve lo sposo...

**MARIA**

E giunga. Me desio non tragge di terrena grandezza.

Nel domestico tempio a gemer vengo sul paterno sepolcro, indi m'aspetta il convento d'Arau.

**RAMBALDO**

Ciel!... Che dicesti!...

E vuoi fra quelle mura?...

**MARIA**

La vergogna celar di mia... sciagura.

Sì, del chiostro penitente

cingerò per sempre il velo:

del mio cor la smania ardente

può calmar soltanto il cielo.

Chiederò gemente a Dio

il perdono dell'error...

Sarà tutto il viver mio un sol pianto di dolor.

*(Odesi lieta musica.)*

**RAMBALDO**

Vien lo sposo!...

**MARIA**

Dell'Eterno splenda un riso a questi nodi.

Ove giace il fral paterno

io mi traggo, e poscia... m'odi:

quando avrà la notte oscura la sua veste in ciel spiegata,

del convento fra le mura,

vieni a trarmi inosservata.

*(per partire)*

**RAMBALDO**

Deh! ti cangia... Deh! m'ascolta...

**MARIA** *(con tono risoluto)*

Non conosci ancor Maria?

**RAMBALDO**

E vivrai colà sepolta la tua vita?

**MARIA**

La mia vita, oh, breve fia.

Sulla mia tomba gelida

tardi, ed invan pietoso,

nel suo rimorso a piangere egli verrà talor...

Al suono di quei gemiti

dall'ultimo riposo fian deste le mie ceneri,

e sentiranno amor!

**RAMBALDO**

Ove ti tragge, o misera,

un forsennato amor?

**MARIA**

Se quel crudo rivedrai

che l'avello m'apprestò:

ella è spenta, gli dirai, ma fedele a te spirò.

**ランバルド**

まだ間に合います。お父上のご指示は...

**マリア**

聞いています。

**ランバルド**

マティルデ様のご主人が間もなくおいでになります。

**マリア**

彼をお通しなさい。私は大それた望みは持っておりません。私は家族のもとに帰り、父の墓の上で泣きたいだけ。その後にはアラウ修道院が待っているのです。

**ランバルド**

神様!...何を仰るのです!...

この壁の背後に引きこもることをお望みですか?...

**マリア**

私の転落の不名誉を...隠すこと。

8

そう、修道院で悔い改め、

永遠にベールを被ります。

私の心に燃えさかる狂乱を

落ち着かせることができるのは神様だけです。

私の過ちをお許しくださるよう

泣いて神様にお願いします...

私の人生は苦しみの涙ばかりなのです。

*(楽しい音楽が聞こえる)*

**ランバルド**

ご主人様がいらっしゃいました!...

**マリア**

永遠なる者の微笑みがこの婚姻に光り輝きますよう。

父の魂が横たわるところを思い描き、

そして...お聞きください。

夜の闇が訪れ、その帳が天を覆う頃、

人目につかないように来て、

私を壁の向こうの修道院に連れて行ってください。

*(退場しようとする)*

**ランバルド**

何と!心変わりされた...お聞きください...

**マリア** *(きっぱりとした口調で)*

まだマリアをご存じないのですね?

**ランバルド**

壁の向こうで生き埋めにされた人生を送るのですか?

**マリア**

私の命は、おお、はかない命でした。

コッラードは時々私の冷たい墓を訪れて

後悔して涙を流すでしょうけど、

それは手遅れで、無益な憐れみなのです。

そうした嘆きの声は

私の遺灰を永遠の眠りから甦らせ、

彼らは愛を感じることでしょう!

**ランバルド**

哀れな女性よ、その狂おしい愛情は

あなたをどこへ導くのですか?

**マリア**

私の墓を用意した悪人にまた会ったら、

マリアは死んだと、彼に教えてください。

しかし、マリアは死ぬまであなたに誠実だったと。

(Maria parte)

**RAMBALDO**

Qui de' vassalli move la schiera.

Oh, come lenta procede!

Oh, come lo girar degli occhi è grave! Mal diresti  
esser festiva la cagion che aduna tal gente!

**Scena quinta**

*La galleria si riempie di armigeri e vassalli di Rudenz.*

**CORO**

Innanzi a sconosciuto sire  
chinar dovrem le fronti?

**RAMBALDO**

Ah! sì: de' nostri conti  
tutta mancò la stirpe.

**CORO**

Dunque spenta è Maria?

**RAMBALDO**

Voi lo diceste.

**CORO**

Oh, certezza fatal!

**RAMBALDO**

(Spenta pur troppo è l'infelice al mondo.  
Sta nel volto a ciascun dolor profondo!)

**CORO**

Ah! che di pianto è questo,  
non è di gioia il dì!

Orrido vel funesto il sol per noi copri!

In sen del freddo avello anche Maria dimora!

L'ultima speme ancora la morte a noi rapì!...

Ah! che di pianto è questo, non è di gioia il dì!

**RAMBALDO**

Giunge il signor novello,  
pianger nessuno ardisca...

Si taccia, e s'obbedisca...

Volle il destin così!

**CORO**

Orrido vel funesto

il sol per noi copri!

Ah! che di pianto è questo, non è di gioia il dì!

**Scena sesta FINALE I**

*Matilde circondata da' suoi paggi va incontro a Corrado,  
che si avvanza seguito da Enrico.*

**CORRADO**

Matilde...

**MATILDE**

(Chi vegg'io!)

(riconoscendo Enrico)

**RAMBALDO e CORO**

(Corrado!...)

(Rambaldo si allontana inosservato.)

**ENRICO**

(Ah! sembra celeste immagine agli occhi miei!...)

**CORRADO**

Felice oltre ogni dir son io!

(マリア、退場)

9 **ランバルド**

全ての家臣達がこの方向から近づいている。  
おお、何とゆっくと前進していることか！  
おお、何と重々しく見えることか！  
お祭りのために集められたとは考えられない！

**第5場**

回廊はルーデントツ城の衛兵と家臣でいっぱいになっている。

**家臣たち**

見知らぬ殿様に対して  
頭を下げなければいけないのですか？

**ランバルド**

ああ、そうだ。私たちの伯爵様は  
血筋が絶えてしまっている。

**家臣たち**

それゆえにマリア様は消えた？

**ランバルド**

そのとおりだ。

**家臣たち**

おお、まさに宿命的だ！

**ランバルド**

(哀れな彼女はこの世を去った。  
全員の顔色から悲しみが読み取れる！)

**家臣たち**

ああ、しかし今日は悲しみの日であって、  
喜びの日ではない！恐ろしく不幸なペールによって  
私たちの太陽は覆い隠されてしまった！  
マリア様の住まいもまた凍えた墓の底だ！  
死は私たちから最期の望みも奪ってしまった！...  
今日は悲しみの日であって、喜びの日ではない！

**ランバルド**

新しいご主人様のご到着です  
もう涙は流さぬように...

黙って従おう...

運命がそう望んでいるのだ！

**家臣たち**

恐ろしく不幸なペールによって  
私たちの太陽は覆い隠されてしまった！  
今日は悲しみの日であって、喜びの日ではない！

**第6場**

小姓たちに囲まれたマティルデは、エンリーコに付き添わ  
れたコッラードと対面する。

10 **コッラード**

マティルデ様...

**マティルデ**

(何と！)

(エンリーコに気付く)

**ランバルドと家臣たち**

(コッラード様！...)

(ランバルドは気付かれずに去る)

**エンリーコ**

(ああ、私の目には彼女が天国そのものに見える！...)

**コッラード**

私はこの上なく幸せだ！



Quanto per me rinserra di più caro la terra  
mi sta dappresso! Mio fratello è questi.

*(presentandolo a Matilde)*

**MATILDE**

Egli!... Enrico! Tu dunque sei?...

**CORRADO**

Corrado Waldorff. Una possente  
ragion m'astrinse di celar sinora qual fossi.

*(ad Enrico)*

A te, Matilde non era ignota!

**ENRICO**

Da tremenda pugna reduce la mia schiera,  
dimorò nel villaggio, in cui romiti giorni traeva Matilde.  
Il suo pensiero allor fuggia da mondani affetti!

**MATILDE**

E vero...

Allor non m'appellava ad altre sorti  
del conte il cenno estremo.

**CORRADO**

Ogn'uom lo ascolti.

**IL CANCELLIERE DEL CASTELLO**

*(leggendo ad alta voce il testamento)*

"Del retaggio avito è l'arbitra Maria.

A lei Matilde raccomando, e sia primo de' suoi doveri  
secondarne la brama, e qual s'addice  
a patrizia donzella, e mia nepote,  
locarla nobilmente d'Arau nel chiostro.  
Pur, se volge l'anno e mia figlia non riede,  
scelga uno sposo, e del mio stato erede  
Matilde investo.

Il conte Piero de Rudenz."

**CORRADO**

Oggi compie l'anno prefisso.

**CORO**

(Ahi, dura legge!...)

**ENRICO**

(Ho sotto il piè l'abisso!)

**MATILDE**

Di Matilde lo sposo adorato  
in Corrado ciascuno rimiri.

**CORRADO**

Ah! giungesti momento beato  
che affrettai con sì lunghi sospiri!

**ENRICO**

(Io mi perdo!... Fatal gelosia  
le mie luci ricopre d'un vel!...)

**MATILDE**

Al signor che vi dono giurate,  
o vassalli, obbedienza e rispetto.

**CORRADO**

Com'io giuro, e voi tutti ascoltate,  
la mia fede, il mio tenero affetto...

**Scena settima**

*Aprisi la porta in fondo; comparisce Maria, seguita da Rambaldo.*

この世で私にとって大切なものは  
すべて私の周りにある！これが私の弟です。

*(エンリーコをマティルデに紹介する)*

**マティルデ**

彼は！…エンリーコ！ということとは？…

**コッラード**

コッラード・ウォルドルフです。重大な理由があって、  
今まで私の素性を秘密にしてきました。

*(エンリーコに)* マティルデをお前が知らなかったと  
いうことはないだろう！

**エンリーコ**

私の部隊が恐ろしい闘いから生還する際、マティルデ  
様が幽閉されていた村に駐留したのです。その時、  
この方からは感情を感じられなかったのです！

**マティルデ**

その通りです…

その時、伯爵の遺言が私を異なる運命に導くとは思いませんでした。

**コッラード**

皆で聞こう。

**城の書記官**

*(遺言を大きな声で読み上げる)*

「マリアを先祖代々の遺産相続人とする。

私は彼女にマティルデを推薦するので、  
彼女の考えを最優先しなければならない。

私の意思は二番目にし、彼女を大切に育て、  
高貴な女性に育てること。

アラウ修道院にいる姪が、

1年が過ぎても戻ってこない場合は、  
マティルデに夫を選ばせ、私の領地の後継者とする。  
ルーデンツ伯ピエロ。」

**コッラード**

これまでの歳月は今日で終わりだ。

**合唱**

(ああ、厳しい定め！…)

**エンリーコ**

(私の足下には底知れない深みが！)

[11]

**マティルデ**

私の愛する夫はコッラードであることを  
皆さんお認めになってください。

**コッラード**

ああ！貴女が到着して幸福な時が訪れ、私は  
長い間息をつきながら貴女のもとに急ぎました。

**エンリーコ**

(我を失った！…宿命的なジェラシーが  
私の眼をヴェールで覆っている！)

**マティルデ**

家臣の皆さん、私が皆さんに授ける主人に  
従順と尊敬を誓ってください。

**コッラード**

私が誓いますから、皆さん全員で  
私の忠誠と優しい愛情の証人になってください。

**第7場**

*奥の扉が開き、マリアがランバルドを従えて登場する。*

**MARIA**

Empio, cessa, che t'ode Maria.

*(Sorpresa generale.)*

**CORRADO**

Non vaneggio!...

**ENRICO e CORO**

Maria!...

**MATILDE**

Giusto ciel!

*(Maria si avvanza gettando sopra Matilde un terribile sguardo: quindi si volge a Corrado in tuono d'ira concentrata.)*

**MARIA**

Chiuse al di per te le ciglia qui deserto il genitore!

E tradirne qui la figlia

tu volevi, atroce core!

Né l'Eterno ancor punisce

l'alma rea che tanto ardisce?...

Pena forse Iddio non trova che pareggi il tuo fallir.

**CORRADO**

Se di Dio la man suprema a punirmi ho provocata,

già mi coglie pena estrema,

rivederti, o sciagurata.

Ma talvolta un fine arcano

tien sospesa quella mano!

Se non fosse, al mio

cospetto ti dovrebbe incenerir.

**ENRICO**

(Io son pari ad uom cui scende già la scure sulla testa,

ed un grido, un cenno intende

che di morte il colpo arresta!

Ah! ne' palpiti che provo al mio duol conforto io trovo!...

Ed un raggio di speranza mi colora l'avvenir!)

**MATILDE**

(Quello sguardo, e quello sdegno

ah! mi fe rabbrivir! {Ahi! Che sguardi...})

**RAMBALDO**

(È sprezzato il giogo indegno!...

A noi riede il primo ardir!)

{[Al voler dello straniero non dovrem o più servir.]}

**CORO**

Maria, di fidi sudditi

ricevi or tu l'omaggio,

e tremi il temerario

che farti osasse oltraggio!

**MARIA**

Udisti? Or va, mi libera

di tua presenza omai...

furo da te quest'aure contaminate assai! Va!

*(traendola al suo fianco)*

Te poi, modesta vergine,

aspetta il sacro velo:

restar non puoi fra gli uomini,

cosa tu sei del cielo!

**マリア**

邪悪な人よ、おやめなさい。マリアは聞きました。

*(皆、驚く。)*

**コッラード**

何ということだ!...

**エンリーコと合唱**

マリア!...

**マティルデ**

まあ、何と!

*(マリアはマティルデを睨み付けつけながら前に進み、コッラードに向かって怒りを凝縮した言葉を浴びせる。)*

**12** **マリア**

あなたのせいで、父はここで生涯を閉じたのです。

なのに、腹黒い男よ、父は娘を裏切ると思ったの!

永遠の神は、それほど大胆で罪深い魂を、

未だに罰していないとでも?

たぶん神は、あなたの罪に見合うような罰を

見つけることができないのです。

**コッラード**

もし私が全能の神の手に自分を罰するように

仕向けていたなら、あなたに再会した時に、

私には厳しい罰が下っていたはずですが、惨めな女よ。

しかし、時々、秘密の目的が

神の手を止めることもあるのです!

そうでないなら、私の目の前で

神はあなたを灰燼と化したでしょう。

**エンリーコ**

(私は、頭に斧が振り下ろされた男と同様だ。

そして叫び声を聞いた誰かが、

死の打撃を止める命令を下したのだ!

ああ! 苦悩の中で悲しみに慰めを見出した気分だ!

そして希望の光が私の未来を彩るのを!)

**マティルデ**

(あの表情、あの怒り、

ああ! ぞくぞくする! {ああ! あの視線...})

**ランバルド (と家臣たち)**

(価値のない束縛は軽蔑すべきこと!

私たちには最も大切な熱意があります!)

{[よそ者の意志に従うつもりはもうありません。]}

**13** **家臣たち**

マリア様、あなたに忠実な臣下たちの、

敬意を受け入れてください。

そしてあなたをそれほど怒らせた無謀な者を

震え上がらせてください!

**マリア (コッラードに)**

聞いたでしょう? さあ、立ち去って

私の前から消え失せなさい... あなたはこの空気を

十分に汚したのだから! 行きなさい!

*(マティルデを引っ張ってきて)*

そして謙虚な乙女よ、

聖なるヴェールがあなたを待っています。

あなたはこの世界に留まることはできません、

天国に行くのです!

**ENRICO** (*fremente a Maria*)  
Donna!...  
**CORRADO** (*scagliandosi per riprenderla*)  
E schernirla, o perfida, osi?... Matilde è mia...  
**CORO**  
Che ardisci!... Va!  
**MARIA**  
Allontanatelo... Respinto a forza ei sia...  
**CORRADO**  
Sciagurata!  
**MATILDE**  
Cedi...  
**ENRICO**  
Per poco almeno...  
**CORO**[**MARIA**]  
Esci...  
**MATILDE** (*come in atto di svenire*)  
Ho la morte in cor!...  
**ENRICO**  
(Cielo!...)  
**MARIA**  
Io trionfo appieno!...  
**CORRADO**  
Son ebbro di furor!...  
**MARIA**  
Respinto sia...  
**CORRADO**  
Io respinto? Maria!  
**MARIA**  
Il tuo core a me togliesti,  
tolgo a te la donna amata...  
Infelice miolesti?  
Io lo son... ma vendicata.  
Va, se il ciel che a te contrasta,  
se a dividervi non basta,  
sorgerà tra voi l'inferno...  
E l'inferno è tutto in me!  
**CORRADO**  
Va... ti disprezzo!  
**MATILDE**  
Volsse un guardo a me sì fiero  
Che me fè rabbrivire;  
**ENRICO**  
(Fra la speme ed il timore  
ardo e gelo in un momento!...  
Del fratello a questo core quasi è gioia il rio tormento!...  
Ahi! qual era, più non sono!...  
Non m'intendo!... Non ragiono!... Altro amor,  
l'amor fraterno ha pur troppo estinto in me!)

**CORRADO**  
Godi pur... godrai per poco!...  
La tua gioia è fuggitiva, stolta!  
Apprendi che il mio foco per ostacoli si avviva.  
Riedo in breve, riedo in armi

**エンリーコ** (*マリアへの反抗心から怒りに手を震わせ*)  
女よ!  
**コッラード** (*マティルデを取り戻そうとして前進する*)  
ばかばかしい、ふざけるな、マティルデは私のものだ...  
**家臣たち**  
何とあつかましい!... 出て行け!  
**マリア**  
彼を連れ出さない...強制的にでも...  
**コッラード**  
呪われた女よ!  
**マティルデ** (*コッラードに*)  
従うしかない...  
**エンリーコ**  
ちょっと待ってください...  
**合唱**[**マリア**]  
出ていきなさい...  
**マティルデ** (*気を失うような仕草で*)  
私の心は死にました!...  
**エンリーコ**  
(神様!...)  
**マリア**  
私の完全勝利ね!...  
**コッラード**  
私は怒りで酔っている!...  
**マリア**  
彼を追放しなさい...  
**コッラード**  
私を追放すると?マリア!  
**マリア**  
あなたが私からあなたの心を剥奪したから、  
私はあなたから恋人をむしり取ってあげる...  
あなたは私の不幸を願っていたの?  
だから私は...復讐したのよ。  
お行き、天国の神様が異を唱えて、  
あなたたちを引き裂くことが無理なら、  
あなたは地獄に落ちるのよ...  
地獄は私の心に満ちている!  
**コッラード**  
行くがいい...お前を軽蔑する!  
**マティルデ**  
彼女がこんな凶暴な表情を見せたので、  
私は震え上がっています。  
**エンリーコ**  
(希望と恐怖の間で、  
私は同時に燃えたり凍ったりしている!...  
兄の悲痛は私の心に喜びをもたらしている!...  
ああ!私はもはやこれまでの自分ではない!  
わからない!... 頭が働かない!... もう一つの愛、  
兄弟愛は、もはや私の中では消えてしまった!)

**コッラード** (*マリアに*)  
狂喜するがいい...だがほんの短い時間だけだ!...  
束の間の楽しみだ、愚か者め!  
邪魔されるほど私の心が燃えさかるのを知るがいい。  
すぐに戻ってくるぞ、武装して戻ってくるぞ、

la mia sposa a ripigliarmi...  
e vedrem se poi l'inferno,  
se può il ciel negarla a me.

**MATILDE**

Mi separa, ed in eterno,  
o Corrado, il ciel da te!...

**RAMBALDO e CORO**

T'allontana... ed in eterno, se la vita è cara a te.

*(Respingono Corrado, che parte trascinato da Enrico.  
Maria tragge seco Matilde dal lato opposto.)*

## PARTE SECONDA

### UN DELITTO

#### SCENA ED ARIA

##### Scena prima

CD2 ①

*Sala del castello, la cui volta è sostenuta da grosse colonne;  
due entrate laterali ed una porta in prospettiva, tutto spirante  
tristezza. Maria, da una porta laterale, Rambaldo dal fondo.*

**MARIA**

Ebben, colei?...

**RAMBALDO**

Tuttora la stessa!

Tace nel suo duolo immersa, e piange.

{**MARIA**

Udi l'irrevocabil cenno?

Il cenno di Maria?

**RAMBALDO**

L'udi.

**MARIA**

Che mai risponde?

**RAMBALDO**

Piange.}

**MARIA**

Un lustro io piansi! Ormai fremo soltanto!

Va, qui traggi Enrico;

{Ed il geloso incarco d'assicurar gli spaldi,  
ed ogni varco del castello, rammenta.}

Il sai, fu vista gente in armi dappresso!

*(Rambaldo esce per una porta laterale)*

Avvi Corrado istesso certo fra quella!...

Ma la preda invano si tenterà strapparmi.

##### Scena seconda

*Enrico e Maria.*

**MARIA**

T'avanza. Favellarmi

chiedesti, Enrico: parla, che ti guida?

**ENRICO**

Pietà dell'infelice Matilde.

**MARIA**

Io servo alla paterna legge.

**ENRICO**

Ed osi un cenno ricordar, Maria,  
che pervertisti, e che annullato fia  
in breve dal senato?

花嫁を取り戻すために...

地獄や天国が私たちが否定しようとも、  
再び相まみえるのだ。

**マティルデ**

おお、コッラード、

神は私をあなたから永遠に引き離す！...

**ランバルドと家臣たち**

去るのだ...永遠に、自分の命が大切なら。

*(彼らはコッラードを押し戻し、エンリーコのもとから連れ去る。マリアがマティルデを反対側に引っ張っていく。)*

## 第2幕

### 罪

#### シェーナとアリア

##### 第1場

城の大広間。その天井は太い柱で支えられている。両脇に  
2つの、奥に1つのドア。全てが悲しみに包まれている。  
マリアが脇のドア、ランバルドが奥のドアから登場する。

②

**マリア**

で、あの女は?

**ランバルド**

変わりありません。

悲しみに押し黙り、すすり泣いています。

{**マリア**

取り消すことのできない命令を聞いているでしょう?

マリアの命令を?

**ランバルド**

聞いております。

**マリア**

それで何と答えているの?

**ランバルド**

泣いているだけです。}

**マリア**

私は5年間泣き続けたのです!今は怒りで震えている  
だけ!行って、エンリーコを連れてきなさい。

{そして城の側面と全ての入口を守る業務をお忘れなく。}

武装した者たちが

近くで目撃されたことは知っているでしょう!

*(ランバルドは脇のドアから退場)*

コッラードもその一味に違いない!

でも、私から獲物を奪おうとしても無駄なこと。

##### 第2場

**エンリーコとマリア**

**マリア**

前に出なさい。あなたは私と話がしたいと。

エンリーコ、どうしてここへ?

**エンリーコ**

不幸なマティルデに憐れみを

**マリア**

私は父の命令に従っているだけ。

**エンリーコ**

あなたが故意に曲解し、マリア様、

間もなく上院によって無効とされる命令に

あえて従うのですか?

**MARIA**

Ma tardi! L'ombre sorgeranno, tratta  
Matilde a viva forza sarà nel vicin chiostro.

**ENRICO**

Il rio disegno non compirai...  
La vittima strappata presso all'ara ti fia,  
dinanzi al nume, di crudeltà nemico...

**MARIA**

E chi tanto ardirà? Corrado?

**ENRICO**

Enrico.  
Sappilo, in core avvampo,  
mi struggo per Matilde...

**MARIA**

L'ami?...

**ENRICO**

D'immenso amor.  
{Se morir cento volte in sua difesa potessi, cento volte  
morrei, benedicendo il mio destin.}

**MARIA**

{Che intendo!}  
L'ami, e la cedi al tuo rivale?

**ENRICO**

Al mio fratello.  
{Io vidi Matilde, allor che orbatà d'ambo i parenti,  
e derelitta in terra volgea lo sguardo al cielo...  
E il ciel sembrava di sua beltade innamorato!  
Il core ne chiesi... indarno! Piansi... al pianger mio ella  
rispose!... La pietà sovente è foriera d'amor!  
Squillò repente la tromba... Io mossi al campo...  
e venne meco dolce lusinga!...}  
Un fulmine colpito m'avesse,  
pria che intender da Matilde riamato il fratel!...  
D'ogni conforto, d'ogni speranza privo  
tremenda vita a lui dappresso io vivo!  
Talor nel mio delirio non veggio che il rivale...  
E corre involontaria la destra sul pugnale...  
Ed un pensier terribile vien dall'inferno a me!  
Inorridita l'anima rifugge a tanto eccesso!...  
Ah! son dannato a fremere!...  
Ad abborrir me stesso!...  
Donna, compiangi un misero  
che soffre più di te!

**MARIA** (in tono misterioso)

Tal segreto in petto io celo,  
da temprar la tua sciagura.

**ENRICO**

Che di' tu!...

**MARIA**

S'io lo rivelo, senza offender la natura,  
stringer puoi l'ambita mano  
di colei che si t'accese.

**ENRICO**

Ah! fia ver!...

**マリア**

手遅れよ！宵闇が訪れる頃、  
マティルデは隣の回廊に閉じ込められるのよ。

**エンリーコ**

あなたの邪悪な計画はまだ完成していない。  
祭壇の前で、残酷な行為は許さない神の前で、  
犠牲者はあなたから引き離されることでしょう…

**マリア**

誰がそうするというの？コッラードが？

**エンリーコ**

エンリーコです。  
私の心に燃えさかっていることを知ってください。  
私はマティルデへの愛で夢中なのです…

**マリア**

彼女を愛しているのね？

**エンリーコ**

無限の愛です。  
{もし彼女を守るために何百回も死ぬるなら  
何百回も死んで自分の運命を祝福します。}

**マリア**

{わかったわ！}  
愛する女をライバルに譲るといふの？

**エンリーコ**

兄に。  
{私がマティルデに会ったのは、両親を失い、地上にひとり  
取り残された時でした。彼女は視線を天に向け…  
そして天は、彼女の美しさに恋に落ちたかのようでした！  
私は彼女の心を求めたが…無駄でした！涙を流すと、  
彼女は応えてくれました。哀れみはしばしば  
愛の先導者となるのです。ラッパが突然鳴り出し…  
私は陣営に戻りました…甘い期待を携えて！}  
マティルデが兄の愛に答えているのを知った時に  
私を直撃したのは落雷だったのでしょか。  
全ての安楽、全ての希望を奪われ  
兄のそばで言語に絶する人生を送っているのです！  
時々、私は錯乱して兄が敵にしか見えなくなる。  
そして思わず右手が剣にかかって…  
そして地獄からの恐ろしい考えが私を支配しに来る！  
私の魂にとって恐ろしすぎる！…  
ああ！無茶苦茶に震えがくる！…  
自分自身に嫌悪する！  
女よ、あなたよりも苦しんでいる  
哀れな男を悼んでください！

③

**マリア** (思わせぶりに)

私の胸の内には、あなたの不幸を和らげるような  
秘密をしまっているのです。

**エンリーコ**

何を仰るのです！

**マリア**

もっともな主張に気分を害することなく  
秘密を明らかにすれば、あなたを魅惑した女の手を  
握りしめることができるでしょう。

**エンリーコ**

ああ！その通りかもしれない！

**MARIA**

Ma il grave arcano far non posso ad uom palese,  
ove pria l'infido amante non ritorni al mio cospetto.

**ENRICO**

Ei mi segue... In breve istante  
io condurlo a te prometto...

**MARIA**

Riveder potrò l'ingrato!...  
Rivederlo!... In breve!...

**ENRICO**

Ah! sì. Ma l'arcan?

**MARIA**

Ti fia svelato:

**ENRICO**

Quando?

**MARIA**

Quando? Al nuovo dì.

**ENRICO**

Al nuovo dì. Ah!...

Tu la speme in me ritorni!...

Tu la vita in me ridesti!...

La parola che dicesti dalla tomba mi chiamò!

Come all'angel de' miei giorni

grato sempre il cor ti fia,

se Matilde sarà mia...

se di gioia non morirò.

**MARIA**

Va... che tardi?... A me l'invia...

**ENRICO**

{Vado,} sì...

**MARIA** *(Enrico parte)*

(Ove son!... Che mai farò!...)

{Olà!

*(compariscono alcuni armigeri)*

Corrado a me venir si lasci.}

*(Gli armigeri escono. Ella or passeggia a rapidi passi, or s'arresta in balia della più viva agitazione)*

Che fu!... Son io!... Me stessa in me non trovo!

Il senno fugge, il core palpita più frequente!...

Ogni stilla di sangue è fiamma ardente!

{Questa piena d'affetti e di pensieri calmar si cerchi... *(siede)*

De' bollenti spirti scemò la possa... non è ver! Più lieve  
saria frenar de' venti, della folgore il corso!

*(dopo lunga pausa, ed alzandosi)}*

Amor, vendetta, gelosia, furore: chi vincerà?...  
*(vedendolo sopraggiungere, e con accento passionato)*

Corrado! Ha vinto amore!

**Scena terza**

*Corrado e detta. Corrado giunto innanzi a Maria s'arresta in silenzio, guardandola terribilmente.*

**MARIA**

Quel fero sguardo nel pensier mi sveglia  
le caverne di Roma! Oh, quale ingiusto  
furore geloso t'avvampò! Scolparmi e deggio, e posso.

**マリア**

でも、私の不誠実な恋人に再会するまでは、  
この秘密は誰にも明かせない。

**エンリーコ**

彼は私についてきます、あなたのもとへ  
彼を連れてくることを約束します...

**マリア**

恩知らずの悪党に再会!...  
再会!...すぐにでも!...

**エンリーコ**

ええ、もちろん。でも、秘密とは?

**マリア**

いずれわかること。

**エンリーコ**

いつ?

**マリア**

いつですって? 明日にでも。

**エンリーコ**

明日ですって。ああ!

あなたは私の希望を取り戻してくださった!

あなたは私に人生を返してくださった!

あなたの言葉が私を墓から呼び戻してくださった!

マティルデが私のものになったら、

私が喜びのあまり死ななかつたら、

私を見守ってくれる天使として

永遠にあなたに感謝いたします。

**マリア**

さあ、いつまで待たせるの?...彼を私のもとへ...

**エンリーコ**

はい...{行ってきます}

**マリア** *(エンリーコ退場)*

(私はどこに!...私は何をしようとしているのか!...)

{ちょっと!

*(数人の衛兵が登場する)*

コッラードが来たら私のところへ通して。}

*(衛兵が去り、マリアは早足で行ったり来たりし、立ち止まって大いに動揺している。)*

**4** これは何!...それは私!...自分を見失ってしまった!

私は感覚を失い、心臓は高鳴っている!

一滴一滴の血は燃える炎!

{高ぶっている感情や思考を落ち着かせないと... *(座る)*

私の沸き立つ心は治まった。いや、違う!

雷の進路を制御するより、風を利用する方が簡単だわ。

*(長く静止した後、立ち上がる)}*

愛、復習、嫉妬、激情。誰が勝つの?

*(コッラードが来るのを見て、強い口調で)*

コッラード! 愛が勝ったのね!

**第3場**

コッラードとマリア。コッラードはマリアの前に立ち、  
静寂が支配する中、恐ろしい視線で彼女を見る。

**マリア**

その悪意に満ちた表情は私をローマの地下墓地を思い  
起こさせる! おお、理由なき嫉妬の怒りが燃えている!  
私は自分の疑いを晴らすわ、必ずできる。

**CORRADO**

Inutil cura e tarda!

Per te non vengo.

**MARIA** (*reprimendosi. accennando la porta in fondo*)

Intesi! Di lei favellerò. Colà Matilde aspetta i cenni miei! Sposa del nume, o d'un mortale andrà, che più la merta, né men l'ama di te.

**CORRADO** (*con ischerno*)

Questo mortale nomasi?...

**MARIA**

Enrico.

**CORRADO**

Mio fratel!

**MARIA**

No, tale egli non è.

**CORRADO**

Deliri!

**MARIA**

M'odi, proscritto in un co' suoi congiunti, Ugo di Berna, il pargoletto figlio, che mal regger potea nell'aspro esiglio, lasciò partendo alla pietosa cura d'un amico fedel:

questi sua prole creder fece il bambin: ma presso a morte, e già corsi due lustri, l'arcan dischiuse al padre mio, lasciando secure prove, onde potesse un giorno Ugo suo figlio ravvisar.

**CORRADO** (*con orrenda ansietà*)

Finisci.

**MARIA**

Ma, ben lo sai, di vili, atroci colpe costui macchiato, sul germano lido fu spento dal carnefice.

**CORRADO**

Quel figlio d'Ugo?

**MARIA**

Tu sei.

**CORRADO**

Mio padre un assassin!

**MARIA**

T'accheta...

**CORRADO**

Orrido gelo mi ricerca ogni fibra!

**MARIA**

Eterno velo covra l'arcan: distrutte ne fian da me le prove.

Sempre lo stesso innanzi al mondo, ah! riedi pur con Maria qual fosti.

**CORRADO**

Che?

**MARIA**

Rimembra, infedel, quanto mi costi!

Fonte d'amare lagrime

apristi agli occhi miei...

コッラード

無駄なことだし、手遅れだ。

私はお前のためにここに来たのではない。

**マリア** (*自制して。奥のドアを指し示し*)

分かったわ！彼女の話を話します。

そこでマティルデが私の合図を待っています。

彼女は神の、あるいはあなたよりも彼女にふさわしくて彼女を愛している人間の花嫁になるのです。

**コッラード** (*軽蔑して*)

その男の名は？

**マリア**

エンリーコよ。

**コッラード**

弟だ！

**マリア**

いいえ、彼はあなたの弟ではない。

**コッラード**

戯言を！

**マリア**

お聞きなさい。共犯者と共に追放されたベルナのウーゴは、幼い息子を残していましたが、彼の亡命時にろくな支援ができなかったけれども信用の出来る友人が、良く世話をしてくれたのです。この友人は男の子に自分の子だと信じさせました。しかし、死が近づいた10年前、私の父に秘密を明かし、いつの日かウーゴが息子を認識できるよう、確かな証拠を残していったのです。

**コッラード** (*不安でぞっとして*)

それで終わりか。

**マリア**

でも、ご存じのように、卑劣で凶悪な犯罪に染まっていたウーゴは、ドイツの海岸で、死刑執行人によって処刑されたのです。

**コッラード**

ウーゴの息子は？

**マリア**

あなたよ。

**コッラード**

私の父は人殺しだったと！

**マリア**

落ち着いて...

**コッラード**

恐ろしい寒気が五臓六腑に染み渡る！

**マリア**

永遠のヴェールが秘密を覆い隠すよう、私が証拠を消し去りましょう。

世間の目はこれまでと同じ。

ああ、マリアにとってのあなたに戻ってください。

**コッラード**

え？

**マリア**

思い出して、不実の人、私にどれほどの犠牲を強いたかを！

⑤

あなたは私の目を

苦い涙の泉に変えたのです...

La fama, il padre, ah, misera!  
per te crudel perdei...  
Pur non t'abborro, e supplice  
alle tue piante io cado...  
Tutto m'hai tolto... Ah! rendimi,  
rendimi almen Corrado...  
e come il ciel s'adora, giuro adorarti ognor.

**CORRADO**

(Ah! chi sopisce l'odio,  
chi l'ire in sen mi smorza?  
Qual mai potere insolito a lagrimar mi sforza!  
Quell'angoscioso gemito le vie del cor mi tenta!  
Provo un arcano palpito  
che un'altra età rammenta!...  
Così l'intesi allora che m'arse il primo amor!)  
*(commosso all'estremo, fa un rapido movimento per uscire.  
Maria lo ritiene per la destra)*

**MARIA**

Parti?...

**CORRADO**

(Orribili momenti!...)

**MARIA**

E pietà di me non senti?...

**CORRADO**

Sol pietà...

**MARIA**

Colei mi priva d'altro affetto!...

E questa mano?...

**CORRADO**

Fia...

**MARIA**

Non dirlo. Sin ch'io viva,  
traditor, lo spero invano...  
Or che tardi? Avventa omai  
quell'acciaro in me, spietato...  
Ma risorger mi vedrai  
truce spettro, insanguinato...  
Di tue nozze il giorno, il rito  
di spavento colmerò.  
E del talamo abborrito  
l'empie gioie troncherò.

**CORRADO**

Furor vano, stolti accenti!...  
Me non cangia una minaccia.  
Pria che fosco il ciel diventi  
fia Matilde in queste braccia.

{**MARIA**

Ah!... Di rabbia son furente!... Me tu sfidi!...  
Separarti da Matilde eternamente posso,  
iniquo, e pria che parti.

**CORRADO**

(Ciel!...)

**MARIA**

Non pensi, sciagurato,

名声も、父も、ああ、惨めにも！  
私はあなたのせいで失ったのです。  
でも私はまだあなたを愛しています、  
あなたの足元にひれ伏します…  
あなたは私の全てを奪い去った…ああ！返して、  
せめてコッラードを返して…神を崇拝する者として、  
永遠にあなたを愛することを誓います。

**コッラード**

(ああ！私の憎しみを静めるのは誰なのか、  
私の怒りを和らげるのは誰なのか？  
得体の知れない力が私に涙を流させる！  
苦悩のうめき声は私の心を動揺させる！  
過ぎ去った日々を思い出させる  
不思議な鼓動を感じる！…  
初めて恋に落ちた時は、こんな感じだったかと！)  
*(とても動揺して急いで退場しようとするが、マリアが手を掴んで引き止める。)*

**マリア**

行くの？

**コッラード**

(恐ろしい時間だ！…)

**マリア**

私には哀れみを感じないの？

**コッラード**

哀れみ…

**マリア**

彼女は私から愛する人を奪ったのよ！…

そして、この手は？…

**コッラード**

きっと…

**マリア**

言わないで。裏切り者、  
私が生きている限り、願っても無駄よ…  
何をぐずぐずしているの？悪党よ、  
お前の剣を私の胸に突き刺すがいい…  
でも私が生き返るのを見るだろう、  
血に染まった恐ろしい亡霊を…  
お前たちの結婚式の日  
私が恐怖の儀式を執り行う。  
お前たちの憎むべき新婚の床で  
邪悪な喜びを邪魔してあげるわ。

**コッラード**

無駄な怒り、愚かな言葉！…  
脅かされても私の考えは変わらない。  
暗くなる前に  
マティルデはこの腕の中だ。

{**マリア**

ああ！私は怒り狂っている！私に逆らうのね！…  
お前をマティルデから永遠に引き離してやる。  
邪悪な人、お前がここを去る前に。

**コッラード**

(神様！…)

**マリア**

耳を貸さないのね、惨めな男、



in qual tetto il piè mettesti!  
Qui l'oltraggio invendicato mai non fu!

**CORRADO**

Che dir vorresti?...

**MARIA**

De' terribili avi miei seguirò l'esempio.

*(Ella preme una molla, e le pietre che formano  
la soglia della porta in fondo spariscono)*

Mira.

**CORRADO**

Quale abisso!

*(ad un movimento di Maria le pietre si ricompongono)*

**MARIA**

Di colei fia la tomba.

**CORRADO**

No!

**MARIA**

{Quest'ira che m'avvampa spegner vuoi?}

Vuoi salvarla?

**CORRADO**

Sì... Che imponi?

{**MARIA**

Morirà sugli occhi tuoi se vacilli, se t'opponi!...

**CORRADO**

Parla, parla.}

**MARIA**

Déi giurarmi fede eterna, eterno amor.

{**CORRADO**

Ah!}

**MARIA**

Resisti!... E provocarmi, forsennato, ardisci ancor!

*(Lo stato di Corrado è qual d'uomo posto alla disperazione.)*

**CORRADO**

Io giurar? Ah! È d'altra il cor...

Né frangere m'è dato i lacci suoi...

barriera insuperabile pose il destin fra noi...

Desisti!... Non astringermi a rio misfatto estremo...

Più che per lei non tremo,

tremar tu déi per te!

**MARIA**

Giura, o l'istante orribile della vendetta è giunto!...

Distruggerà la vittima un cenno, un detto, un punto!...

Fu mio quel cor, dev'essere

un'altra volta mio...

Ora il destin son io:

fuggir non puoi da me. Giura.

**CORRADO**

Non mai...

**MARIA**

Non mai? Matilde!

*(Chiamando verso la porta in prospetto,  
e ponendo la destra sulla molla)*

**CORRADO**

Ah! Taci! Ah! Cessa.. Taci!

お前が冒険したこの屋根の下では!

ここでは無礼が報復されなかったことはないのよ!

**コッラード**

どういう意味だ?

**マリア**

私は恐ろしい祖先をお手本にします。

*(彼女がバネを押すと、後ろのドアの敷居の石が隠れる)*

しっかり見るのよ。

**[6] コッラード**

何という奈落!

*(マリアが再びバネを押すと、石が現れる。)*

**マリア**

あの女の墓になるのよ。

**コッラード**

ダメだ!

**マリア**

{私の心に燃えさかる怒りを消していただける?}

彼女を救いたいなの?

**コッラード**

そうだ...私はどうすればいいんだ?

{**マリア**

お前がためらい、反対するなら、彼女はお前の眼前で死ぬ!

**コッラード**

言ってくれ。}

**マリア**

私に誓いなさい。永遠の誠実を、永遠の愛を。

{**コッラード**

ああ!}

**マリア**

拒否するのね! あえて私を怒らせるのね、この悪党!

*(コッラードはすっかり絶望した様子。)*

**コッラード**

誓わねばならない? ああ! 私の心は別の人のもの...

この絆を断ち切ることはできない...

運命は私たちの間に越えられない障壁を置いた...

やめてくれ...私に究極の大罪を強制しないでくれ...

私が彼女のために震える以上に、

あなたがあなた自身のために震えねばならないのだ!

**マリア**

誓うかそれとも復讐の恐怖の瞬間が今、訪れたのよ!

合図、言葉、瞬間が犠牲者を破壊するのです!...

お前の心は私のものであったし、

永遠に私のものでなければならぬ...

今、運命は私の手中にある。

お前は私から逃げられない。誓いなさい。

**コッラード**

いやだ...

**マリア**

いやですって? マティルデ!

*(後方のドアに向かって呼びかけ、右手をバネに置く。)*

**コッラード**

黙るんだ! おお! やめろ...

**MARIA**

Giura!... Giura!

**MARIA**

Matilde!...

**CORRADO**

Tu lo vuoi! Mori...

*(le configge il pugnale nel petto)*

**MARIA**

Ah! ...

*(cade mettendo un grido acutissimo)*

**Scena quarta**

*(Matilde dal fondo, Rambaldo ed Armigeri dalle porte laterali: tutti accorrendo.)*

**RAMBALDO ed ARMIGERI [RETAINERS]**

Oh, ciel!...

**MATILDE**

Maria trafitta!...

**RAMBALDO** *(accennando Corrado rimasto immobile e come stupidito dall'orrore)*

Ed ecco l'assassin!...

**CORRADO**

Che feci!...

**RAMBALD ed OARMIGERI** *(alzando le spade sul di lui capo)*

Mostro, paventa...

**MARIA**

Fermate... Io mi svenai... Ch'ei viva...

**MATILDE, RAMBALDO e ARMIGERI**

E spenta!

**PARTE TERZA**

**LO SPETTRO**

**Scena prima**

*Atrio del castello. Da un lato cappella gentilizia, internamente illuminata: in fondo a traverso dell'intercolumnio, veduta del parco lambito dal fiume: splende la luna.*

*Molti armigeri e vassalli di Rudenz, aggruppati a qualche distanza, dalla porta del tempio.*

**ARMIGERI**

Sì, quell'ombra sepolcrale scarmigliata, in bruno ammanto, alla soglia nuziale fu veduta errar d'accanto.

**VASSALLI**

Qual presagio! E ancor vi fia quell'ardi to, quel demente, che lo spettro di Maria creda un sogno della mente?

**ARMIGERI**

Oh! se v'ha, non è Corrado, che all'udirne ammutolisce, e si turba, e suo malgrado trema tutto, e impallidisce.

**VASSALLI**

Non oblia però l'amore

**マリア**

誓いなさい!

**マリア**

マティルデ!...

**コッラード**

お前の望みだ! 死ぬ...

*(彼女の胸を剣で刺す)*

**マリア**

ああ!

*(激しい叫びとともに倒れる)*

**第4場**

*(マティルデは後方のドアから、ランバルドと家臣士たちはドア両脇のドアから入ってくる。)*

**ランバルドと兵士 [家臣] たち**

おお、神様!...

**マティルデ**

マリア様が刺されました!...

**ランバルド** *(自分のしたことで恐怖に固まっているコッラードを指さして)*

そしてここに人殺しが!...

**コッラード**

何ということをしてしまったのだろう!...

**ランバルドと兵士たち** *(コッラードの頭に刀を向けて)*

凶悪犯め、恐れよ...

**マリア**

止めて...私は自害したの...彼は生かして...

**マティルデ、ランバルドと兵士たち**

死んだ!

**第3幕**

**亡霊**

**第1場**

城の中庭。礼拝堂の片側の内部は明るい。回廊の奥には、川に囲まれた公園の景色。月の光に照らされている。礼拝堂の入口から少し隔たりをおいて、ルーデンツ家の武装した家臣たちと兵士たちがグループになって立っている。

**7** **兵士たち**

そう、墓場からやって来た亡霊は、髪をなびかせ、茶色の外套を着て、婚姻室の入口近くをさまよっているのを見たぞ。

**別の者たち**

何といやな前兆だ! まだお前たちは慌てたり取り乱したりしてマリア様の亡霊なんていう想像力の産物を信じているのか?

**兵士たち**

おお! そこにコッラードはいない、ショックで口が利けなくなり、動揺し、不本意にもぶるぶる震えて青ざめていた。

**別の者たち**

でも彼は決して愛を忘れない、

cagion rea di lutto e pianto!  
Ma nel tempio il mancatore  
tristi nodi forma intanto.

**ARMIGERI**

Ad Enrico tale imene  
parve ancor si sciagurato,  
che fuggendo queste arene  
ha il fratello abbandonato!...

*(Odesi musica religiosa.)*

**TUTTI**

Dileguiam... Si ceda il campo  
alla gioia d'empio amor...  
Sarà breve come lampo;  
se v'è un Dio vendicator!

*(partono)*

**Scena seconda**

*Enrico ansante e coperto di polvere dal fondo della scena, e Rambaldo dal tempio.*

**RAMBALDO**

Tardi, ah! tardi giungesti!...

**ENRICO**

E che!

**RAMBALDO**

Fu sciolto d'Imene il voto.

**ENRICO** *(traendo alcuni fogli)*

Iniqua sorte!... Oh! dimmi,  
tu forse?...

**RAMBALDO**

Riede il nuzial corteggio!...

Va... t'allontana... io deggio recarmi altrove...

*(Ahi misera! Che fia, che fia di te!...)*

*(parte frettoloso)*

**ENRICO**

L'ignoto messo adunque Rambaldo a me spedia?

Prove fatali d'alto mistero, ah!

Perché mai non v'ebbi un dì soltanto, un'ora pria?

{M'avverte il foglio annesso, che l'arcan sapea Corrado,  
e quella face che m'arde in sen... }

Tacesti, o vil, tacesti onde rapirmi l'adorata donna  
impunemente!

*(il corteggio nuziale attraversa l'atrio)*

Orrida notte è questa!...

Benda feral mi copre i lumi!...

**Scena terza**

*Corrado, Matilde, paggi con torce accese, dame, cavalieri e detto.*

**ENRICO** *(a Corrado trattenendolo. Tutti gli altri proseguono il loro cammino con la sposa, salendo una scala che mette agli appartamenti della festa)*

Arresta.

**CORRADO**

Onde riedi? Che mai brami?

**ENRICO**

Il tuo sangue.

悲しみと嘆きの原因なのに!

しかし礼拝堂では、不実な誓いがなされ、  
不当な結婚の絆を結ぶのだ。

**兵士たち**

エンリーコにとってこの結婚は

非常に不幸に思えたので、

この土地から逃げ出し

兄を捨てたのだ!

*(礼拝の音楽が聞こえる)*

**全員**

解散しよう...罪深い愛の儀式に

場所を明け渡そう...

復讐の神がいるなら、

一瞬の稲妻のように瞬時に事をなすだろう!

*(退場する)*

**第2場 二重唱**

エンリーコは息を切らして埃まみれで後ろから入場し、  
ランバルドは礼拝堂からやって来る。

**8** **ランバルド**

遅かったですね、ああ! やっとお着になられた!...

**エンリーコ**

それあの件は!

**ランバルド**

結婚の誓いが交わされました。

**エンリーコ** *(何枚かの紙を取り出して)*

忌まわしい運命だ!...おお、教えてくれ、

ひょっとして?

**ランバルド**

婚姻の行列が戻ってきました!...お行きください...

身をお引きなさい。私は他所に行かねばなりません...

*(ああ、ご不幸な! あなたはどうなるのでしょうか!)*

*(急いで退場する)*

**エンリーコ**

それなら、見知らぬ使者を私に送ったのは

ランバルドだったのか? 大きな謎の決定的な証拠を、

一日、せめて一時間早く受け取れなかったものか?

{この書類によれば、コッラードが秘密と私の胸に燃える愛情を  
知っていたことになる...}

あなたは黙っていた、おお、卑劣な男、私の愛する女性  
を無難に私から引き裂くために黙っていたのだ!

*(婚姻の列が中庭を横切る)*

恐ろしい夜だ!

死の目隠しが私の目を覆い隠す!...

**第3場**

コッラード、マティルデ、松明を手にした小姓たち、淑女  
たち、紳士たちとエンリーコ。

**エンリーコ** *(コッラードを妨げ、引き留める。他の者たちは皆、花嫁と一緒に歩き続け、祝典が執り行われる部屋に  
つながる階段を昇る。)*

止まってください。

**コッラード**

どこから来たんだ? 何を望んでいるのだ?

**エンリーコ**

あなたの血です。

**CORRADO**

Il sangue mio!... Ah! Fratel!...

**ENRICO**

Fratel mi chiami?

Nacqui forse, nacqui anch'io  
dal ribaldo, a cui la scure fe' cader l'iniqua testa?

**CORRADO**

Oh! che intendo!...

E sai tu pure verità così funesta!

**ENRICO** (*mostrandogli le carte*)

N'ho le prove.

Un altro arcano tu sapesti!

Quell'amor, che m'infiamma...

**CORRADO**

E ardisci...

**ENRICO**

Lo sapesti! Quell'amor..Io..Io

**CORRADO**

Insano!

Cessa... Taci; o il mio furore...

**ENRICO**

Io lo sfido...

(*Entrambi colla mano sull'elsa. reprimendosi ad un tratto*)

**CORRADO** (*reprimendosi ad un tratto*)

No... T'amai qual fratello...

e t'amo ancor. Vivi... e fuggi.

**ENRICO**

Tu non sai di qual tempra è questo cor!

A me, cui financo la speme togliesti  
sarebbe la vita supplizio di morte!...

Tu lieto frattanto i giorni trarresti  
in sen di Matilde, beato consorte!...

No: fin che una stilla di sangue mi resta,  
indarno lo spero... oppormi saprò...

Fu scritta nel cielo condanna funesta;  
ed uno fra noi più viver non può!

**CORRADO**

Il primo de' beni ancora t'avanza,  
un core innocente!... Di perderlo trema!...

Non sai del rimorso quant'è la possanza!

Non sai quanto è grave la mano suprema!

Ahi! misero l'uomo di colpe bruttato,  
che al cenno dell'ira il ferro vibrò!

Eterna è la macchia del sangue versato...

Un fiume di pianto lavarla non può!

**Scena quarta**

*Alcuni cavalieri e detti.*

**CAVALIERI**

Te, signor, Matilde appella.

**CORRADO** (*piano ad Enrico*)

Vanne, e scorda un folle amore.

(*in atto di partire*)

**ENRICO**

Ferma, indegno...

**コッラード**

私の血だと！… ああ！弟よ！…

**エンリーコ**

私を弟と呼ぶのですか？

私も、頭を斧で切り落とされたならず者の  
子どもだったというのですか？

**コッラード**

おお！何だって！…

お前もこの宿命的な真実を知ったのか！

**エンリーコ** (*書類を見せながら*)

証拠があります。

でも、あなたをご存じの別の秘密もあります！

私の胸を激しく焦がす愛…

**コッラード**

それでも、あえて…

**エンリーコ**

気付いていたくせに！この愛は…私は…

**コッラード**

気でも狂ったか！

やめろ…黙らないと私は逆上するぞ…

**エンリーコ**

あなたの怒りなどクソ食らえだ…

(*二人とも劍の柄に手をかける。*)

**コッラード** (*突然、抑制して*)

いや…お前を愛している、兄弟として…

今でも愛している。生きるのだ…逃げろ。

**エンリーコ**

あなたは知らない、私の心の叫びを！

⑨ 私にとっては、あなたに希望を奪われただけでなく、

人生は死の拷問となることでしょう！…

その間、あなたは祝福された夫として、  
マティルデの腕の中で過ごすことでしょう！

いや、一滴の血が残っている限り、  
そんな幸せを願っても無駄です…私が阻止します…

天は宿命的な判決を下しました、  
私たちの誰もこれ以上生きることは出来ないと！

**コッラード**

最も大切な宝物はまだお前のものだ、  
それは潔白な心だ！…それを失うことを恐れよ！

お前は後悔の重さを知らない！

お前は全能の神の手の重さを知らないのだ！

ああ！怒りに駆られて犯罪に堕ちた惨めな男に、  
劍の一撃を！

血が溢れた染みは永久に消えない…

涙の川もそれを洗い流すことはできないのだ！

**第4場**

*数名の紳士、コッラード、エンリーコ。*

**紳士たち** (*コッラードに*)

マティルデ様がお呼びです。

**コッラード** (*小声でエンリーコに*)

行くのだ、そして狂気の愛を忘れるのだ。

(*立ち去ろうとする*)

**エンリーコ**

待て、卑怯者…

**CAVALIERI**

Qual favella!

**ENRICO**

Siam rivali...

**CAVALIERI**

Ciel... Che orrore!

**ENRICO**

Mio fratel, non è costui...

*(sorpresa nei cavalieri)*

Un infame, un assassino fu suo padre...

più di lui egli è vile.

*(si slancia sopra Corrado, gli strappa l'ordine dei conti di Rudenz e lo calpesta)*

**CAVALIERI**

Ah!... Che orror!

**CORRADO** *(tremante di rabbia)*

Rio destino!...

Tu colpevole mi rendi!

**CAVALIERI**

*(Egli d'onta lo copri!...)*

**ENRICO**

Snuda il ferro. Ebben, che attendi? Vieni.

*(accennando verso il parco)*

**CAVALIERI**

Ah! pensa...

**ENRICO**

Vieni.

**CORRADO** *(sguainando la spada)*

Sì.

**ENRICO / CORRADO**

Un di noi più viver non può!

**ENRICO**

O tremenda gelosia

che m'ardesti, e m'ardi ancora,

o furor dell'alma mia

di sfogarvi è giunta l'ora!

Se alla sposa rieder vuoi

nel mio sangue déi bagnarti...

Sommo ben mi fia svenarti,

sommo ben mi fia morir.

**CORRADO**

Ch'ei snudar mi fe' la spada,

terra e cielo, io voi ne attesto.

Ah! l'orrore su lui ricada d'una pugna ch'io detesto.

Notte, addensa i veli tuoi, copri tu sì fero evento...

Ah! di vincere pavento,

non pavento di morir!

**CAVALIERI**

*(Ah! di morte i detti suoi*

*furo acerba e ria disfida!*

Tanto oltraggio sangue grida!

Sprona all'armi tanto ardir!)

**ENRICO & CORRADO**

Vieni!

紳士たち

何という言葉!

エンリーコ

我々は恋敵同士だ...

紳士たち

神様...恐ろしい!

エンリーコ

こいつは兄弟ではない...

*(紳士たちは驚く)*

彼の父親は悪名高い犯罪者、殺人者だった...

そして彼は父親よりもさらに卑怯だ。

*(エンリーコはコッラードに飛び掛かり、ルーデンツ家の家紋をはぎ取り、足で踏みつける)*

紳士たち

ああ!... 恐ろしい!

コッラード *(怒りに震えて)*

忌まわしい運命!...

私を罪人にしたのはお前だな!

紳士たち

*(彼は恥辱にまみれている!...)*

エンリーコ

剣を収めるのだ。で、何を待っている? 来い。

*(庭を指さす)*

紳士たち

ああ!よく考えて...

エンリーコ

来い。

コッラード *(剣を抜く)*

よし。

エンリーコ/コッラード

我々のうち1人はこれ以上生きられない!

10

エンリーコ \*マティルデ

おお、恐ろしい嫉妬が私を燃え上がらせ、  
今でも燃えている。

怒りは私の魂を満たしており、

あなたにぶちまける時が来た!

花嫁\*のもとに戻りたいなら、

まず私の血潮を浴びねばならない...

私の最大の幸福はあなたを殺すことで、

私の最大の幸福は死ぬことだ。

コッラード

天と地よ、証人になりたまえ、

私に剣を抜かせたのは弟です。

ああ、嘆かわしい決闘の恐怖が弟に降りかかり、

夜が更けて忌まわしい出来事を覆い隠すように...

ああ!勝つことが恐ろしいが、

死ぬことは恐ろしくない!

紳士たち

*(ああ!彼の言葉は憎しみを込めた*

*神をも恐れぬ反抗だ。*

こんな怒りは血を求める!

そんな大胆さは戦闘に拍車をかける!

エンリーコとコッラード

来い!

**ENRICO**

All'armi!

**CORRADO**

Andiam... all'armi!

(Entrano nel parco.)

**Scena quinta**

*Magnifica galleria. Scala nel fondo, che mette ad altri appartamenti: da un lato la porta della stanza nuziale, dall'altro un verone. Le pareti sono inghirlandate di fiori, e da per tutto sfolgoreggiano vaghe faci. Già le orchestre rimbombano in suono giulivo, le danze già sono incominciate: si vede in ogni dove un gaio movimento di paggi, dame e cavalieri: molti sono elegantemente mascherati. Matilde è assisa in mezzo a lieto corteggio, ed a quando a quando volge d'intorno lo sguardo inquieto, come in cerca di Corrado. Durante i balli cantasi il seguente:*

**CORO**

O giovinetta sposa, soave sei, gentile!

Gentil come la rosa d'un bel mattin d'aprile,

soave al par di candido modesto gelsomin:

sei grata più d'un'aura che spira dal giardin.

*Intanto una donna mascherata traversa la scena in fondo, e mentre l'universale attenzione è rivolta alla danza, entra rapida e furtiva nella stanza nuziale. Un paggio si accosta a Matilde, e le parla sommessamente; ella sorge, ed accompagnata da alcune dame, si ritira nella stanza suddetta. Dopo qualche istante Corrado si mostra sull'alto della scala, circondato dai cavalieri che lo seguirono alla scena precedente: le dame escono dalla stanza di Matilde: tutti si congedano con lo sposo, ed egli resta solo.*

**Scena sesta**

**CORRADO** (dopo un istante di cupo silenzio apre il verone, e getta via la spada)

Ah! Fra gli amplessi tuoi scordar Matilde  
a me sia dato, qual orrendo prezzo essi costaro!...

(odesi un gemito soffocato nella stanza di Matilde)

Acuto mi feria grido gemente!...

(accorre verso la porta, ma ne retrocede raccapricciato)

Ah!... l'ombra di Maria!...

**Scena settima**

*Maria e Corrado. Ella è ritta immobilmente sulla soglia, e chiusa in lungo ammanto.*

**MARIA**

Tel dissi che risorta dalla tomba sarei!

Che riveduta m'avresti accanto al nuzial tuo letto!

Eccomi. Tremi?

**CORRADO**

Ho il gel... di... morte... in petto!...

**MARIA**

Mostro iniquo, tremar tu dovevi  
in quel fero, in quell'orrido istante,  
che a Matilde sull'ara porgevi  
del mio sangue la mano stillante,  
quando irato l'Eterno ascoltava  
empio voto d'amore e di fè...

Oh! Se il tempio in quel punto crollava,

**エンリーコ**

武器を取れ!

**コッラード**

行こう...武器を取るのだ!

(庭に入る)

**第5場**

大きなアーケード。後方には、他の部屋に続く階段。片側には婚姻室へのドア、反対側にはバルコニーがある。壁には花環が飾られ、いたるところで松明が明るく輝いている。オーケストラはすでに楽しい音楽を奏でており、舞踏も始まっている。小姓たち、紳士淑女たちがあちこちを活発に動き回っている。多くは優雅に仮面をつけている。マティルデはご機嫌な群衆の中程にいますが、コッラードを探しているかのように、常に落ち着きなく視線を巡らせている。舞踏の間、女性たちは以下のように歌う。

**11** 女性たちの合唱

おお、若い花嫁さん、あなたは優雅で愛らしい!

4月の晴れた朝のバラのように上品だ。

白いジャスミンのように控えめに甘い。

庭から吹いてくる微風よりもあなたを歓迎します。

その間、仮面を着けた女が舞台後景を横切る。皆の目が舞踏に向いているその時、婚姻室に足ばやに人目を忍んで入る。小姓がマティルデに近づき、そっと話しかける。彼女は立ち上がり何人かの女性を伴って婚姻室に引込む。しばらくすると、前景で付き添っていた紳士たちに囲まれてコッラードが階段の上に見れる。女性たちがマティルデの部屋から出てくる。全員が花婿を残してし、コッラードがひとり残る。

**第6場**

**コッラード**

(憂鬱な沈黙の後、バルコニーの窓を開け、剣を捨てる。)

ああ! あなたの腕の中で、マティルデ、  
私が払った大きな代償を忘れさせてください!...

(息が詰まるような叫び声がマティルデの部屋から聞こえる)

叫び声が私の耳を襲ったぞ!

(ドアの所に走るが、ぞっとして後ずさりする)

ああ!...マリアの亡霊だ!...

**第7場**

マリアとコッラード。マリアは長い外套に身を包み、婚姻室の敷居の所に立ち続けている。

**マリア**

教えてあげる、墓場から甦ったのよ!

お前の結婚の床の隣で私にまた会えるということ!

私はここにいる。震えているの?

**コッラード**

私は...心の中に...死の氷を感じる!...

**13** マリア

邪悪な怪物よ、お前はあのひどい、  
あの恐ろしい瞬間に震えるべきだったのよ。  
祭壇でお前はマティルデに手を差し伸べた、  
いまだ私の血で濡れている手を。

怒りの全能の神が、

お前の愛と信仰の不正な誓いを聞いた時...

おお! もしその時に礼拝堂が崩れ落ちていたなら、

scellerato, era meglio per te!

**CORRADO**

Ah! di lei... di Matilde, che festi?

**MARIA**

Entra, e vedi. Mostro iniquo!

*(Spalancando la porta, Corrado vi si precipita, ma ritorna  
immanentemente coperto di estremo pallore, e con le chiome ritte  
sulla fronte.)*

**CORRADO**

Gran Dio!... Trucidata!... O mia sposa!...

**Scena ultima**

*Rambaldo, paggi, familiari, armigeri e detti.*

**CORO** *(ancor dentro)*

Quai gridi son questi!...

**CORRADO**

Fu svenata Matilde!...

**CORO** *(uscendo)*

Svenata!... Ahi! lo spettro!...

*(spaventati, ed in atto di fuggire)*

**MARIA**

Spenta non son... Respiro!

*(facendo cadere il suo velo: tutti si arrestano, ella tiene la  
destra colà dove Corrado la ferì, e parla con istento, che a  
poco a poco si renderà più sensibile)*

{Quest'uomo pietoso

*(accennando Rambaldo)*

fe' recar la mia spoglia mortale ove dormono eterno

riposo gli avi miei... già la pietra funesta

sul mio capo ei piangendo chiudea...

quando un gemer somnesso lo arresta...

egli accorre... io tuttora vivea!...}

**CORO**

Oh!...

**CORRADO**

{Che intendo!...} Spietata!

**MARIA**

L'arcano serbai onde oppormi ad iniqui legami...

*(con riso feroce)*

Gli ho spezzati!

**CORRADO**

Ah, perversa!... E vivrai?...

*(come per trarre la spada, ma non trovandola si  
avventa ad alcuno per impadronirsi d'un brando)*

Un acciaio...

*(è trattenuto)*

**MARIA**

Tu spenta mi brami!... Sarai pago...

**RAMBALDO**

Che dici!...

**MARIA**

La vita, che abborrisco già fugge da me...

**CORRADO**

Matilde...

邪悪な奴、お前にとってはもっと好都合だったわね！

**コッラード**

ああ！お前はマティルデに何をしたんだ？

**マリア**

入って、良く見るのよ。邪悪な怪物め！

*(彼女がドアを開けるとコッラードが突入するが、すぐに  
戻ってくる。その顔は極度に青ざめ、髪は逆立っている。)*

**コッラード**

神よ！...虐殺された！... おお、私の花嫁よ！...

**最終場**

*ランバルド、小姓、召使い、武装した家臣、ほか*

**合唱** *(舞台裏で)*

何の叫びだ！...

**コッラード**

マティルデが殺された！...

**合唱** *(登場してきて)*

殺された！... あっ！亡霊だ！...

*(驚いて逃げようとする)*

**マリア**

私は息をしているし、生きていますわ！

*(マリアがベールを取る。皆、凍りつく。彼女の右手はコ  
ッラードに傷つけられたところを押さえ、苦しうに言葉  
を続ける。言葉は次第にはっきりし、感情がこもってくる。)*

{この哀れな男が

*(ランバルドを指して)*

私の屍体をご先祖様が永遠の眠りにについている

場所に運ばせました...

彼は泣きながら墓石を私の頭上で閉じた時...

低いうめき声が彼を止め、彼は駆けつけ...

私が生きているのを見つけたのです！...}

**合唱**

おお！

**コッラード**

{これでわかった！...} しぶとい女だ！

**マリア**

不当な結婚を阻止するために、隠れていたのよ...

*(激しく笑う)*

ぶち壊してやったわ！

**コッラード**

ああ、邪悪な奴め！...生かしておくものか？...

*(剣を抜こうとするが、見つからず、武装した家臣の1人  
に飛びかかり、剣を奪い取ろうとする。)*

剣...

*(他の家臣たちが押さえつけようとする)*

**マリア**

お前は私に死んで欲しいのね！...それがお望みね...

**ランバルド**

何を仰います！...

**マリア**

この憎むべき人生はすでに私から逃げ去った...

**コッラード**

マティルデ...

**MARIA**

Sarai pago... Riaperta è la cruda ferita...  
breve istante... e Maria più non è...  
*(analogo movimento generale: ella sorreggesi a Rambaldo)*

Al misfatto enorme e rio trascinata fui pel crine...  
Non ha legge, né confine oltraggiato, immenso amor.  
Quest'ingrato, l'onor mio ricovrì di negro velo...  
Ei m'ha tolto vita... e cielo...  
Quest'ingrato... io l'amo ancor!

**{CORRADO**

Ah! Mi punisce con la vita,  
Dio tremendo, il tuo rigor.}

**LE DONNE**

L'alma ho tutta sbigottita!...

**GLI UOMINI**

Oh, qual notte di terror!

*(I segni della morte di Maria si rendono più manifesti.)*

**RAMBALDO**

Ah! d'un farmaco l'aita... Un soccorso...

**RAMBALDO e CORO**

Che orror!...

**MARIA** *(dilatando le bende della sua piaga)*

No... no... no...

Or m'aspetta infame tomba  
senza prece... e senza pianto...

*(a Rambaldo)*

Fra i mortali... tu soltanto resti...  
a spargerla d'un fior!

Io già manco!... In sen mi piomba  
della morte orrendo il gelo!...

*(strascinandosi presso Corrado)*

Mi togliesti vita... e cielo!

**CORRADO**

Ah! perdon...

**MARIA**

Ti perdono... e... t'amo... ancor...

*(cade morta a' piè di lui)*

**CORO**

L'alma ho tutta sbigottita!...

Oh, qual notte di terror!...

**CORRADO** *(esterrefatto)*

{Ah! Vieni abbracciami...}

Mi punisce con la vita,

Dio tremendo, il tuo rigor!

**マリア**

それがお望みね... 生傷は再び開き...  
もうじき...マリアはもう...

*(恐怖に襲われた時の動作が見られ、ランバルドにもたれかかる)*

14 私は極悪非道の犯罪に巻き込まれた...  
無限の愛が侮辱された時、そこには法則も限界もない。  
この恩知らずは私の名誉を黒いベールで覆い隠した...  
この男は私から命と...神を奪い去った...  
この恩知らず...私はまだ愛しています!

{コッラード *(驚愕と恐怖の状態)*

ああ! 全能の神よ、あなたの厳しさは  
私を生き残らせることで私を罰するのですね。}

**女たち**

心底驚いた!...

**男たち**

何と恐ろしい夜だ!

*(マリアの死が近づいている兆候がはっきりしてくる)*

**ランバルド**

ああ! 薬を持って来て... 救命を...

**ランバルドと合唱**

何と恐ろしい!...

**マリア** *(傷の包帯をはずして)*

いません...

不名誉な墓が私を待っている時刻です、  
祈りもなく...涙もなく...

*(ランバルドに)*

死すべき者のうち...あなただけは生き残るのです...  
花を捧げるために!

私はもうダメ!...

氷のような恐ろしい死がやって来る!...

*(コッラードに近寄り)*

あなたは私の命と...神を奪ったのです!

**コッラード**

ああ! 許してくれ...

**マリア**

許します...そして...愛しています...今でも...

*(コッラードの足元に死んで倒れる)*

**合唱**

心底驚いた!...

おお、何と恐ろしい夜だ!...

**コッラード** *(驚愕して)*

{ああ! こちらへ来て、抱きしめてくれ...}

私を生き残らせることで私を罰するのですね、  
全能の神よ、あなたの厳しさは!

**F I N E**

**幕**





# 音楽科における ICT の活用実践の工夫

## Utilization practice and invention of the “ICT” in music course

益 子 徹

### 1. はじめに

2020年初旬に新型コロナウイルス（COVID-19）が確認され、約3か月間で日本全国に感染が拡大、4月中旬に緊急事態宣言対象が全国に広がったことを受け、本学でもオンライン授業の対応を求められた。

音楽科では、講義や演習及び実技レッスンで科目構成しているが、それぞれどのような対応を行い、そこでICTがどのように活用されたか、その実践を報告としてまとめていく。

### 2. 講義において

コロナ感染予防対策としての講義における初期対応をまとめてみる。

2020年度前期は予定通り始まったが、緊急事態宣言により対面授業を当面控えることになったため、4月6日から2週間の自宅研修となった。その間の学修課題として、「レポート課題（2題）をメールにて提出」を提示し、学校再開を待つこととなった。



しかし、その後、県からの外出自粛要請が出たため、学生の登校を一時的に中止、自宅研修期間を延長することになり、そのため、改めて各先生からの学修課題を集約しホームページ等で学生に周知、メールにて課題を回収することになった。

同時にWeb会議サービス（zoom）を利用したオンライン授業の対応準備もすすめることになった。Web会議サービス利用にあたり、アプリのインストール等の準備が必要なため、学生・生徒、教員には、文書を配布し、参考サイトを提示し、利用に際し支障がないよう



### 3. レッスンにおいて

オンラインレッスン実施に当たり、学生・生徒がどのような機材を持っているかによって対応方法が変わる。ほとんどの学生・生徒がスマートフォンは所持しているが、当時ノートパソコンやタブレットを所持している学生・生徒は少なく、スマートフォンを用いることを前提に対応することにした。

オンラインレッスンの形態としては、相互通信もしくは動画のやり取りが考えられる。相互通信の方法としては、

- ・zoomなどのWeb会議サービスの利用
- ・LINEやSKYPE、FaceTimeなどのビデオ通話の利用

が挙げられる。

学生・生徒にとってはLINE通話が便利なようではあったが、音質や通信状況が不安定になることがあった。筆者はiPhoneを使用しているため、iPhoneを使用している学生にはFaceTimeをレッスンに用いたが、安定した通信、また高音質で、使用に問題を感じることはなかった。



スマートフォンを用いたレッスンのために準備した機材としては

- ・スマートフォン本体
- ・マイク付きイヤフォン
- ・スマートフォン固定ホルダー（三脚に付けて使用）

である。

これらを用い、通信環境が良ければ、ビデオ通話上で相互レッスンが可能になるが、つながりにくい、途中で回線が止まるなどの場合も考え、学生・生徒にあらかじめレッスン課題や練習のポイントを短い動画（スマートフォンで撮影）で送っておくことで、スムーズに進めることができた。

オンデマンド動画形式の場合は、動画素材を準備する時間を確保することができるので、機材選択の幅が広がる。たとえば、

- ・ビデオカメラ
- ・外部マイク

を用い、PCにて動画編集することで、高画質・高音質の動画を作ることが可能になる。相互通信でもこれらの機材は利用できるが、セッティングに時間がかかることや、設置スペースの問題が生じてくることもあるので、スマートフォンやタブレットを用いた方が利便性

が高い。

相互通信でのレッスンが難しかった場合は、練習の様子を動画にて撮影してもらい、それを教師が見てフィードバックする方法（オンデマンド）が考えられるが、長時間の動画は容量が大きいため、データの送受信に困難を生じる可能性がある。しかし、GigaFile便などのファイル転送サービスを用いることで解消できる。

#### 4. 講義での活用

ここまで、コロナ禍における講義及びレッスン対応の概略をまとめたが、対面授業を行っている現在でも、様々なツールを用いてICT活用に取り組んでいる。

##### (1) Classroomの活用



(スマートフォンのスクリーンショット)

Googleが提供しているClassroomにおいては、ホームルームや教科ごとのクラスを作成、ドキュメントを共有することで、授業中に資料を参照や、課題のやり取りが容易にできる。

筆者が担当している音楽科教育法の授業内で行っている模擬授業では、指導案を授業担当者がドキュメントアプリを用い作成、教科クラス内にアップロードすることで、その他の学生は、スマートフォンやノートPCで参照することができ、印刷することなく内容を確認することが可能である。

##### (2) 動画サイトの活用

音楽科の授業において参考音源や参考動画は、鑑賞教材の指導において不可欠なものであるが、プロジェクターやモニターで視聴するだけでなく、リンクを共有することで、学生・生徒が個々に視聴することが可能である。特にオーケストラや民族楽器の映像は、なかなか手に入らないものもあるので、動画サイトでそのようなものが見つければ、授業を効果的に進めることができる。また、外国の景色を映像としてみることも可能になるので、作曲家が過ごした国の雰囲気を、より詳しく味わえることができる。教師側の準備としては、あらかじめ動画を検索・視聴し、内容を精査してリンク集としてまとめておくと、授業の展開がスムーズに行える。

### (3) その他の活用

音楽関係のICT活用としては、録画・録音編集が昔からおこなわれているが、それ以外に楽譜作成ソフトウェアを用いることで、器楽授業時の編曲作品を浄書、MIDI音源で再生したり、プロジェクターで黒板に五線を投影することで簡易音楽用黒板にしたりすることができる。また、プレゼンテーションソフトウェアを用いれば、板書の事前準備や参考画像等の取り込みにより、分かりやすいスムーズな展開が期待できる。

しかし音楽関連ソフトウェアや機材は、高額かつ特殊なものが多いことから、なかなか手にすることが難しいが、録画・録音編集のための機材及び編集ソフトウェア、楽譜作成ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアの準備と利用はますます必要となってくることだろう。

また、近年では論文などはPDFファイルでWeb上に公開されていることが多く、参考資料検索にはCiNiiやGoogle Scholarが便利である。

## 5. 最後に

ICT技術は日々進歩しており、常に新しい情報を収集するように努めている。それらをどう取り入れて、授業より分かりやすくするためにいかに活用していくか、また学校運営における活用方法や問題点を見極めたうえで、引き続きICTを研究していきたい。

#### <参考文献>

音楽科教育とICT(音楽指導ブック)/深見友紀子/著 小梨貴弘/著

#### <参考サイト>

Web会議サービス (Zoom)

<https://explore.zoom.us/ja/products/meetings/>

GigaFile便

<https://gigafile.nu/>

菅野雅紀Officail Web オンラインレッスンの手引き (生徒用)

[https://masanorisugano.com/download/Guide\\_Online\\_Lessons\\_for\\_Students\\_v5\\_3.pdf](https://masanorisugano.com/download/Guide_Online_Lessons_for_Students_v5_3.pdf)

菅野雅紀Officail Web オンラインレッスンの手引き (先生用)

[https://masanorisugano.com/download/Guide\\_Online\\_Lessons\\_for\\_Teachers\\_v5\\_3.pdf](https://masanorisugano.com/download/Guide_Online_Lessons_for_Teachers_v5_3.pdf)

赤松林太郎先生の動画チャレンジ

[https://www.youtube.com/watch?v=3VXNOBuiq\\_8](https://www.youtube.com/watch?v=3VXNOBuiq_8)

Finale (楽譜作成ソフト)

<https://www.finalemusic.jp/>

国立情報学研究所 (CiNii)

<https://ci.nii.ac.jp/>

Google Scholar

<https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja>

音楽科のICT機器活用

<https://www.ashitano-ongakushitsu.com/ict-1>



# スペイン歌曲の歴史と魅力

## History and fascinations of Spanish Songs

鎌 田 亮 子

今日、偉大なるスペイン人作曲家たちのピアノ曲や管弦楽曲、また、スペインという国をテーマとした楽曲が多く演奏されるようになり、スペイン音楽もようやく日本に浸透してきたところではないだろうか。しかし、皆さんは「スペイン歌曲」という言葉を聞いてどんなイメージを持たれるだろう。また、思いつく作品がどれくらいあるのだろう。

実際、私は声楽の勉強を始めて長らくスペイン歌曲に出会うことがなく、その存在すら曖昧であった。しかし、あるときに偶々、バラエティーに富んだスペイン歌曲集に出会い、その想像していた“スペインらしさ”だけでない魅力に魅了されてしまい、その翌年には短期ではあるが、単身スペインへ渡りスペイン人の先生の教えを受けることとなったことは、私の人生における転機、あるいは事件(※何故ならその歌曲集との出会いは、当時フランス歌曲専攻として研究論文に取り組んでいる真最中であったから)と言っても過言ではない。

その魅力を皆さんに少しでも伝えたいという思いから、スペイン滞在中のエピソードを交えながら記述していきたい。

### ～サルスエラ～

まず、スペイン歌曲について語るうえで、『サルスエラ』の存在を述べなければならない。

スペイン人たちは、自分たちの伝統的な喜歌劇をサルスエラと呼んでいる。諸国ではオペラ・コミックやジングシュピール、オペレッタが似たものとなるが、その定義としては、①セリフ入りの音楽劇 ②物語がハッピーエンドで終わること などと言われるが、明確なものはない。サルスエラの特徴としては、もちろん、セリフも歌もスペイン語であり、何より“カステイソ castizo”であるということ。カステイソとは、「血統」を意味するカスタ castaに由来し、“純粋な、生粋のスペインぽさ”といった意味となる。サルスエラにみられるこの“カステイソ”こそ、後に述べることとなるグラナドスやファリャといった偉大なるスペインの名作曲家たちの作風に表れているのだと感じる。

ここでスペイン滞在時の一場面を思い出した。スペインには“サルスエラ”というスープ、煮込みのような伝統料理(※フランスでいうブイヤベースのようなもの)があるが、スペインでのサルスエラのアリアレッスンの際、私のスペイン歌曲の師であるミレイア・ピント氏に「あなたはサルスエラを食べたことがある？野菜も数種類、シーフードも数種類、色とりどりごちゃごちゃ楽しいでしょう！そして何よりたくさん煮込んでとっても深い味、スペインを感じられるのよ。このサルスエラのアリアってそんな感じ!!」と。

先生の口からは“カステイソ”という言葉こそなかったが、今思えばそういう事なのだ、沁みわたる。



さて、少しサルスエラの歴史について触れておこう。

サルスエラの発祥は17世紀頃。スペイン王フェリペIV世が、マドリードの近郊にあった別邸「サルスエラ宮」に喜劇役者たちを呼び寄せて、歌や踊りを交えた劇を楽しんでおり、これがサルスエラの名で呼ばれるようになったとされている。その後、18世紀後半頃まで流行は続き、スペインの人々を楽しませていた。しかし、時を同じくしてイタリア・オペラがスペインに入ってくるとたちまちイタリア・オペラ文化が盛んになり、また、スペインへやってきた伝説的な美声のカストラート歌手ファリネッリによりスペイン社会一体のイタリア好みに拍車をかけ、サルスエラが衰退していくのであった。18世紀最初のスペイン王は、フランスのブルボン家からきたフェリペV世であり、スペインの伝統的な文化などにはほとんど知識がなく、またその妻たちも同じことであったということも、イタリア・オペラの盛り上がり→サルスエラ衰退となった要因のひとつでもあるとされている。

余談…ファリネッリは、鬱症状で無気力に陥っていたフェリペV世を、その美しい歌声でたちまち完治させ、多大なる寵愛を受けていたという逸話があるそうだ。



フェリペIV世の別邸【サルスエラ宮】

そんなこともあり、スペイン独自の音楽文化の一つとして栄えたサルスエラは徐々に衰退していくのであった。後に、18世紀後半頃サルスエラの再ブームが到来するのだが、実際、現在のスペインにおいても、当時建てられたサルスエラ専用の劇場があるものの、スペイン人にも観光客にも根付いていないのが実情である。無論、日本でサルスエラにお目にかかることなどほとんど無いであろう。

## ～トナディーリャ～

ここでもうひとつ、サルスエラと同じように“純粋な、生粋のスペインぽさ”をもったジャンルが「トナディーリャ」である。

トナディーリャは、小規模な舞台音楽で、1750年頃からスペインで盛んになった。スペイン語で広い意味での“歌”を指す“トナーダ tonada”に由来している。スペイン語には縮小

語尾があるが、トナーダに縮小語尾を付けて“トナディーリャ tonadilla”と呼ばれる小唄のようなもののことである。トナディーリャの発端は、戯曲を上演する前の口上や、幕間に歌われたもので、それが単独のジャンルになったと言われている。これについての明確な定義も無いのだが、演奏時間は様々で、伴奏はフルート、オーボエ、ホルン、ヴァイオリン、チェロ、ハープシコード各1名ずつ程度の小アンサンブルであった。

トナディーリャの詩は、“マハ maja”と“マホ majo”たちの日常であり、その歌曲は何千とあるそうだ。ちなみに、マハとは日本語で“粋な女”あるいは“下町女”、マホは“粋な男”、“伊達男”などと訳されることが多い。私は、リサイタルなどではあえて訳さず、そのままマハ・マホとしてその気分を味わっている。



フランシスコ・デ・ゴヤによる【着衣のマハ】

### ～エンリケ・グラナドスのトナディーリャス～

そして、このトナディーリャに魅了され、作品を残した作曲家のひとりである、かの有名なエンリケ・グラナドスを紹介せざるを得ない。



エンリケ・グラナドス（1867～1916）はスペインの国民的作曲家として名高く、またピアニストとしても大変優れていたということは、数多くのピアノ作品から言うまでもない。

しかし、グラナドスにはピアノ作品だけでなく、絶品な歌曲が多く残されていることを知っていただきたい。中でも私は、「トナディーリヤス」という歌曲集に出会った時には、まだスペインの地に足を踏み入れたこともなかったが、その石畳の道を歩き、匂いを感じ、まるでそこで日常を過ごしている“マハ”を見ているようであったのを鮮明に覚えている。もはやマホがギターを抱えているのかと思うほどの情緒あるピアノ旋律と、可愛らしくもどこかメランコリックな歌の旋律は、アンサンブルなどというものでもなく、演奏するときはずっと、対話のように感じている。

「トナディーリヤス」は“昔風のスペイン歌曲集”と訳される12の小唄で構成されている。それぞれタイトルは下記のとおり。どの曲もタイトルだけで内容の想像が易い。

### 『Tonadillas 昔風のスペイン歌曲集』

1. Amor y odio 愛と憎しみ
2. Callejeo 町をぶらつく
3. El majo discreto 分別あるマホ
4. El majo olvidado 忘れられたマホ
5. El mirar de la maja マハのまなざし
6. El majo timido 内気なマホ
7. El tra-la-la y el punteado トララとつま弾いて
8. La maja de Goya ゴヤのマハ
9. La maja dolorosa No. 1 嘆きにくれるマハ No.1
10. La maja dolorosa No. 2 嘆きにくれるマハ No.2
11. La maja dolorosa No. 3 嘆きにくれるマハ No.3
12. Las currutacas modestas 控えめな下町娘たち

スペイン留学時代はバルセロナに滞在していたが、先生はちょうどヴァカンス期ということもあり、バルセロナから2時間ほどにある別荘でレッスンをされていた。私は2日に1度のペースで別荘まで通ってレッスンを受ける日々を過ごしたが、このグラナドスのトナディーリヤスを持参して初めて歌ったときには「あなたは毎回往復4時間、なにを見ているの？」と問いただされたのを覚えている。「あなたが今いるバルセロナは都会だけれど、行き帰り4時間も電車で揺られていたら色んなことが起こるでしょう？きっとどこかで“スペインの粹”に出会えるはず！」と。それならばと、自身のアンテナを立てながら生活してみると確かに、様々な人間同士の“粹”なやり取り(地下鉄の入り口に常に戦車が配置され、毎日どこかで他愛のない揉め事が起き、ライフルを持った軍人が止めに入るとかそういうことではない※実際滞在期間中、日常がそうであった)が見受けられるのだ。

このトナディーリヤがはるか300年ほど前の詩であっても、スペインの粹な女や男たちは当たり前のようにいまも変わらない魂を持っていることを真に感じた。トナディーリヤスは芸術作品、歌曲ではあるが、日常のマハとマホのやり取りなのである。「超」が付くほど

のロマンチストであったと言われるグラナドスが、トナディーリャに魅了され、メロディーをのせて作品として残したのが頷ける。

スペイン文学・音楽研究の第一人者である浜田滋郎氏による著書『スペイン音楽のたのしみ』のなかで、浜田氏は、このグラナドスのトナディーリャスを〈ピアノ曲「ゴイエスカス」のあくまで精緻に紡がれた夢の繭から、細く美しい糸を抽いて、あっさりしているのがかえって粋な綾取り模様に編んだもの〉と表現している。さらに〈マハとマホの哀歓が、“昔風”であるのにもかかわらず、聴くうちにいつか身につまされるようなやりかたで刻み込まれている〉とも述べている。私が最初にこの曲に引き込まれていったのがまさにこのとおりである。

### ～マヌエル・デ・ファリャの7つのスペイン民謡～

さらにもうひとり、スペイン歌曲発展において非常に大切な作曲家がマヌエル・デ・ファリャ（1876～1946）である。



実は冒頭で述べた、私が偶々出会ったバラエティーに富んだスペイン歌曲集の中に入っていたひとつがファリャの「7つのスペイン民謡」であり、一番最初に手を付けたスペイン歌曲である。これもまた冒頭で述べた通り、この歌曲との出会いにより、私のスペイン歌曲への情熱を?き立てられたので、ぜひ紹介したい。

まず、ファリャについて簡単に述べておこう。ファリャはスペイン南部カディスで生まれ、マドリードでピアノを学ぶ傍ら、近代スペイン音楽復活の立役者、フェリーペ・ペドレルから作曲を学んでいた。スペイン民族音楽へ興味を持たせ、スペイン色豊かなファリャの作風に影響を与えたひとりが、ペドレルだったと言われている。1907年頃からはフランスへ留学、パリで作曲を学びながらピアニストを目指した。当時のフランス、パリにはドビュッシーやデュカス、フォーレ、ラヴェルといった、歴史に名を残す作曲家たちが集まっており、とりわけスペインの音楽だけでなく風土そのものが好きであったドビュッシーからは、その才能を称賛されていた。ドビュッシーは、スペイン音楽に対しての自身の考察

から助言を与えていたというが、このことからファリヤの作風は、ペドレルの影響だけでなく、逆輸入によって生まれたものでもあるともいえよう。そしてパリ留学途中、フランスは第一次世界大戦の戦地となってしまう、ファリヤはスペインへの帰国を余儀なくされた。

この時期に作曲されたのがここで紹介したい「7つのスペイン民謡」である。それぞれタイトルは下記のとおり。

『Siete Canciones Populares Españolas 7つのスペイン民謡』

1. El Paño Moruno ムーア人の織物
2. Seguidilla Murciana ムルシア地方のセギディーリヤ
3. Asturiana アストゥリアの歌
4. Jota ホタ
5. Nana ナナ (子守歌)
6. Canción 歌曲
7. Polo ポロ

第1、2曲目は南スペイン、ムルシア地方。第3曲目は北部ガリシア地方アストゥリア、第4曲目ホタは東スペイン、アラゴン。最後の第7曲目は南スペイン、アンダルシアの民謡をモチーフにしている。

ファリヤはこの歌曲集を作曲するにあたり「大事なのはメロディーをコピーすることではない。その精神を理解することなのだ。そして、民謡は旋律だけで歌われることも多いが、ハーモニーも、それにもまして重要なのだ。」と述べているようだ。

私はこの「7つのスペイン民謡」を全曲勉強し、歌人生で初めてスペイン歌曲に触れて感銘を受けた。そして、とにかくスペインに行つてこの音楽が生まれた空気を感じたいと切に願い、その翌年にスペインに短期で渡りレッスンを受ける機会を得た。

この歌曲集については、先に述べたグラナドスの「トナディーリヤス」より先にレッスンを受けたのだが、この歌曲集の特徴であるスペイン全土から集めた多種多様なリズムや独特な節まわし、ファリヤ自身が述べた言葉にある〈民謡は旋律だけで歌われることも多いが、ハーモニーも、それにもまして重要なのだ〉という通りの、ピアノ伴奏との複雑なハーモニーと絡まりに非常に悩まされた。

楽譜にはもちろん、その曲の上記のようなすべての情報が書かれているので、そのすべてを逃すまいとしっかり見て歌おうとするが、先生は何回も「楽譜を見ないで！」と私に言っていた。それは、ただ暗譜をしなさいという事ではなく、楽譜を見ていたら、むしろ楽譜の情報通りにいかないからである。ファリヤが持つ感性とフランスで培った“エスプリ”、そしてスペインの“粹”そのすべては全身で感じて覚えていくしかないことを痛感した。先生は「これはスペイン人でも難しい作品」だと言って慰めてくれたが、私はこの歌曲集と永遠に向き合い何かを得たいと思っており、数年に1度はリサイタルで必ず取り上げるようにしている。未だ模索中なのは言うまでもなく。

## ～まとめ～

このテーマにおいて、作品としては2作品について記述したが、この他にも興味深いスペイン歌曲は数多ある。イサーク・アルベニス、ホアキン・ロドリーゴ、フェデリコ・モンポウ、セバスティアン・イラディエル(ハバネラのもととなったラ・パロマは非常に美しい!)…などの作曲家たちの歌曲作品をぜひ聴いていただきたい。

また、スペイン歌曲の詩はスペイン特有の言語文化により、様々な“発音”で歌われる。カスティーリャ語が公用語であるが、カタルーニャ語、ヴァレンシア語、ガリシア語、バスク語など地域によって言語が異なることから、作曲家自身、あるいは詩人の使用言語により、また作品の雰囲気や表情が変わるのも魅力のひとつでもある。

まだまだ研究したい歌曲も溢れており、そしてこれからの新たな歌曲作品との出会いに期待して、いつかまたスペインの土地で“カスティーソ”を感じ、“粹”な演奏ができるように、日々探求し、情熱をあたためていきたいと思う。

## 〈参考〉

### 図書

- ・ 日本大百科全書
- ・ 高木 洋子 著：スペインの風景
- ・ ホセ・スビラ 著：スペイン音楽  
浜田 滋郎 訳
- ・ 浜田 滋郎 著：スペイン音楽のたのしみ

### Web

- ・ J-CASTニュース「日常は音楽と共に」  
<https://www.j-cast.com/trend/2019/02/28351444.html?p=all>
- ・ ピティナ・ピアノ曲辞典  
<https://enc.piano.or.jp/persons/263>
- ・ 外務省ホームページ  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/spain/data.html>
- ・ クラシック専門CD専門店 ライモンダ  
<http://www.raymonda-cd.com/SHOP/NCA9609822.html>



# サン＝サーンスの研究

## Study of Saint-Saëns

坪 山 恵 子

### 1. はじめに

この研究ノートは、フランスの作曲家、シャルル・カミーユ・サン＝サーンス(Charles Camille Saint-Saëns)についてまとめたものである。

彼は現在ではフランスを代表する作曲家の一人として知られている。『動物の謝肉祭』に『交響曲 第3番 (オルガン付)』、ピアニストにとっては5曲の『ピアノ協奏曲』や『練習曲集』などで馴染みがあるだろう。2021年はサン＝サーンスが亡くなって100周年にあたり、より身近に彼のことを感じている。

現在は作曲家としての面ばかりに目を向けられるが、彼の存命中、19世紀半ばから20世紀初頭にかけては当時を代表するピアニスト、オルガニストの一人として数えられていた。さらに、世界各地を演奏旅行や私的な旅行で巡る、当時としては珍しい大旅行家で、滞在先や客船の中でピアノを演奏し、ピアニストとしての評価は世界的に広まっていた。

近年中に、ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22を演奏する予定である。

今回この研究ノートで取り上げ、サン＝サーンスという作曲家はどういう人なのか、どのような作品を残しているのか、まとめていきたいと思う。

### 2. 作曲家 サン＝サーンス (1835年～1921年) の生涯

#### 2-1. 出生～幼少期

シャルル・カミーユ・サン＝サーンス (Charles Camille Saint-Saëns) は、1835年10月9日パリで生まれた。そのわずか3ヶ月弱後の12月に父親のヴィクトル・サン＝サーンスが病死してしまう。そこで母親のクレマンس・コランとその養母 (大叔母) のシャルロット・マソンに育てられることとなった。経済的にも恵まれず、また病弱であったこともあり、心配な人生の幕開けだった。母親、大叔母は共に寡婦だったため、カミーユはサン＝サーンス家の唯一の希望であり、二人の愛情を惜しみなく受けて育った。

サン＝サーンスの両親は音楽とは無縁だったが、父親は文学、母親は絵画をたしなみ、芸術に理解のある環境ではあったようで、母親のクレマンスはもともと家庭を持って長男が生まれたら音楽家にすることを決めていた。

『モーツァルトの再来』とまでいわれたほど、幼い頃からたいへんな神童ぶりを発揮した。3歳ですでに作曲を始め、10歳でピアノの公開演奏会を開き、少年とは思えない素晴らしい演奏で満場の聴衆をうならせ、13歳の時にはパリ音楽院に入学し、作曲とオルガンを専攻した。



最初にピアノやソルフェージュの手ほどきをしたのは大叔母のシャルロットだった。2歳半でピアノを与えられたカミーユは、でたらめに鍵盤を叩くことなく、鳴らした音が減衰するのを聴いてから、次の音を順に弾いていた。そして、まだ3歳になるかどうかの時にはアドルフ＝クレール・ル・カルパンティエ（1809-1869）のピアノ教則本をわずか1ヶ月で仕上げてしまった。幼児には筋力がまだ備わっていないので、あまり練習し過ぎてはいけないとピアノの蓋に鍵をかけてしまうと、泣いてしまい、仕方なく鍵を開けたほど音楽に夢中な子どもだった。サン＝サーンスは、「ピアノに向かっては頭に浮かんだ音楽を鍵盤で叩いていた」と回想しているので、すでにこの頃から作曲家の素質が現れていた、まさに「恐るべき子ども」だった。そして、ここからモーツァルトにも比される神童の伝説が始まる。

## 2-2.神童 サン＝サーンス

子ども向けの教則本を難なくクリアしたサン＝サーンスなので、当然初心者向けの曲には飽き足らなくなってしまい、早速ハイドンやモーツァルトなどの古典的な作品に挑戦し始める。5歳になると小規模なソナタなら正確に弾けるようになり、音楽に理解のある聴衆の前で演奏するようになった。ここまで来れば、当時カミーユ少年が既に作曲を始めていたと聞いても、驚かないだろう。当時流行していたワルツやギャロップを作曲したと本人が回想しているが、ある曲はピアノを弾きながらではなく、頭に浮かんだ音楽を直接五線紙に書いて作曲したので、自分の小さな手では弾くことができず、知り合いに頼んで演奏してもらったほどだった。そして、まめな性格であったサン＝サーンスはきちんと原稿や書簡などの資料を保存していたのだが、現存する最も古い作品の原稿には、大叔母の字で1839年3月22日の日付が記されていた。まだ3歳と5ヶ月なのだ。1840年には4歳7ヶ月にしてヴィオレ夫人のサロンでピアノ独奏と若手ヴァイオリン奏者の伴奏（ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ）を務めたといわれている。この演奏に関しては、モーツァルトの子ども時代を引き合いに出され、「将来、偉大なマエストロにふさわしいライヴァルとなるであろう」と称賛される記事が『モニター・ユニヴェルセル』紙の同年8月1日号に掲載されるなど、天才児カミーユの評判は広まっていった。この上達の秘訣はやはり、「好きこそ物の上手なれ」ということで、自発的にピアノに向かい、自らの好奇心でレパートリーを拡げていったことに尽きると考えられる。



【1839年3月22日付の作品】

このように早くから音楽の天分を示したサン＝サーンスは、当然ながら専門家のレッスンを受けることとなる。それが当時のパリにおける名ピアノ教師の一人であったカミーユ・スタマティ(1811-1870)だった。スタマティはフリードリヒ・カルクブレンナー(1785-1849)の高弟で、ギド・マン(手導器)を使ったピアノ練習法を師から受け継ぎ、サン＝サーンスに伝えた。

初めてのスタマティのレッスンの日付まで今日に伝えられていて、1843年3月13日だったとのことだ。7歳5ヶ月、日本ならばまだ小学校低学年の年齢だが、なんと、ピアノのレッスンにとどまらず、同年10月18日にはスタマティの紹介でピエール・マルダン(1800-1871)という教師について和声と作曲を学ぶこととなった。マルダンは作曲家というより教育家として成功を収めたため、現在ではあまり知られていないが、ドイツでゴットフリート・ウェーバー(1779-1839)に師事し、生地リモージュに帰って学校を開き成功した後、パリに活動の場を移して多くの生徒を育てた。彼はパリ音楽院(コンセルヴァトワール)式の数字付き和声、すなわち和音を単体で見える方法ではなく、音階中の音度の関連で見える方法で和声を教えたが、奇しくも、この方法は後にサン＝サーンスが奉職することになるニデルマイエール学校でも採用された。

### 2-3. デビューへ

サン＝サーンスは早熟の神童だったので、公的なデビューも早いものだった。デビューに向けて経験を積むため、演奏活動が活発に行なわれた。『ルヴュ・エ・ガゼット・ミュージカル』紙の1844年7月7日号では「歴史的」と大文字で強調され、「ピアノを弾くために生まれてきた」などと称賛された記事が掲載された。1846年1月にはプレイエル社のグランド・ピアノを購入して練習し、同年5月6日、サル・プレイエル(プレイエル社のホール)で行われたコンサートでは、モーツァルトの《ピアノ協奏曲 変ロ長調》、ヘンデルの《変奏曲》と《フーガ》、カルクブレンナーの《トッカータ》、フンメルの《ピアノ・ソナタ》、バッハの《前奏曲とフーガ》、そしてベートーヴェンの《ピアノ協奏曲 第3番》が演奏された。まだ小さな子どもが当時のパリの歌劇場の一つ、イタリア劇場の管弦楽団(指揮、テオフィル・ティルマン:1799-1878)を従えて協奏曲を2曲も立派に弾きこなし、大きな成功を収めた。当時の主要メディアであった新聞、音楽雑誌でも大々的に紹介された。

一見すると順風満帆の子ども時代のように見えるが、一旦成功を収めると、この波に乗って「神童」として売り出したい師スタマティと、我が子の健康と虚栄心を心配し、そしてもっと高みを目指してきちんと教育を修めてから世に出てほしいと考えていた母との間に次第に溝ができ、結果、両者は断絶に至った。

このように、神童としての華やかな成功の影には、不安定な家庭環境に自身の健康問題や緊張をはらんだ師弟関係なども存在していたが、全体的には順調な子ども時代だったと言えるだろう。

### 2-4. 音楽家としての出発

パリ音楽院を卒業したサン＝サーンスはマドレーヌ教会のオルガニストを約20年間勤めながら、多岐にわたるジャンルの作曲に果敢に挑戦し、数々の名作を残した。また、フォー

レらと共に国民音楽協会を設立し、フランス音楽の振興に努めた。

音楽院を出た彼は、1853年（18歳）、パリのサン・メリ教会のオルガニストに就任した。彼の音楽人生はオルガニストとして始まった。この後、1857年（22歳）にはパリのマドレーヌ寺院のオルガニストに就任し、この職を1877年まで20年に渡って務めあげる事となる。

リストは教会で彼の演奏を聴き、その見事さに世界一偉大なオルガニストと賞賛している。

教会に勤めた彼だったが、彼は敬虔なキリスト教徒ではなく、あくまでも仕事の一環としてオルガニストになったといわれている。オルガンを弾くだけではなく、宗教音楽の作曲も彼の仕事だった。

1861年から1865年にかけて、彼はパリのエコール・ニデルメイエルで教職に就くことになる。生徒の中には、ガブリエル・フォーレやアンドレ・メサジェ、ウジェーヌ・ジグーの姿もあった。特にフォーレとは親しくなり、生涯に渡り、交友関係を持つようになる。この頃のサン＝サーンスはオペラに関心があり、特にワーグナーに夢中になっていたが、普仏戦争を境に反ワーグナーとなる。

1870年（35歳）に普仏戦争が始まり、フランスはプロイセンに敗れ、国内は混乱した。この敗戦で反独ナショナリズムは高まり、サン＝サーンスもその中のひとりとなる。このため、ワーグナーに心酔していた彼は反ワーグナーの立場をとるようになった。

1871年（36歳）、サン＝サーンスはフランク、フォーレ、マスネ、ラロらとともに国民音楽協会を設立し、フランス人音楽家の作曲・演奏活動を振興した。

1875年（40歳）、サン＝サーンスは当時19歳だったマリ＝ロール・トリュフォと結婚する。しかし、2人の子が相次いで亡くなるなど、幸せなものとはならなかった。最後は、結局離婚に至っている。わずか5年間の結婚生活だった。子供の死だけではなく彼の性格による要因も大きかったようだ。

1877年（42歳）、20年間務めたマドレーヌ教会のオルガニストを辞めた彼は、何の制約もなくなり、思う存分作曲に専念するようになる。同年、以前作曲していたオペラ『サムソンとデリラ』が上演され、好評を得る。これに気を良くした彼は、オペラ作曲に力を入れるのだった。『エティエンヌ・マルセル』『ヘンリー8世』『プロセルピヌ』など次々と発表していった。なかでも『ヘンリー8世』は大成功し、それまで人気のない作曲家だった彼によりやく日が当たるようになった。彼は南欧や北欧、さらには南米、東アジア、ロシア、オーストラリアなど数多くの演奏旅行を行なった。特にイギリスには、1871年を皮切りに何度も演奏旅行に出かけている。

1886年（51歳）、ロンドン・フィルハーモニック協会の依頼で作曲した『交響曲第3番』は作曲者自身の指揮によりロンドンで初演された。彼は20世紀に入ってから、演奏旅行を続けていた。エジプトやアルジェリアがお気に入りだったようだ。

1913年（78歳）、フランスの最高勲章であるレジオン・ドヌールの最高位である「グラン・クロワ」を受勲する。祖国フランスでは今ひとつ人気がなかった作曲家だったが、ここでようやく認められたのだった。しかし、反サン＝サーンス派が減ったわけではなかった。

1916年（81歳）、南米における4ヶ月の滞在中、彼は左手に違和感を感じるようになり、これを機に音楽界を引退する。

1921年12月16日、サン＝サーンスは旅先のアルジェで孤独な死を迎えた。86歳の生涯に幕を閉じたのだった。

### 3. 主要作品

#### \*交響曲

- ・第1番 変ホ長調 Op.2 作曲年：1851年
- ・第2番 イ短調 Op.55 作曲年：1858年
- ・第3番 ハ短調 Op.78 《オルガン》 作曲年：1886年
- ・イ長調 作曲年：1850年
- ・ヘ長調 《首都ローマ》 作曲年：1856年

#### \*交響詩

- ・オンフェールの紡車 Op.31 作曲年：1871年
- ・ファエトン Op.39 作曲年：1873年
- ・死の舞踏 Op.40 作曲年：1874年
- ・ヘラクレスの青年時代 Op.50 作曲年：1877年

#### \*管弦楽曲

- ・英雄行進曲 Op.34 作曲年：1871年
- ・組曲 Op.49 作曲年：1877年
- ・アルジュリア組曲 Op.60 作曲年：1879年～80年
- ・動物の謝肉祭-動物園の幻想(『白鳥』を含む) 作曲年：1886年
- ・サラバンドとトリゴドン Op.93 作曲年：1892年
- ・戴冠式行進曲 Op.117 作曲年：1902年
- ・軍隊行進曲『ナイル川のほとり』Op.125

#### \*オペラ

- ・『黄色の王女』Op.30 初演：1872年
- ・『銀の音色』 初演：1877年
- ・『サムソンとデリラ』Op.47 作曲年：1869年～72年
- ・『エティエンヌ・マルセル』 初演：1879年
- ・『ヘンリー8世』 初演：1883年
- ・『プロセルピーヌ』 初演：1887年
- ・『アスカニオ』 初演：1890年
- ・『フリーネ』 初演：1893年
- ・『フレデゴンダ』 初演：1895年
- ・『野蛮人』 初演：1901年
- ・『エレヌ』 初演：1904年
- ・『祖先』 初演：1906年

・『デジャニール』 初演：1911年

**\*協奏曲**

- ・ピアノ協奏曲 第1番 ニ長調 Op.17 作曲年：1858年
- ・ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22 作曲年：1868年
- ・ピアノ協奏曲 第3番 変ホ長調 Op.29 作曲年：1869年
- ・ピアノ協奏曲 第4番 ハ短調 Op.44 作曲年：1875年
- ・ピアノ協奏曲 第5番 ヘ長調 『エジプト風』 Op.103 作曲年：1895年
- ・ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 『コンチェルトシユテユック』 Op.20  
作曲年：1859年
- ・ヴァイオリン協奏曲 第2番 ハ長調 Op.58 作曲年：1879年
- ・ヴァイオリン協奏曲 第3番 ロ短調 Op.61 作曲年：1880年
- ・チェロ協奏曲 第1番 イ短調 Op.33 作曲年：1873年
- ・チェロ協奏曲 第2番 ニ短調 Op.119 作曲年：1902年

**\*独奏楽器・管弦楽の曲（多数）**

**\*室内楽曲（多数）**

**\*2台ピアノの曲**

- ・ベートーヴェンの主題による変奏曲 Op.35 作曲年：1874年
- ・ポロネーズ Op.77 作曲年：1886年
- ・スケルツォ Op.87 作曲年：1890年
- ・アラビア奇想曲 Op.96 作曲年：1894年

**\*ピアノ曲**

- ・グルックの『アルチェステ』の踊の旋律による奇想曲 作曲年：1867年
- ・マズルカ 第1番 ト短調 Op.21 作曲年：1868年
- ・マズルカ 第2番 ト短調 Op.24 作曲年：1872年
- ・マズルカ 第3番 ロ短調 Op.66 作曲年：1883年
- ・ガヴォット Op.23 作曲年：1872年
- ・6つの練習曲 Op.52（1.前奏曲 2.指の独立のために 3.前奏曲とフーガ ヘ短調  
4.リズムの練習曲 5.前奏曲とフーガ イ長調 6.ワルツ形式の練習曲）作曲年：1877年
- ・アレグロ・アパッショナート 嬰ハ短調 Op.70（管弦楽付き）作曲年：1884年
- ・アルバム Op.72（1.前奏曲 2.鐘 3.トッカータ 4.ワルツ 5.ナポリの旅 6.終曲）  
作曲年：1884年
- ・組曲 Op.90 作曲年：1892年
- ・主題と変奏 ハ長調 Op.97 作曲年：1894年
- ・かわいいワルツ Op.104 作曲年：1896年

- ・ のんきなワルツ Op.110 作曲年：1898年
- ・ 6つの練習曲 Op.111 (1.長3度と短3度 2.半音階奏法 3.前奏曲とフーガ  
4.ラ・パルマスの鐘 5.半音階的長3度 6.第5協奏曲のフィナーレによるトッカータ) 作曲年：1899年
- ・ 弱よわしいワルツ Op.120 作曲年：1903年
- ・ 左手のための6つの練習曲 Op.135 作曲年：1910年
- ・ 愉快的ワルツ Op.139 作曲年：1913年
- ・ 6つの練習曲 Op.152 作曲年：1919年
- ・ 6つのフーガ Op.161 作曲年：1920年
- ・ アルバムのページ Op.169 作曲年：1921年

**\*オルガン曲**

- ・ 3つの前奏曲とフーガ Op.99 (ホ長調、ロ長調、変ホ長調) 作曲年：1894年
- ・ 幻想曲 変ニ長調 Op.101 作曲年：1895年
- ・ 宗教的行進曲 Op.107 作曲年：1897年
- ・ 3つの前奏曲とフーガ Op.109 (ニ短調、ト長調、ハ長調) 作曲年：1919年

**\*ハープ曲**

- ・ 幻想曲 Op.95 作曲年：1893年

**\*オラトリオ**

- ・ クリスマス・オラトリオ Op.12 作曲年：1858年
- ・ ノアの洪水 Op.45 作曲年：1874年

**\*教会音楽**

- ・ ミサ・ソレムニス Op.4 作曲年：1856年
- ・ レクイエム Op.54 作曲年：1878年

**\*合唱曲 (多数)**

**\*歌曲 (多数)**

#### **4. ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22**

この曲は、1868年に作曲され、同年に出版された。

サン＝サーンスは、名ピアニストとして国際的に名を馳せていた。1868年、アントワーヌ・ルービンシュタインは、彼をピアノ独奏者としてパリの演奏会に迎えた。ここで演奏されたのが、この『ピアノ協奏曲 第2番 ト短調』である。時間に追われたため、わずか17日間で作曲されたといわれている。この協奏曲はサン＝サーンス初期の代表作であり、彼の全ピアノ作品の中でも傑作のひとつとして数えられている。

ピアノソロのヴィルトゥオーズ的な見せ場も十分に用意されつつ、管弦楽と共につくりあげられるその響きは、曲に幻想的な魅力をもたらしている。情熱と叙情性に満ちた作品である。

先に述べたように、サン＝サーンスは、モーツァルトと並ぶ神童作曲家だったが、この曲の編成もモーツァルトのピアノ協奏曲と同じような2管編成になっている。演奏時間も20分余りで、非常に親しみやすいピアノ協奏曲の中の一つだ。

### 【楽器編成】

独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニー、シンバル、弦楽5部

### 【第1楽章】

アンダンテ・ソステヌート ト短調、4/4、序奏+ソナタ

冒頭、独奏ピアノが幻想曲のように自由に演奏し始まる。その後、オーケストラによってト短調の和音が鳴らされ序奏部が終わる。

主部はソナタ形式で書かれている。第1主題はピアノによって表情豊かに弾かれ、特徴のある短い動機を扱った経過部の後、変ロ長調の第2主題がピアノで優雅に示される。その後、小結尾となる。自由なカデンツァに続き、ピアノソロにより提示される悲愴に満ちた第1主題は、サン＝サーンスの弟子であるフォーレが作曲した主題を借用したものであるといわれている。

中間部は展開部というよりは、ピアノの技巧を誇示するための部分となっている。ピアノは一時も休むことがなく、分散和音を華やかに演奏し続ける。分散和音の連続が非常に華やかでロマンティックな響きをつくりだす。ひき続き奏される音形が、音楽的な加速を促し、響きの大きな渦をうみだすが、これが管弦楽による主題の再現を絶妙に誘導している。その頂点に達した後、ピアノがさらに華麗に分散和音を弾き続ける中、力強く第1主題が再現される。その後、ピアノのカデンツァとなる。第1主題、経過部の動機を用いながら、音楽が高揚し、序奏への喚起へと曲を導く。そして最後は断固とした和音により、序奏の再現が行われ、堂々と曲を閉じる。

### 【第2楽章】

アレグロ・スケルツァンド 変ホ長調、6/8、ソナタ形式

ソナタ形式によるスケルツォ付楽章。この2楽章では、主題の交換、すなわち戯れのような掛け合いが非常に魅力的で楽しめる。この掛け合いの合間をぬって奏されるソリストの音階やアルペッジョは、音楽に華やかな彩りを与えている。

ティンパニの軽やかな跳ね返りをうけてピアノが澁刺とした第1主題を奏する。ティンパニの「タッタ、タタタ…」という軽快なリズムに続いて、ピアノがスケルツォ風の楽しい第1主題を軽快に弾き始める。このリズムは、この楽章の基本となっている。テンポが少し遅くなり、「タッタ、タタタ…」と楽しげなリズムがピアノに出てきた後、人懐っこく、おどけたような第2主題がオーケストラに出てくる。ファゴット、ヴィオラによって歌われ、

これがピアノで繰り返される。

展開部では第1主題、第2主題の順に展開された後、型通りの再現部になる。最後は第1主題によるコーダで終わる。最後の方では、楽章の最初とうまく呼応するようにティンパニの弱音が活躍する。

### 【第3楽章】

プレスト ト短調、2/2、ソナタ形式

ソナタ形式。圧倒的な響きをもった急速なピアノ独奏による4小節の導入部分に続き、リズムカルでおどけたようなピアノの第1主題が続く。飛び跳ねるような音型の連続で、とても印象的なものである。

第2主題は、ピアノのトリルが印象的である。トリルをともないながら力強く示され、音数を増やしながらかエネルギーを増していく。

展開部では第1主題、第2主題の順にそれぞれの主題がリズムを巧妙に重ね合わせながら展開し、再現部、コーダへ向かう。力強い和音の連続で、緊張感を緩めることなく終結まで一気にかけぬける。

The image displays three sections of a musical score. Section I, titled 'I. Andante sostenuto', is marked 'Klav. solo' and 'ad lib.', featuring a slow, sustained piano solo with a bass line marked 'Ped.' and 'cresc.'. Section II, titled 'II. Allegro scherzando', is marked 'Pc. solo' and 'P leggero', showing a more rhythmic and playful piano solo with a bass line marked 'p'. Section III, titled 'III. Presto', is marked 'Klav.' and 'cresc.', featuring a fast, rhythmic piano solo with a bass line marked 'cresc.'.

## 5. まとめ

サン=サーンスは、作曲家としてのみならず、文筆家としても多岐にわたる文章を発表していたといわれている。幅広い分野に対して鋭い興味と洞察力を持っており、幼い頃からピアノやオルガン演奏では神童と絶賛され各地を演奏して回り、パリ音楽院では演奏、作曲において輝かしい成績を修め、卒業後はオルガニストの職を得る。20代の彼はヴィルトゥオーゾとして絶大な名声を獲得し、ワーグナーにいち早く注目したり当事あまり認め



られていなかったシューマンを演奏し続けたり、音楽文化に対する独自の見識を実践していた。

彼は生涯演奏旅行で世界を駆けまわったが、それはつまり、彼がピアニストとして練習を欠かさなかったことを意味する。コルトーも彼の著作『フランス・ピアノ音楽』において、「指の訓練に毎日二時間を費やした」というエピソードを伝えている。「幼児期にピアノを練習し過ぎてはいけないとピアノの蓋に鍵をかけてしまうと、泣いてしまい、仕方なく鍵を開けたほど音楽に夢中な子どもだった」と前に述べたが、幼児期の頃から、生涯を通して、練習を欠かさず続けてきたことがうかがえる。

彼のピアノ作品の多くは1870年以降に書かれており、舞曲的要素を取入れたサロン音楽が多かった。それらは17世紀時代のフランス音楽の良さをよみがえらせようとした試みであった。祖国の音楽伝統を再発見したいという彼の意欲であった。新古典主義的な作品や、協奏曲に匹敵するスケールを持つ変奏曲など優れた作品を残した。彼の音楽と向き合うその姿勢はのちの作曲家に多大な影響を与えた。

前に挙げたように、近年中に、ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 Op.22を演奏する予定である。

この曲は、次第に速度を速めていく楽章設計である。楽章それぞれの特徴を捉えつつ、楽章全てを通してのつながりを考え、サン＝サーンスの音楽的特質を表現できるよう、作品を通してその魅力を伝えられるよう、今後も研究を進めていきたいと思う。

## 引用・参考文献

- ミヒヤエル・シュテューゲマン『大作曲家 サン＝サーンス』西原稔訳、東京：音楽之友社、1999年  
ポール・ロカール『ピアノ』小松清訳、東京：白水社、1958年  
『新音楽辞典 人名』音楽之友社、1996年  
『音楽史のすすめ』寺西春雄著、音楽之友社、2000年  
『大作曲家とそのCD名曲名盤(下)』志鳥栄八郎著、音楽之友社、1994年  
『ピアノ曲辞典』ピティナ

# ピアノ新時代を迎えて<言葉が求められる時代の演奏>

～ドイツ国家演奏家資格取得から25年の活動を振り返って～

A New Era for Pianists is Coming. Do We Need Language in Music Activity?

My Answer to This Question Considering My 25 Years in Germany after the Konzertexamen

田 島 恵 理

## 目次

はじめに

### I. ドイツでの25年間を振り返る

1. 渡独後の歩み
2. 国際コンクールへの挑戦とドイツ演奏家資格の取得
3. 卒業後の演奏活動
4. 現地での社会活動と音楽教育の実際

### II. ピアノ新時代の演奏と指導の在り方

1. 演奏に独自の言葉を持たせる
2. 言葉が求められる時代に伝承したいこと

おわりに

## はじめに

### ピアノ新時代を迎えて

#### ～言葉が求められる時代の演奏～

2022年が幕を開けた。久しぶりのドイツからの帰国であるが、年末のクラシックのTV音楽番組などで多様な企画が盛り込まれており、日本独自の文化が織りなす映像をとて新鮮に感じた。様々なジャンルで活躍している人たちが、独自の言葉で音楽を語っていることが印象的だった。

2021年秋には、一年延期となったショパン国際コンクールが開催され大きな話題となったが、特に多くの人々が熱心に見入った日本では、今後求められる演奏スタイルや子どもたちの指導を含む音楽教育全般へ、少なからず影響を与えた出来事となったと思われる。私は、無論その卓越した演奏に感嘆し学びが大きかったが、一方で飛切りの権威と伝統があるこのコンクールもSNSを駆使し、出場者がこれまで以上にインタビュー等を通して、自らの演奏を裏付ける説明や独自の発言を求められており、演奏家も「言葉で音楽を伝える」という術が必須となった事を知らされた。

この光景を含め、私は日頃交流のある各国のピアノ関係者とリアルタイムで意見交換をした。そこで、出場者の母国におけるピアノ教育の在り方や、演奏者個人が育まれた生活や習慣、また日常的に使用する言語などが、どの様に演奏へ影響していくのかを論じ合った。そして、国際コンクールはその変貌が現代を織る貴重な機会であり、第一級のピアニストでもある審査員の各評価と自分の採点基準を比べることが出来る場としても、大きな学びがあることを改めて感じた。

変貌という点で1990年代からドイツで学んだ私は、演奏家が語るべきは演奏そのもので、多くの言葉を発しないことをひとつの伝統とした時代の教育を受けた。しかし若手ピアニストの躍進が世界にリアルタイムで発信、発言される現代において、その変わりようは歴然としたものがある。この変化には、地球規模のコロナ蔓延による音楽界の激震も、拍車を掛けていよう。

日本との往復に長期の隔離体験も余儀なくされた機会に、この研究ノートでI部 私が伝統継承の中で学んできた道程とその経験を振り返り、II部「ピアノ新時代」における自身の演奏家としての在り方と、後進の音楽教育に当たる者としての今後を考察したいと思う。

## I. ドイツでの 25 年間を振り返る

### 1. 渡独後の歩み

私は 2003 年にドイツ演奏家国家資格を取得し、現在に至るまでドイツで暮らしている。

渡独は 1997 年、ドイツマルクの時代から現在（2022 年）までの 25 年間、主にドルトムント、ケルン、フランクフルトにおいて、自身で主宰しているピアノ教室での指導にあたりながら演奏活動をおこなってきた。その間、演奏活動のほとんどは自主開催であったが、プロとしてステージに立つにはどうしたらよいか、またどのような演奏が求められているのかを考えながら歩んできた。

ドルトムントでの生活を振り返ると、今となっては同じ国とは思えないほど不便な時代であった。その後の近代化は世界的にネットが普及した時期とも重なるが、元々バブル期などを経験している日本とは大違いの土壌があった。住居探しや役所関係も日本では考えられないような困難がたくさんあった。しかしその中で、外国人である私でも 4 年間の授業はほぼ無償で受けられた。卒業後も勉強を続け、家庭を持ち子育てをしながらドイツで暮せたことは、私のピアノ人生に大きな学びをもたらしてくれた。

### 2. 国際コンクールへの挑戦とドイツ演奏家資格の取得

桐朋学園大学卒業後、郷里の足利で音楽高校に 3 年間勤務した当時、武蔵野音大の国際ピアノセミナーでのヨーロッパの音大教授による講座を受講した。これを機に、これからの生徒を育てるためには視野を更に広げる必要を感じて、留学を考え始めた。ドルトムント音大教授の（後に師事することになった）アルヌルフ・フォン・アルニム氏の演奏を初めて聴いたのはその時だったが、氏の演奏から未知の領域を肌で感じ取った。当時できるだけ多くの国際コンクールに挑戦し、活動の場を拡げたいと思う意欲と、ヨーロッパの伝統を重んじた演奏を学びたいという気持ちが募り、一念発起して退職し渡独した。

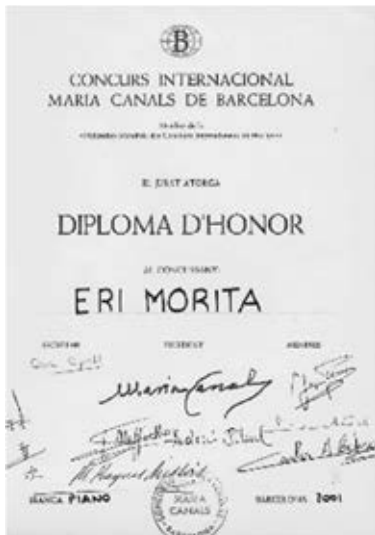


2003 年ドイツ演奏家資格取得証明

ドルトムント音大ではアルニム氏のレッスンを受けながら、これまでの奏法を変え、ヨーロッパの伝統とは何かを学ぶことに専念した。留学と同時にコンクールに向けて猛進する日本人学生は多くいるが、比較的ヨーロッパの学生はコンクールへ興味を示さず、この傾向は同様に指導者にも見られる。アルニム氏も、シューベルト国際コンクールの審査委員長であったが、学生にコンクールの挑戦を提案することはなく、常に、一生をかけて向き合えるピアノとは何かを考え、身に付けてほしいと諭した。この詳細は（Ⅱ）で述べたい。

私の国際コンクールの挑戦は、1999年の北京国際コンクールへ日本代表で選抜されたことが初となり、2002年のシューベルト国際コンクールまでのおよそ3年間に亘った。その経験を積んでいく中で、国際コンクールへは10年間かけて準備をするのが常識とされる世界であることを知った。そこで私が演奏家としてキャリアを持つためには、ドイツの演奏家国家資格を取得することが最も確実な方法だと悟った。

2003年にケルン音楽大学で受験した演奏家国家資格試験では、選曲に作曲年代や曲のスタイル等に偏りがなく、且つ全体でひとつの関連性があるプログラミングであることが要求された。また幼少期から弾いてきた曲のすべてを記載した書類提出が求められた。ソリストとしての演奏家資格取得には、初見や室内楽、ピアノ協奏曲、ピアノリサイタルを組み、一般聴衆が入っての演奏会が試験となった。この試験の開催日はホールが審査教授は元より音楽関係者や近隣の音楽愛好家で満席となり、独特の緊張感と共に名も知らぬ学生を応援してくれる人たちの音楽熱を感じた。



2002年マリアカナルス国際コンクール ディプロマ受賞



2002年シューベルト国際コンクール開催告知記事

シューベルト国際コンクールに出場した時は、出場者の代表として取材を受けたが、こうした地元やメディア等の関わりは、ドイツで音楽家として活動するために最も大事な基盤となった。

### 3. 卒業後の演奏活動

ケルン音楽大学卒業後は、自主開催でソロリサイタル活動を展開する一方で、子ども達の指導も行ってきた。ドイツ国内で自ら成長の場となる演奏会を企画していくことは経済事情も絡む大きな課題となる。幸いにも私は定期的に日本と往復することで、郷里足利市の文化事業団や恩師直井文子先生の主宰するPIANO ANDARE会との交流を通し、N響メンバーや市民オーケストラとの共演に恵まれた。古巣の市民会館での演奏会には、毎回、直井先生夫妻が応援してくださり、ドイツでの勉強続行へさらなる意欲を持つことが出来た。その中でドイツに

身を置く状況を的確に示してくれた1999年のPIANO ANDARE会で戴いた星野和夫先生のコメントは、その後の音楽との向き合い方を引き出してくれた。

久しぶりの田島恵理さんの演奏を懐かしくも、同時にそこに「深遠な響き」を聴くことができました。それはドイツで培った様々な要素、例えば教師の助言や人々との触れ合いもあるでしょう。しかしヨーロッパを覆っている「何千年にわたる文化の息吹」のようなものが、知らず知らずのうちに恵理さんを取り込み、醸成させているのだと思います。時には帰国してその息吹を伝えていってほしいのであります。(星野和夫先生のコメント)

Eri Tajima Piano Recital  
**田島 恵理 ピアノリサイタル**  
 ◆ 回想～そして再び ◆  
 2009年7月11日(土) 3時開演 (2時30分開場)  
 東京 銀座 王子ホール  
 全席料金 3,500円  
 CRプレイガイド <http://www.dryplayguide.com>  
 03-70-06-9990 (受付時間 6:30-21:00)  
 王子ホールチケットセンター 03-3567-9990  
 公演チケットの予約・販売: Shiro's Art 東京音楽堂  
 03-3561-0012 <http://www.shiro-art.jp>

田島 恵理 / Piano  
 シューベर्ट — ソナタ 第21番 電句編曲 D.960  
 F.Schubert — Sonata for Klavier No.21 B.960  
 リスト — 超絶技巧練習曲 第5巻 変イ長調「四重奏」  
 F.Liszt — Etudes d'execution transcendente "Kwartetten"  
 モーザート — 「ドン・ジュアン」の料題  
 F.Liszt — W.A.Mozart — Raminorosses de "Don Juan"

2009年東京王子ホールリサイタル

7 / 11 東京銀座 王子ホール  
**田島恵理 ピアノリサイタル を聴いて**

東京藝術大学 名誉教授  
**望月 春子**

田島恵理さんから東京でのデビューリサイタルの招待状が届いた。20年ほど前に教えたことがある彼女のその後を詳しく知らなかったが、久々のリサイタルにしては珍しい大曲を並べていたので、どんな風にアプローチするのか興味があって聴きに行った。

シューベットの晩年の大作で始めるのはとても勇気が要ると思っていたが、非常にスムーズに通り出して40分もかかる長丁場の曲を音楽的に充実して弾ききった。

リストのドン・ファン幻想曲は、余程のテクニシャンでなければプログラムに加えないと思うのだが、こちらも全く危なげなく確実なテクニックを駆使して華やかな雰囲気を出していた。

きくところによると、ドイツで結婚して子育てをしながら勉強を続けているとのこと。彼女の底力は今後もますます発揮されるだろう。

最近の若い人達は素晴らしい良く弾ける。しかし10年後、20年後にその人がどういった感性で聴衆に語りかけるのかが、今の私には最も興味がある。

彼女にも、これから息の長い勉強をして欲しいと、エールを送りたい。

2009年ピアノリサイタルの論評

真知 五重奏  
 大宮 太郎  
 店村 真積  
 藤森 亮  
**田島 恵理**  
 N響メンバーと共演  
 2008.2.22(土) 10:00開演 (9:30分開場)  
 足利市民会館大ホール (足利市 北条町1-1)  
 入場料 全席 5,000円 (税込) 全席自由  
 主催: N響メンバーと共演の会

2008年足利市民会館 N響メンバーと共演



2018年東京文化会館 N響メンバーと共演

しかしながら、卒業後の演奏には迷いを感じた時期もあった。思うように練習時間が取れないことがその要因だと思っていたがそれだけではなかった。幸いにも2006年にN響奏者との共演があり、第一線のプロと正面から向き合う貴重な経験となったが、彼らと曲の構成や表現について隔々話し合い、奏法までを徹底的に練ったことで学生時代の感覚を取り戻せた。学生時代は回りの演奏や解釈、意見や指摘に触れながら表現すべきことを模索し、それを修練することで得られた“表現への意思”があったが、いつの間にかそれが曖昧になっていたことに気付かされた。その後、演奏表現～自分の意思を迷い無く聴衆に伝えるため～には、自他共に言葉による追求が不可欠だということを意識するようになった。このことは(Ⅱ)「演奏に独自の言葉を持たせる」考察のきっかけとなった。

#### 4. 現地での社会活動と音楽教育の実際

ドイツで音楽家として生きていくために大事な一つに、地域の人と積極的に関わり交わる活動がある。ドイツ社会に溶け込む振る舞い(地域主催の交流会に参加すること)を身につけることを心がけ、家庭を持ってからは定期的に教会や老人施設などで演奏会を継続し、日独交流の場作りを任されるようになった。各施設では、詩の朗読や誰もが知っているドイツ民謡を演奏し喜ばれている。また、私の娘がドイツの義務教育を受けたため、保護者との交流や学校のイベントを通し現地の根幹に触れる多種多様なことを経験できた。



2000年 ボッフム市近郊の小学校での演奏記事



2019年 老人施設での娘の演奏の様子



2019年 音楽会に参加する私の生徒たちと地域の子どもたち

音楽教育面に目を向けると、日本の中学校教育に相当するギムナジウム(Gymnasium)の音楽の授業で、すでに音大で必要な基礎教育(楽典)を行っていることに当初は驚いた。ドイツでは4年間の初等教育が修了したのち、卒業という形式は採らず、上部学校への5年生へ編入という形式で学業を継続することになる。その後、職業教育と高等教育が明確に分離されるが、高等教育を選択した場合はこのギムナジウムという8年制の長期教育課程へ進む。その後、全ての専門領域を扱う総合大学入学資格試験をしたのち、原則的にあらゆる大学・高等教育機関への進学を政府から許可される。その教育システムには、日本と根本的な違いがある。

The image shows a handwritten musical score for the piece "72. Du, o schönes Weltgebäude" by Johann Crüger. The score is written on three systems of five-line staves. The first system includes the title and the beginning of the melody. The second system contains the main body of the melody with German lyrics: "Komm, o Tod, du Schlafes Bruder, komm und führe mich nur fort; Ich, so meines Schäfleins Bruder, bringe mich an sichern Port." The third system continues the melody with lyrics: "es mag, wer da will, dich sehen, du kannst mich viel mehr erfreuen; denn durch dich komm' ich hinein zu dem schönsten Je, so sein." Below the staves, there are handwritten notes including "Es", "A", "B", "C", "D", "E", "F", "G", and a keyboard diagram with letters C through G under the keys. The diagram shows a sequence of notes: C, D, E, F, G, A, B, C, D, E, F, G.

ギムナジウムにおける音楽のテスト(一例)

これらのテストで高得点を出している。このことから教師が相当専門的に音楽を熟知し、教鞭を取っていることが窺える。

私が主宰する音楽教室の生徒は地元の子どもたちもいるが、主にフランクフルトの日系企業に駐在する家庭のお子さんで、これまで約130名を指導してきた。平均滞在期間が3年～5年ということもあり、ほとんどは導入期～中級程度で帰国となる。この中で興味深いことに、日本人学校の生徒は、比較的指導内容をよく理解し受け入れる傾向がみられるが、インターナショナルスクール(授業は英語)の生徒は自身の創作や考え方を大事にする傾向があり、学校教育環境により違いがみられる。

音楽教育の一例として、中学1年生(日本では小学5年に相当する学齢)のテスト(左記)を見ると、楽曲の中から3和音を見つける問題が出題されている。楽器演奏経験のない生徒が理解するのは難しいことではあるが、同様のテストをほとんどのギムナジウムで行っており、これは早期音楽教育を受けなかった子どもにも、音楽の道への選択肢を与えるものとなる。既に音楽大学への進学を視野に入れている生徒は、ギムナジウムの中でも特に音楽教育に重点を置く学校を選択していることが多い。ギムナジウムでは全教科で合格点をとらなければ進級できないので、生徒の中には音楽のテストが難しいと担任へ相談するケースもある。一方で全科目において高得点が必要な学部進学を目指す生徒の中には、楽器演奏の経験がないにも関わらずこ



私の弟子のほとんどが再び日本へ戻りピアノを続けることになるが、指導のモットーとしてどのような段階にいる生徒にも、正確な譜読みと運指（指使い）を徹底してきた。

また多くのバイリンガルを指導した経験から、基礎教育は母国語で行う方が良いと確信に至り、日本人への教材は日本で出版されているものを使用している。

2020年3月以来のパンデミックにより、教会コンサートは元より老人施設への定期的な訪問コンサートも中止となった中で、2021年12月に(感染対策を入念にして)約2年ぶりで生徒の発表会を開催した。しかしその後再び、ドイツでは国境閉鎖や人との面会を厳しく規制しているため、私の教室では現在オンラインでレッスンをしている。コロナ禍で帰国となる生徒も多く新規入国者も減ったため生徒は減少したが、教え子たちは帰国後も私のレッスンを受けている。オンラインレッスンについてはメリットとデメリットへ様々な見解があり、日本でも多くの試みがなされている様子だが、私の経験から次の利点を挙げたい。

- ・ 読譜力の向上

生徒自ら楽譜を読むようになる。どの場所を弾いているかを把握しやすくなる。

- ・ 姿勢や手の形を意識するようになる

自分の姿や手のフォームをカメラ越しに見ることで、奏法の癖を認識できる。

- ・ 受け答えがしっかりしてくる

質問にきちんと解答するようになり、曲名や自分の練習状況をきちんと伝える様になる。

- ・ 録音をする習慣がつく

カメラのセットができていますので、練習中も取り入れることができ、上達が早い。



2020年2月 生徒による教会コンサート



2021年12月 プラウンハイム教会にて

コロナ禍でインターネットによる動画配信が普及したことで、音楽の伝達も様変わりを見せている。フライブルグ音大の入試が、蔓延早々の2020年6月に日本で遠隔で行われたことや、主たるコンクールが動画での審査になっていることから、オンラインでの魅せ方や聴かせ方を求められる時代になっている。延いては多岐に亘る機材や録音技術等を開

拓し、駆使する術が演奏家に求められている。そしてこの急激な動向は、より明快に音楽を表現する流れを生み出し、25年暮らしてきたドイツにも音楽の新時代が到来している。

## II. ピアノ新時代の演奏と指導の在り方

### 1. 演奏に独自の言葉を持たせる

長年に亘り、ドイツ国家演奏資格を持った者としてどのような演奏にむかうべきかを考え続けてきた。そのひとつに意思のある演奏を目指してきたが、私はその意思を演奏に言葉を持たせることで体現してきた。では演奏に言葉を持たせるとはどのようなことか。

例えばショパンコンクールの出場者の多くが、自身の演奏を独自の言葉で表現していたが、彼らの紡ぐ言葉にそれぞれの個性豊かな息吹を感じた。その五感に響く言葉は私は、ドルトムント音楽大学でアルヌルフ・フォン アルニム氏から学んだ。特に氏の提唱する24の調性による色彩の探求は、演奏に言葉を持たせる大いなる手がかりとなった。

その手掛かりは伝統的に継承された調の特性を知ることから始まるが、主にはJ.Sバッハの平均律クラヴィーア曲集で確立された24の調性を基軸に、古典派の作曲家はその使い方を学び、醸成し、ロマン派時代ではそれらが応用されていく経路を辿る。私はその調に与えられた軌跡を経て、演奏に独自の言葉を持たせていくことを学んだが、これはピアノ新時代で求められている“独自の言葉を持つ”ことへも、大いに役立つと考えている。

例えば、ハ長調の特性として私は母としての温かさを感じる。それは作曲家たちが、母性、受容、大海、マリアといった抽象的な表現手段として選んだ調性である。それらを調性のキーワードとし、なぜ作曲家はこの調性を選んだのかということへ、今後、視点を向けてみたい。一方で、スケールやアルペジオを練習する際も、その調性の特性を意識し、イメージと奏法を結び付けたテクニックを意識してみるのも良いだろう。そのテクニックが技術的に単独では成り立たないことを理解し、色彩豊かな音色や表現の幅を広げることで、演奏に膨らみと安定感を生み出すことができる。

この24の調性における色彩の探求と演奏法については、今後、宇都宮短期大学での「特別授業」や「レクチャーと演奏の研修会」等で紐解きたい。

### 2. 言葉が求められる時代に伝承したいこと

ピアノ新時代の特徴として、“言葉による音楽の表現が求められている”ということを通じてきたが、本来、芸術とは言葉では捉えることのできない境地の探求であることを忘れてはならず、そのひとつの体験を記録しておく。

旧東ドイツのリヒテンブルグの音楽祭でのこと、アルニム氏は「Seele(魂)」とはどこにあるのかを話した。静寂に包まれた小さな町はロマン派時代の思想がそのまま宿っているかのようで「Seele」という言葉も違和感なく受け止められた。氏は音楽における

「Seele」について説明したが、その後デットモルトのA.ウゴルスキー氏のマスタークラスに参加した時にも共通の視点があり、その真意を私なりに理解した。それは音楽の魂とは、「静寂」を聴き取るということであった。それ以来、意識的にドイツの日常から静寂を聞き取るようにした。その修練が演奏に反映されたのは、数年後のリサイタル(足利市民会館大ホールで1000人近い聴衆を前にした時)で、その「Seele」は聴こえた。この瞬間こそ、音楽家が自身の天命を探求する喜びになっているのではないか、と思えた。

演奏においては音になっていない部分を聴き続けることが求められるが、先ず音楽は静寂から生み出されている事を体感する必要がある。これはコンサートピアニストになる上で最も重要なことで、演奏に一定の緊張感と聴衆を惹きつける為に不可欠な要素となる。私はヨーロッパで長く暮らす意義は、このような静寂を経験し体得することに有ると思う。

音楽と言葉は、古く教会の歴史を辿れば、対立しまた融合してきた経緯がある。また思想、哲学、文学といった多岐に亘るジャンルの全てが自然の一部であることも、ヨーロッパに長く暮らすことで見えてくる。

それはヨーロッパを覆っている「何千年にわたる文化の息吹」に触れるということであり、これは時代によって変化するものではなく、長く芸術の根幹を担っているものである。



旧東ドイツ リヒテンブルグ 音楽祭 (Haus Marteau) 開催地

## おわりに

演奏家に言葉による表現が求められる新時代において、その手段が作品や自身の演奏について独自の研究と真の伝承に裏打ちされたものでありたい。その成熟度を上げることが、演奏家自身およびこれからの音楽指導者に必須な能力であろう。また、言葉は聴衆に明確な想いを伝えるという手段としても有効だが、説得力のある演奏を生み出すためにも不可欠である。

2021年6月、長年演奏活動の拠点としてきた郷里の足利市民会館が閉館となった。そのフェアウェルコンサートとして「田島恵理ピアノリサイタル」を開催したが、この演奏会では、トークを取り込むことで一般聴衆の楽曲理解を手伝い、結果観賞の深みへ導くことを心掛けた。

当日は、コロナ禍で来場者を会場の半分に規制しての開催とした。2021年5月の時点では、ドイツから日本へ渡航することを嫌悪する風潮があり、郷里でもかなり構えた。演奏会を待つ人々の心理が微妙に変化し、パンデミックの恐怖も少なからずあった。様々なリスクを負っての来聴者、その祈りにも似た心中は会場の静けさからも感じ取れた。

プログラムのメインは、リストのピアノソナタロ短調を入れた。この曲は2020年3～5月にかけてヨーロッパが国境閉鎖を行い、世界中が極度の緊張で張りつめていた頃に取り組んだ。ドイツでは医療従事者への感謝を音楽に込め、人類愛を訴えた。生命の危機を突き付けられた人々はまるで息を止めたかのように静まり、音楽の限界を感じた人もいた。しかし美しい青空、西の夕暮れに輝く金星等、この世のものとは思えない大自然の光景に目を奪われた人も多かった。普段の生活の有難み、自然界のこと、環境問題、経済問題、国民性、人の心理、思いやり、そして再び人に会うことを願う静かな涙があった。それはまるでリストがピアノソナタを書いた時代の再来のようにも感じた。私はその光景を、リサイタルの一連のテーマとし、演奏だけでは伝えきれないことは言葉で、言葉で伝えきれないことは音楽で謳った。

これまでも時代によって起こる出来事に落胆や失望を繰り返しながら、音楽は発展を遂げてきた。変化する多様な心理を結束へと導き、精神を宿らせてきたのも音楽である。より明解なものを求める現代において、一層音楽の中に言葉を持つことが求められている。

ピアノ新時代にふさわしい音楽と言葉の統合を担っていけるような演奏家の育成と、自身の研鑽を積んでいきたいと思う。



2021年5月 足利市民会館 大ホール



感染予防策を実施した客席

## Program Note

前半のプログラムはリクエストのあった曲を入れ、ベートーヴェン月光からスタートします。昨年生誕 250 年を迎えたベートーヴェンですが、その込められたメッセージは世界中の人が改めて感じる年にもなりました。本日は、私が日々ドイツを感じる音楽への思いなどをお話しながら進めて参りたいと思います。

後半は大曲、リスト“ピアノソナタロ短調”を演奏します。リストの作品でこれほどまでにドイツの世界観が見出される曲も他にありませんが、演奏者にとっては挑戦でもあります。たじまより YouTube チャンネルにもいくつか解説を投稿してきましたが、これは“ゲーテファウスト”の回想ではないかという視点からこの曲の意図を探りました。“長くて厭くなる曲”という印象もありますが、それもそのはず、この作品はそのように作られています。まるで天空のスピリットのような世界を表現しており、リスト自身も人の潜在意識を音で動かすような魔術にとっても興味を持っており、そういった音を駆使しています。

初めて聴く方もいらっしゃると思いますが、この曲をより楽しんでいただけるように名場面ともいえるシーンを記述しておきます。

まず、弾き始めたら休みなく 35 分くらいかかるこの大作ですが、“ファウスト”の全体のあらすじを渡ったものではありません。部分的な場面を組み合わせてひとつの曲となっています。リストはオペラの名場面を“回想”として曲にしていますがこのソナタもそれと同じような作風といえるでしょう。

ドイツのヴァルトブルグ城にマルティン・ルターが聖書を翻訳していた部屋がありますが、そこには悪魔の存在を感じたルターが壁に投げつけたインクの染みが残っています。ゲーテもルターも、悪魔として捉えていたもの（イメージ）は同じような感じがしますが、リストもやはり同様で、その雰囲気はこの曲の冒頭で感じることができます。

人生に失望した老人ファウストの姿を物陰からひっそりとみる悪魔メフィスト。ファウストの失望は悪魔に魂を売ることさななんの躊躇もないほどで、メフィストはすぐに彼の前に姿を現し誘惑する場面に前半に現れます。どんな願いも叶う、どんな力も、どんな幸せも手にできる人生を約束しようと言いつけるメフィスト。曲のほとんどはメフィストの視点で書かれており、また魂の契約を結ぶ場面は曲の中央部に書かれています。悪劇を生み出すのに十分な大地の暗りも響きます。またファウストとメフィストが一体となって展開していく悪劇は、その場境を表現する手法としてリストは中間部に静寂の場面を用いています。

絶対的な真理への憧れを抱いてききれないファウストの心を映すかのように、疲弊困憊したファウストの頭上にも淡々と夜空の星が輝くシーンが続きます。その静寂は人の心を往來する悪魔とのコントラストを際立たせており、この曲の醍醐味となっています。

後半は「ワルブルグスの夜」と呼ばれる魔界の祭りのシーンがあり、狂乱の渦を呼び起こします。そして、最終章は献身的な祈りに包まれながら、ファウストがこの世で息を引き取るまでの姿が描写されていると考えられます。

“向こう見ずは力であり、魔法だ” これはゲーテの言葉です。さて、今日の演奏にも、“向こう見ず”という魔法がかかるでしょうか。壮大なゲーテ文学とロマン派ピアノの音楽の融合をお楽しみください。

## Special Message

「お帰りなさい恵理ちゃん」

出国前から煩雑な手続きを経て 11 時間のフライト、羽田での入国審査は一日掛かり、その後都内で 3 日間の隔離。来日を予定しているバレンボイムと同居？と冗談で話しても、加えて 2 週間の自宅待機。フラックフルトを出発して 20 日余、ようやくお会いできました。

お帰りなさいの言葉で ~1990 年桐朋学園大学卒業直後のデビューリサイタル以降、高校音楽科教員勤務 3 年を経て帰国と留学し、ドイツ演奏家国家資格を得てからこれまでに ~ 何度お迎えしたことでしょう。足利での数々の公演、東京文化会館や王子ホール、紀尾井でのベートーヴェンシリーズ開始まで、辿ってみたら 2 年に 1 回のペースで帰国公演をされてきたことに気付きました。さらにヨーロッパ各地での公演を含めると、現地で立派に子育てをしつつ何と精力的な活動を、と感心するばかりです。

今回は、市民会館とのフェアウェルへ、コロナ禍で困難な渡航をいとわずに帰郷。本日の客席には足利の常演の方に加えて、YouTube を駆使したドイツ発信の演奏や音楽論にファンとなり、こうした行動に大いに勇気を得て、感銘を受けた遠方の方もお見えです。

そしてこのプログラムには、別れを告げるホールへのオマージュが見て取れます。後半のリストのピアノソナタ、恵理さんが多くのレパートリーの中から選りすぐりの名曲を決めたことに、主催・共催者の深い理解と、本日のお客様の造詣の深さが分かります。これこそが、55 年の長きに亘り最上級の音楽鑑賞教室で子ども達を育て、N 響定期を成功させ、小沢征爾や佐渡裕を惹き付けてきた「足利市民会館の力」と実感します。

今日は恵理さんの持ち前の聡明さとしなやかに、ヨーロッパで培われた伝統が息づく演奏へ、ホールに記憶された幼少時の音も舞い込み、皆さんからの声援も加わって、特別な響きも聴こえてくることでしょう。きっとホールとのお別れより、新たな息吹を与えられ、次への「築き」に向かう力を得られる公演になると期待しています。

宇都宮短期大学副学長  
PIANO ANDARE 代表 吉井文子

プログラムノートは初めて  
リストソナタを聴く人が多い  
ことを想定し執筆した。

100  
Anniversary  
En Tsubasa  
Piano Recital  
2021  
田島恵理  
ピアノリサイタル  
2021.5/23(日)  
15時開演(14時開場)  
足利市民会館大ホール  
全席自由 2,000円  
PROGRAM  
Liszt: Piano Sonata in A minor  
Liszt: Piano Sonata in E major



ピアノ 田島 恵理(たじまえり) 宇都宮短期大学特別講師



足利市出身、フランクフルト在住。

これまでに直井文子、笠間春子、小島準子、A.アルニム、V.ロバノフの各氏に師事。第41回全日本学生音楽コンクール第3位入賞。

桐朋学園大学卒業後、初リサイタル開催。イタリアチェルボ音楽祭にてゲーリングス指揮によるショパンピアノ協奏曲第2番を演奏。ドイツに渡りドルトムント音大、ケルン音大で研鑽を積む。第47回マリアカナルス国際コンクールでディプロマ賞受賞。カントゥー国際コンクールファイナリスト。ドイツ演奏家国家資格を取得。

故郷足利を中心に国内でも活動を開始。足利フラワーパークニューイヤーコンサート、足利市民プラザアーティストシリーズ、足利交響楽団定期演奏会のソリストとしてベートーヴェンピアノ協奏曲第4番('06)。N響メンバーと市内小学校の音楽鑑賞会。ヴィルトゥオーゾカルテット(斉藤真知亜、大宮臨太郎、店村眞澄、藤森亮一)とドヴォルザークピアノ五重奏曲('07)。ピアノリサイタル『回想～そして再び』を東京銀座王子ホールと足利市民プラザ文化ホールにて('09)。ピアノリサイタル『ラ・カンパネラ』を足利市民会館大ホールとベヒシュタインセンター(フランクフルト)にて('12)。N響メンバーとプレミアムコンサート('16)。足利カンマーオーケスター第10回定期演奏会のソリストとして田中祐子指揮グリーグピアノ協奏曲('17)。大宮臨太郎カルテットと東京文化会館(小)にてシューマンピアノ五重奏曲他を共演('18)。ベートーヴェンピアノソナタシリーズ1紀尾井サロンホール('19)。田島恵理ピアノリサイタル 足利市民会大ホール('21)。

現在、ドイツフランクフルトに拠点をおき、国内でも東京や神奈川および故郷の栃木県を中心に音楽活動を展開。宇都宮短期大学特別講師として、2022年2月に「～ドイツでの学び～特別授業」9月には「～ドイツ便り～レクチャー&演奏会」を予定。



2017年5月 足利市民プラザ文化ホール



2018年8月 東京文化会館(小)ホール

## 宇都宮短期大学音楽科 特別演奏会等記録 (2021年)

第145回特別演奏会 2021.5.29 須賀友正記念ホール  
(リカレントのためのピアノ研修会 今井顕ワークショップ)

第1回「モーツァルトの楽譜」

2014年に発見されたソナタ A-Dur の自筆譜断片

○ピアノソナタ第11番、同第12番から

今井顕 (レクチャーと Pf)

第146回特別演奏会 2021.7.10 須賀友正記念ホール  
(リカレントのためのピアノ研修会 今井顕ワークショップ)

第2回「ベートーヴェンの楽譜」

自筆楽譜の誤読から生じたピアノ協奏曲第4番をめぐって

○ピアノソナタ第14番「月光」、同第31番、ピアノ協奏曲第4番から

今井顕 (レクチャーと Pf)

第147回特別演奏会 2021.7.17 須賀友正記念ホール  
(宇都宮短期大学音楽科ピアノ科新任教員による Piano Fresh Concert)

①ドビュッシー／前奏曲 第1集「デルフィの舞姫」、第2集「オンディーヌ」、  
第1集「沈める寺」、第2集「花火」

②プロコフィエフ／4つの練習曲 op2

③リスト／愛の夢第3番

④ショパン／バラード第1番ト短調 op23

⑤シューベルト／楽興の時 op94 D780 から第1番、第2番、第3番

⑥ショパン／マズルカ第13番イ短調 op17-4

⑦シューマン／アラベスク ハ長調 op18

吉原麻実 (Pf) ①② 齋藤文香 (Pf) ③④ 落合佐紀 (Pf) ⑤⑥⑦

第148回特別演奏会 2021.8.21 須賀友正記念ホール  
(宇都宮短期大学教員 & 学生による 電子オルガン Fresh Concert)

①J. ウィリアムス／「スター・ウォーズ」メドレー

石崎愛佳 辻沙耶佳

②井口大夢／problem solving

井口大夢 齋藤みすず

③ピアソラ／リベルタンゴ

井口大夢 中島望

④サン＝サーンス／交響曲第3番「オルガン付き」第2楽章から マエストロソ

木滑友子 井上まどか

⑤チャイコフスキー／幻想序曲「ロメオとジュリエット」

井上まどか

⑥井上まどか／The Atmosphere ～ for Electronic Organ ～

井上まどか 木滑友子

⑦ガーシュウィン／ラブソディー・イン・ブルー

井口大夢

- ⑧中島望／with all my heart  
小林由依 中島望

**第 149 回特別演奏会 2021.9.4 須賀友正記念ホール**  
(リカレントのためのピアノ研修会 今井顕ワークショップ)

第 3 回「バッハの楽譜」

ト音記号は使われなかった？ バロック時代の慣習  
今井顕 (レクチャーと Pf)

**第 150 回特別演奏会 2021.10.2 須賀友正記念ホール**  
(菅原望ピアノリサイタル)

- ①ドビュッシー／ベルガマスク組曲より「月の光」
- ②ラヴェル／マメールロワ (シャーロットによるピアノ独奏版)
- ③セヴラック／演奏会用華麗なるワルツ「ペパーミントジェット」
- ④ラフマニノフ／前奏曲嬰ハ短調 op3-2「鐘」
- ⑤ラフマニノフ／交響曲第 2 番ホ短調 op27 第 3 楽章「アダージョ」  
(キルコールによるピアノ独奏版)
- ⑥リスト／死の舞踏 s.525 (ピアノ独奏版)  
菅原望 (Pf)

**第 151 回特別演奏会 2021.1.22 須賀友正記念ホール**  
(リカレントのためのピアノ研修会 今井顕ワークショップ)

第 4 回「ショパンの楽譜」

幻想即興曲の真の姿—親友フォンタナのおせっかい  
今井顕 (レクチャーと Pf)

**第 152 回特別演奏会 2022.2.11 須賀友正記念ホール**  
(第 6 回リカレント教育のためのピアノ研修会)

「自由の翼を持つために！ シンフォニアで良い趣味と技を学ぶ」

- J . S . バッハの「シンフォニア」について
- ① J . S . バッハ／赤松林太郎編／主よ人の望みの喜びよ
- ② J . S . バッハ／ジロティ編／前奏曲ロ短調
- ③ J . S . バッハ／ケンプ編／ラルゴ (チェンバロ協奏曲第 5 番より)
- ④ ショパン／ロマンス (ピアノ協奏曲第 1 番より)
- ⑤ ショパン／ポロネーズ第 6 番 op53「英雄」
- 公開レッスン  
赤松林太郎 (レクチャーと Pf)



## 宇都宮短期大学音楽科研究紀要編集規定

- 第1条 宇都宮短期大学音楽科研究紀要（以下「本誌」とする）は、本学科における教育、研究の成果を広く社会に問うことを目的として、これを発刊する。
- 第2条 発行者は学長とする。
- 第3条 本誌は、原則として年1回、3月に刊行する。
- 第4条 本誌の編集ならびに刊行は、宇都宮短期大学研究・図書委員会（以下「委員会」とする）が行う。
- 2 委員から本誌の編集部会担当者を選定する。
  - 3 編集部会は必要に応じて随時開催される。
- 第5条 本誌は次の者の論文等を掲載する。
- 本学科の教員が執筆したもの。
- その他編集部会が掲載を認めたもの。
- 第6条 投稿予定者は、7月末日までに氏名、原稿種別、予定原稿量等を申込用紙に記し、編集部会に提出する。
- 第7条 原稿締め切り日は12月10日とする。（なお、学事暦により変更する場合がある。）
- 第8条 原稿は完成原稿を編集部会に提出し、原則として提出後の変更は不可とする。
- 第9条 投稿原稿の内容については、執筆者が一切の責任を負うものとする。
- 第10条 編集部会は、編集の都合等により、投稿原稿の修正を求めることができる。
- 第11条 別刷りは50部を無料で作成する。それを超える分については執筆者の負担とし、投稿申込時に編集部会に届け出る。
- 第12条 投稿原稿の種類は次のものとし、申込用紙に明記する。
- 論 文：新しい事実で価値のある結論や知見を示した報告。及びこれに準じる研究調査報告、アナリゼ、演奏法における独創的メソッドの開示など。
- 研究ノート：新しい事実を含む価値ある情報を示した短い報告。及びこれに準じる研究調査概況報告、アナリゼの覚書、演奏法における独創的メソッドの覚書など。
- 作 品：専門分野における創作、作曲、楽器改良の新知見など。
- 翻 訳：外国の論文、研究ノート、作品などの翻訳。
- 抄 録：既に刊行された著者自身の業績の要約など。
- 資料紹介：第1次資料の発掘や紹介など。
- 論評と批評：教育・研究に従事するなかで得られた貴重な知見の披瀝や書評、CD評、楽譜評、ビデオ評。研究的・公開的な演奏会の批評。
- 報 告：教育上の実践報告や調査報告、研修報告など。
- 動向と展望：学会や音楽動向の紹介・展望、研究情報など。
- 第13条 論文、研究ノート、報告、作品は原著で未発表ものに限る。なお、本誌掲載以後の著作権は執筆者に属する。

第14条 校正は2校までとし、総て執筆者の責任で行う。原稿は初稿時に執筆者に返却する。

体裁その他のことは、編集部会が行う。

第15条 完成原稿の書式は以下のとおりとする。

- (1) 判型はA4版とし、1ページの文字数と行数は40字×39行とする。
- (2) フォントはMS明朝、10.5ptとし、表題のみ13ptとする。
- (3) 1行目に表題、3行目に英文タイトル、5行目に執筆者名、7行目から本文を始める。なお、サブタイトルがある場合は、1行ずらすこと。また、表題が2行にわたる場合なども同様とする。
- (4) 図表については、他のソフトで作成するか、スキャナーで読み込むなどして添付する。
- (5) 文献リストは、著者名、発行年、書名(題名)、出版社、ページの順とし、9ptとする。
- (6) 作品は図表と同じ扱いとする。ただし、写植か版下を起こすかの別は、編集部会に届け出る。
- (7) 句読点、括弧、各種記号は、原則として1文字分とする。
- (8) 註あるいは引用註は、原則として原稿末尾に一括して(1)、(2)、…のように挿入する。

〔例〕【本文中】 ……の分析は適切であるといえる。(5)

【原稿末尾】(5)加納良子(1986)『音楽の構想』小海出版、124～125頁

附則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

## 執筆者一覧（掲載順）

阿久澤政行 本学専任講師（ピアノ、指揮法）  
福田智久山 本学講師（邦楽）  
杉山 正明 本学教授（教育）  
益子 徹 本学准教授（ピアノ、ソルフェージュ）  
鎌田 亮子 本学専任講師（声楽）  
坪山 恵子 本学講師（ピアノ）  
田島 恵里 本学特別講師（ピアノ）

## 音楽科研究紀要編集部会

杉 山 正 明（部会長）  
阿久澤 政 行

## 編 集 後 記

コロナ禍も約2年が経過し、演奏会やコンクール等の音楽活動はもとより、学校における音楽教育活動にも大きな影響が及んでいます。こうした状況の中、音楽関係者の音楽への情熱や御尽力には頭の下がる思いです。少しでも早い時期に通常の状態に復帰できることを祈っております。

さて、本年度も積極的な投稿をいただきました。執筆の御苦勞に感謝申し上げるとともに、次年度以降も奮って投稿いただけることを期待いたします。

(編集部会長 杉山 正明)

令和4(2022)年3月31日発行  
発行者 宇都宮短期大学学長 須賀英之  
編集者 研究・図書委員会  
発行所 宇都宮短期大学  
〒321-0346  
宇都宮市下荒針町長坂 3829  
電話 028(648)2331  
印刷所 (株)松井ピ・テ・オ・印刷  
宇都宮市陽東5-9-21  
電話 028(662)2511

# BULLETIN OF UTSUNOMIYA JUNIOR COLLEGE

vol. 29  
March 2022

---

## CONTENTS

### Work:

Tsutaetai oto

– Works for violin and piano – ..... Masayuki Akusawa

About the small piece "Yatagarasu" to connect the tradition to the future by the lecturer of the Japanese music department of Utsunomiya Junior College, which has the only Japanese music department in the prefecture ..... Chikuzan Fukuda

### Translation:

Donizetti "Maria de Rudenz" Italian - Japanese libretto ..... Masaaki Sugiyama

### Notes for Studies:

Utilization practice and invention of the "ICT" in music course ..... Tetsu Mashiko

History and fascinations of Spanish Songs ..... Ryoko Kamata

Study of Saint-Saëns – ..... Keiko Tsuboyama

A New Era for Pianists is Coming. Do We Need Language in Music Activity?

My Answer to This Question Considering

My 25 Years in Germany after the Konzertexamen ..... Eri Tajima

---

List of Publications and Performances by the Faculty

List of Special Performances

PUBLISHED  
BY  
UTSUNOMIYA JUNIOR COLLEGE  
MUSIC DEPARTMENT